

基本計画書

基本計画												
事項	記入欄								備考			
計画の区分	学部の学科の設置											
フリガナ設置者	ガクコホクシン フクハラガクエン 学校法人 福原学園											
フリガナ大学の名称	キョウシヨウジ ヨシダ イガク 九州女子大学 (Kyushu Women's University)											
大学本部の位置	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番1号											
大学の目的	本学は、教育基本法に則り学校教育法の定めるところにより広く知識を授けると共に、深く専門の学術を教授研究し、応用的能力展開と人格の完成に努め、我が国の文化の高揚発展に貢献する高い知性と豊かな情操を有する女性の育成を目的とする。											
新設学部等の目的	学是「自律処行」の理念に立脚し、人間発達学科は、人間が豊かに暮らす社会・文化を創造する広い視野と学際的教養及び人間の発達についての専門的知識と技能を身につけ、乳幼児から高齢者に至るまで全世代の人々、及び障害者が豊かに共生しうる地域社会を創造・実現していく専門的職業人を育成することを目的とする。											
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地				
	人間科学部 「Faculty of Human Sciences」 人間発達学科 「Department of Human Development」	年	人	年次人	人		年月 第年次	福岡県北九州市 八幡西区 自由ヶ丘1番1号				
	人間発達学専攻 「Course of Human Development」	4	130	—	520	学士（文学）	平成22年4月 第1年次					
	人間基礎学専攻 「Course of Principal Human Sciences」	4	60	3年次 40	320	学士（文学）	平成22年4月 第1年次 平成24年4月 第3年次					
計		190	40	840								
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<ul style="list-style-type: none"> ・人間科学部（廃止） 人間発達学科 (△100) 人間文化学科 (△ 80) ※平成22年4月学生募集停止 ・平成22年4月 人間科学部人間発達学科の設置に伴う収容定員増（平成21年3月認可申請済み） 											
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数						
		講義	演習	実験・実習	計							
	人間科学部人間発達学科 人間発達学専攻	115科目	66科目	16科目	197科目	124単位						
人間科学部人間発達学科 人間基礎学専攻	134科目	53科目	23科目	210科目	124単位							
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		教員数については、延べ人数ではなく実数を記載している。 平成22年度より 共通教育機構を 設置	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手			
	新設	人間科学部 人間発達学科人間発達学専攻			5 (3)	5 (2)	8 (3)	0 (0)	18 (8)	0 (0)		39 (19)
		人間基礎学専攻			5 (5)	5 (5)	2 (1)	0 (0)	12 (11)	0 (0)		33 (17)
		計			10 (8)	10 (7)	10 (4)	0 (0)	30 (19)	0 (0)		50 (20)
	既設	家政学部 人間生活学科			3 (3)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	3 (3)		41 (40)
		栄養学科			8 (8)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	16 (16)	6 (6)		30 (29)
		共通教育機構			7 (7)	6 (6)	1 (0)	0 (0)	14 (13)	0 (0)		0 (0)
		計			18 (18)	14 (14)	6 (5)	0 (0)	38 (37)	9 (9)		50 (49)
	合計			28 (26)	24 (21)	16 (9)	0 (0)	68 (56)	9 (9)	85 (55)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		27 (27)	18 (18)	45 (45)				
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	1 (1)	3 (3)				
	そ の 他 の 職 員		3 (3)	0 (0)	3 (3)				
	計		32 (32)	19 (19)	51 (51)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	0㎡	35,554.95㎡	0㎡	35,554.95㎡	九州女子短期大学と共用			
	運 動 場 用 地	0㎡	30,232.41㎡	0㎡	30,232.41㎡				
	小 計	0㎡	65,787.36㎡	0㎡	65,787.36㎡				
	そ の 他	0㎡	33,818.55㎡	0㎡	33,818.55㎡				
合 計	0㎡	99,605.91㎡	0㎡	99,605.91㎡					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	九州女子短期大学と共用				
	0㎡ (0㎡)	43,824.53㎡ (43,824.53㎡)	0㎡ (0㎡)	43,824.53㎡ (43,824.53㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	45室	63室	102室	6室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数		大学全体			
	人間科学部人間発達学科			30 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学術雑誌、電子ジャーナルについては、大学全体で共用 大学全体での共用分 学術雑誌 9,398冊 (6,464冊) 電子ジャーナル 7,094冊 (6,137冊)	
	人間科学部人間発達学科	126,440[12,321] (123,622[12,276])	9,398[419] (6,464[323])	7,094[2,070] (6,137[2,049])	899 (748)	5,717 (3,859)	26 (10)		
	計	126,440[12,321] (123,622[12,276])	9,398[419] (6,464[323])	7,094[2,070] (6,137[2,049])	899 (748)	5,717 (3,859)	26 (10)		
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体	
	2,893.77㎡		384席		206,167冊				
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	5,503.46㎡		テニスコート5面 ゴルフ練習場						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書（視聴覚資料含む）購入費には、雑誌、購読料、データベースを含む。
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	300千円	300千円	—	—	
		共同研究費等	3,500千円	3,500千円	3,500千円	3,500千円	—	—	
		図書購入費	7,064千円	6,897千円	6,680千円	6,091千円	6,091千円	—	
	設備購入費	8,319千円	2,318千円	2,278千円	1,190千円	1,190千円	—	—	
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,200千円	940千円	940千円	940千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			学納金以外の収入は、手数料、補助金、資産運用収入を基本として計画している。						大学全体
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	九州女子大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	家政学部	年	人	年次人	人		倍		北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 ※平成22年度より学生募集停止予定(人間文化学科、人間発達学科)
	人間生活学科	4	40	—	160	学士(家政学)	0.99	平成13年度	
	栄養学科	4	90	—	360	学士(家政学)	0.72	平成13年度	
人間科学部									
人間文化学科	4	80	—	320	学士(文学)	0.93	平成17年度		
人間発達学科	4	100	—	400	学士(文学)	0.74	平成17年度		

既設大学等の状況	大学の名称	九州女子短期大学							※平成23年度より学生募集停止予定(養護教育科、初等教育科)		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地	
	養護教育科	2	100	—	200	短期大学士(教育学)	0.69	昭和37年度		北九州市八幡西区 自由ヶ丘1-1	
	初等教育科	2	100	—	200	短期大学士(教育学)	0.81	昭和41年度			
	専攻科養護教育学専攻	2	20	—	40	—	0.63	平成15年度			
	大学の名称	九州共立大学								※平成21年度より学生募集停止(経済学科、経営学科) ※平成20年度より学生募集停止(メカトロニクス学科、情報学科、環境土木工学科、建築学科) ※平成19年度より学生募集停止(環境サイエンス学科、生命物質化学科) ※平成22年度より学生募集停止予定(機械生産システム工学専攻、電子情報工学専攻、都市システム工学専攻、環境システム工学専攻) ※平成21年度より学生募集停止(機械電子システム工学専攻、環境・都市システム工学専攻)	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			所在地
	経済学部	年	人	年次人	人		倍				北九州市八幡西区 自由ヶ丘1-8
	経済・経営学科	4	400	—	400	学士(経済学)	0.71	平成21年度			
	経済学科	4	—	—	—	学士(経済学)	—	昭和40年度			
経営学科	4	—	—	—	学士(経済学)	—	昭和43年度				
工学部						—					
メカトロニクス学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度				
情報学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度				
環境土木工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和42年度				
建築学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和42年度				
環境サイエンス学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和54年度				
生命物質化学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	昭和54年度				
スポーツ学部						1.19					
スポーツ学科	4	250	—	950	学士(スポーツ学)	1.19	平成18年度				
工学研究科						0.46					
博士前期課程						0.24					
機械生産システム工学専攻	2	6	—	12	修士(工学)	0.24	平成13年度				
電子情報工学専攻	2	6	—	12	修士(工学)	0.45	平成13年度				
都市システム工学専攻	2	7	—	14	修士(工学)	0.53	平成13年度				
環境システム工学専攻	2	6	—	12	修士(工学)	0.58	平成13年度				
博士後期課程						—					
機械電子システム工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成15年度				
環境・都市システム工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成15年度				
附属施設の概要	附属図書館 昭和58年設置 2,893.77㎡										

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(人間科学部 人間発達学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
第1群：人文・社会・芸術科目	日本の文学	1・2前		2		○										
	世界の文学	1・2後		2		○										兼1
	日本語表現法Ⅰ(文章)	1前	2			○			1	3						兼1
	日本語表現法Ⅱ(論文・レポート)	2後		2		○			1	2						兼1
	芸術を楽しむ	1・2前		2		○										兼1
	社会生活と倫理	1・2後		2		○										兼1
	文化人類学入門	1・2前		2		○										兼1
	近現代の歴史	1・2前		2		○										兼1
	生活と文化	1・2後		2		○										兼1
	日本国憲法	1・2前・後		2		○										兼1
	法と生活	1・2前		2		○										兼1
	国際問題と政治	1・2後		2		○										兼1
	暮らしと経済	1・2前		2		○										兼1
	社会学入門	1・2後		2		○										兼1
	ジェンダーと社会(人権を含む。)	1・2前		2		○										兼1
	日本人論	1・2前		2		○					1					兼1
	情報文化論	1・2後		2		○			1							兼1
	異文化交流	1・2・3・4前・後		2				○	1							集中
	文学表現と書道	1後		2		○				1						兼1
	英語による日本文化	2後		2		○										兼1
書写書道Ⅰ	2前		1				○								兼1	
書写書道Ⅱ	2後		1				○			1					兼1	
同和教育	1前・後		2		○										兼1	
第2群：健康・自然科目	生涯スポーツ	1前・後		1				○								兼4
	健康の科学	1前・後		2		○					1					兼1
	心の科学	1・2前		2		○										兼1
	健康と栄養	1・2後		2		○										兼2
	環境と人間	1・2後		2		○										兼1
	生命科学	1・2前		2		○										兼1
	宇宙の科学	1・2後		2		○										兼1
第3群：外国語・情報科目	総合英語Ⅰ-A	1前	1				○									兼2
	総合英語Ⅰ-B	1後	1				○									兼2
	総合英語Ⅱ-A	2前		1			○									兼2
	総合英語Ⅱ-B	2後		1			○									兼2
	英語コミュニケーションⅠ-A	2前	1				○									兼2
	英語コミュニケーションⅠ-B	2後	1				○									兼2
	英語コミュニケーションⅡ-A	3前		1			○									兼2
	英語コミュニケーションⅡ-B	3後		1			○									兼2
	TOEICⅠ	1前		1			○									兼1
	TOEICⅡ	2前		1			○									兼1
	英語ゼミナル	4前		1			○									兼1
	フランス語Ⅰ	1・2前		1			○									兼1
	フランス語Ⅱ	1・2後		1			○									兼1
	中国語Ⅰ	1・2前		1			○									兼2
	中国語Ⅱ	1・2後		1			○									兼2
	韓国語Ⅰ	1・2前		1			○									兼1
	韓国語Ⅱ	1・2後		1			○									兼1
情報処理演習Ⅰ-A	1前	1				○		1							兼1	
情報処理演習Ⅰ-B	1後	1				○		1							兼1	
情報処理演習Ⅱ-A	2前		1			○		1							兼1	
情報処理演習Ⅱ-B	2後		1			○		1							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	第4群：キャリア支援科目 キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ キャリアデザインⅤ キャリアデザインⅥ キャリアデザインⅦ キャリアデザインⅧ	1前	1				○		2	2	1			兼5		
		1後	1				○		2	2	1			兼5		
		2前	1				○		4	1				兼5		
		2後	1				○		4	1				兼5		
		3前	1				○							兼5		
		3後	1				○							兼5		
		3・4前		1			○							兼3		
		3・4後			1		○							兼2		
	小計 (59科目)	—	14	72	0	—			6	5	2	0	0	兼32	—	
共通科目	人間学概論	1前		2		○								兼1	オムニバス	
	文学概論	1後		2		○								兼3		
	日本文化論	1前		2		○			1							
	言語学概論	1後		2		○								兼1		
	多文化理解	1前		2		○				2				兼1		
	心理学概論	1前		2		○				1						
	発達心理学	1前		2		○				1						
	文化心理学	1後		2		○								兼1		
	社会心理学	1後		2		○								兼1		
	健康心理学	1後		2		○				1						
小計 (10科目)	—	0	20	0	—			0	3	3	0	0	兼7	—		
専門教育科目	基礎科目 児童発達	国語科教育概論(書写を含む。)	1前		2		○									
		算数科教育概論	1後		2		○		1							
		生活科教育概論	1後		2		○				1					
		社会科教育概論	1後		2		○					1				
		図画工作	1後		2			○				1				
		理科教育概論	2前		2		○					1				
		家庭科教育概論	2前		2		○					1				
		体育	2後		2			○				1				
		器楽基礎	2前		2			○			1	1				
		声楽基礎	2後		2			○								
	乳幼児発達 (人間発達学専攻)	保育原理Ⅰ	1前		2		○			1						
		保育原理Ⅱ	1後		2		○			1						
		児童福祉Ⅰ	1前		2		○					1				
		児童福祉Ⅱ	2後		2		○				1					
		小児保健Ⅰ	1後		2		○					1				
		小児保健Ⅱ	2前		2		○					1				
		保育内容(言葉)	1後		2			○								
		保育内容(人間関係)	2前		2			○			1					
		養護原理	2前		2		○				1					
		社会福祉原論	2前		2		○									
特別支援教育	障害児心理学	1後		2		○										
	障害者教育総論Ⅰ	1前		2		○				1						
	障害者教育総論Ⅱ	1後		2		○				1						
	病弱教育	2前		2		○										
	知的障害者の心理・生理・病理	2後		2		○					1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
基礎科目 専門教育科目 (人間基礎学専攻)	心理学	学習心理学	1前	2		○									兼1
		臨床心理学	1後	2		○				1					兼1
		知覚心理学	2前	2		○									兼1
		学校心理学	2前	2		○				1					兼1
		心理データ解析法Ⅰ	2前	2				○							兼1
		心理データ解析法Ⅱ	2後	2				○							兼1
		心理学実験実習Ⅰ	2前	2					○	1	1				兼1
		心理学実験実習Ⅱ	2後	2					○	1	1	1			兼1
		認知心理学	2後	2			○								兼1
		コミュニケーション概論	3前	2			○			1					
	カウンセリング概論	3前	2			○				1					
	国語・書道	楷書法Ⅰ	1前		1				○		1				
		楷書法Ⅱ	2前		1				○		1				
		行草書法Ⅰ	1後		1				○						兼1
		行草書法Ⅱ	2後		1				○		1				
		日本古典文学史Ⅰ	1前		2		○				1				
		日本古典文学史Ⅱ	1後		2		○				1				
		日本語学概論(音声言語を含む。)	1前		2		○								兼1
		書道表現研究	2前		1			○			1				兼1
		日本近現代文学史Ⅰ	2前		2		○			1					
		日本近現代文学史Ⅱ	2後		2		○			1					
	中国文学史	2後		2		○								兼1	
	図書館・情報	情報科学概論	1前		2		○			1					
		図書館概論	1前		2		○			1					
		情報社会と倫理	1後		2		○			1					
		情報社会論	2前		2		○			1					
		情報経営学概論	2前		2		○								兼1
		生涯学習概論	2後		1		○								兼1
		アルゴリズムとプログラム	3前		2		○			1					
		情報と職業	3前		2		○			1					
レファレンスサービス演習		3前		1			○			1					
メディア表現研究		3前		1			○			1					
小計(60科目)	—	0	112	0	—	—	—	8	9	9	0	0	兼22	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 （人間発達学専攻）	児童発達	国語科指導法		2			○			1					兼1	
	社会科指導法			2			○									
	算数科指導法			2			○		1							
	理科指導法			2			○				1					
	図画工作指導法			2			○				1					
	生活科指導法			2			○				1					
	家庭科指導法			2			○				1					
	体育科指導法			2			○				1					
	音楽科指導法			2			○								兼1	
	器楽応用			2			○			1	1				兼5	
	児童英語概論			2			○								兼1	
	児童英語指導法			2				○							兼1	
	造形演習			2				○				1			兼1	
	基幹科目	乳幼児発達	教育課程・保育計画総論		2			○								兼1
		乳児保育			2			○					1			
		小児栄養			2			○					1			
		小児保健実習			1				○				1			
		保育内容(音楽表現)			2				○		1					
		保育内容(造形表現)			2				○				1			
		保育内容(健康)			2				○				1			
		保育内容(環境)			2				○				1			
		精神保健			2			○					1			
		家族援助論			2			○					1			
		障害児保育			2				○		1					
		リミック			2				○							兼1
		養護内容			2				○			1				
		保育実習・事前事後指導			1				○			1	2			
		保育所実習Ⅰ			2					○			2			集中
		保育所実習Ⅱ			2					○			2			集中
		施設実習Ⅰ			2					○		1				集中
		施設実習Ⅱ			2					○		1				集中
		保育相談論(カウンセリングを含む。)			2				○			1				
		子育て支援演習			2					○						兼1
		特別支援教育	知的障害者教育		2			○				1		1		
		発達援助の技法			2			○				1				
		肢体不自由者の心理・生理・病理			2			○					1			
	肢体不自由者教育			2			○					1				
	肢体不自由者支援学			2			○					1				
	軽度発達障害教育総論			2			○			1						
	病弱者の心理・生理・病理			2			○			1						
	障害者の病理・保健			2			○			1						
	知的障害者支援学			2			○			1						
	視覚障害教育総論			2			○					1			兼1	
	聴覚障害教育総論			2			○						1			
	重複障害教育総論			2			○				1					
基幹科目	心理学	社会調査法		2			○								兼1	
	社会調査法演習			1				○							兼1	
	心理検査法			2				○				1				
	教育工学			2			○								兼1	
	家族心理学			2			○								兼1	
	心理測定法Ⅰ			2				○		1						
	心理測定法Ⅱ			2				○		1						
	行動科学研究法			2				○							兼1	
	感性科学			2				○							兼1	
	カウンセリング技法Ⅰ			2					○			1				
	カウンセリング技法Ⅱ			2					○				1			
	生理心理学			2				○							兼1	
	精神医学			2				○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基幹科目 (人間基礎学専攻) 専門教育科目	日本語古典文法	2前		2		○									兼1	
	日本語口語文法	2後		2		○									兼1	
	日本近現代文学Ⅰ	3前		2		○			1							
	日本近現代文学Ⅱ	3後		2		○			1							
	漢文学Ⅰ	3前		2		○									兼1	
	漢文学Ⅱ	3後		2		○									兼1	
	日本語史	3後		2		○									兼1	
	篆隸書法Ⅰ	3前		1				○							兼1	
	篆隸書法Ⅱ	4前		1				○		1					兼1	
	仮名書法Ⅰ	3前		1				○							兼1	
	仮名書法Ⅱ	4後		1				○		1						
	日本書道史	3後		2		○				1						
	中国書道史	3前		2		○									兼1	
	鑑賞	3後		2		○				1						
	書論	3前		2		○				1						
	日本古典文学Ⅰ	3前		2		○				1						
	日本古典文学Ⅱ	3後		2		○				1						
	漢字仮名交じり書法Ⅰ	3前		1				○							兼1	
	漢字仮名交じり書法Ⅱ	4後		1				○							兼1	
	マルチメディア処理論	2前		2		○					1					
	マルチメディア処理演習(実習を含む。)	2後		1			○				1					※実習
	情報ネットワーク	2前		2		○				1						
	情報ネットワーク演習(実習を含む。)	2後		1			○			1						※実習
	データ処理論	2前		2		○				1						
	データ処理演習(実習を含む。)	2後		1			○			1						※実習
	社会情報学特講	3後		2		○				1						
	情報処理技術	3前		2		○					1					
	情報処理実習	3後		2				○			1					
	資料組織演習Ⅰ	2後		1			○								兼1	
	資料組織演習Ⅱ	3後		1			○								兼1	
	資料組織概説	2前		2		○									兼1	
	情報サービス概説	3前		2		○				1						
	情報検索演習	3後		1			○			1						
専門資料論	4後		1		○				1							
児童サービス論	4後		1		○									兼1		
小計(93科目)		—	0	169	0			—	6	9	9	0	0	兼27	—	
卒業研究	卒業研究演習Ⅰ	3前	1				○		10	10	10					
	卒業研究演習Ⅱ	3後	1				○		10	10	10					
	卒業研究演習Ⅲ	4前	1				○		10	10	10					
	卒業研究演習Ⅳ	4後	1				○		10	10	10					
	卒業研究論文	4通	4				○		10	10	10					
小計(5科目)		—	8	0	0		—	10	10	10	0	0	0	0	—	
臨地科目	フィールドワーク基礎	2前		2		○									兼1	
	国内臨地研究	3・4前・後		2											兼1	集中
	海外語学研修Ⅰ	3・4前・後		2				○							兼1	集中
	海外語学研修Ⅱ	3・4前・後		2				○							兼1	集中
海外臨地研究	3・4前・後		2				○							兼1	集中	
小計(5科目)		—	0	10	0		—	0	0	0	0	0	0	兼3	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教職関連科目 (人間発達学専攻)	教職概論	1前		2		○					1						
	教育原論	1後		2		○			1								
	教育史	4前		2		○			1								
	教育心理学	1前		2		○					1						
	教育制度論	3前		2		○				1							
	教育法規	3後		2		○										兼1	
	教育課程論(初等)	2前		2		○										兼1	
	道德教育指導法(初等)	3前		2		○			1								
	特別活動指導法(初等)	2後		2		○			1								
	教育方法・技術論	3後		2		○										兼1	
	児童・進路指導	4前		2		○			1								
	児童・教育相談論	3後		2		○					1						
	初等教育実習事前事後指導	4通		1		○			1		2						
	初等教育実習Ⅰ	4前・後		2				○	1		2					集中	
	初等教育実習Ⅱ	4前・後		2				○	1		2					集中	
	特別支援学校教育実習事前事後指導	4通		1		○			1	1	1						
	特別支援学校教育実習	4前・後		2				○	1	1	1					集中	
	教職実践演習(初等)	4後		2				○	3	1	1					兼1	
	総合演習	2前		2				○	1	2	3						
	教職関連科目 (人間基礎学専攻)	教職概論	1前		2		○					1					
教育原論		1後		2		○				1							
教育心理学		1前		2		○			1								
生徒・教育相談論		3後		2		○					1						
小計(23科目)		—	0	44	0		—		5	4	5	0	0		兼4	—	
専門教育科目 自由科目	教育史	4前			2	○			1								
	教育行政学	3前			2	○				1						兼1	
	教育法規	3後			2	○											
	教育課程論(中等)	2前			2	○				1							
	国語科教育法Ⅰ	2前			2	○				1							
	国語科教育法Ⅱ	2後			2	○				1							
	国語科教育法Ⅲ	3前			2	○										兼1	
	国語科教育法Ⅳ	3後			2	○										兼1	
	書道科教育法Ⅰ	3前			2	○										兼1	
	書道科教育法Ⅱ	3後			2	○										兼1	
	情報科教育法Ⅰ	3前			2	○										兼1	
	情報科教育法Ⅱ	3後			2	○										兼1	
	道德教育指導法(中等)	3前			2	○			1								
	特別活動指導法(中等)	2後			2	○			1								
	教育方法学	3後			2	○										兼1	
	生徒・進路指導	4前			2	○			1								
	中等教育実習事前事後指導	4通			1	○				1	1						
	中等教育実習Ⅰ	4前・後			2			○		1	1					集中	
	中等教育実習Ⅱ	4前・後			2			○		1	1					集中	
	教職実践演習(中等)	4後			2			○	1	1	1						
	総合演習	2前			2			○	2	1	1						
	図書館司書課程	図書館資料論	1後			2	○			1							
		図書館経営論	2後			1	○			1							
		図書館サービス論	4前			2	○			1							
		資料特論	4後			1	○										兼1
		コミュニケーション論	4後			1	○			1							
学校図書館司書教諭課程	学校経営と学校図書館	3前			2	○										兼1	
	学校図書館メディアの構成	3後			2	○										兼1	
	学習指導と学校図書館	4前			2	○										兼1	
	読書と豊かな人間性	4前			2	○										兼1	
	情報メディアの活用	4後			2	○										兼1	
小計(31科目)		—	0	0	58		—		4	2	1	0	0		兼8	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
留学生特別科目	日本語講座Ⅰ	1前		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅱ	1後		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅲ	1前		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅳ	1後		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅴ	2前		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅵ	2後		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅶ	2前		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅷ	2後		2		○								兼1	留学生専用
	日本事情Ⅰ	1前		2		○								兼1	留学生専用
	日本事情Ⅱ	1後		2		○								兼1	留学生専用
	日本事情Ⅲ	2前		2		○								兼1	留学生専用
	日本事情Ⅳ	2後		2		○								兼1	留学生専用
	日本の社会と文化Ⅰ	1前		2		○								兼1	留学生専用
	日本の社会と文化Ⅱ	1後		2		○								兼1	留学生専用
	比較文化Ⅰ	2前		2		○								兼1	留学生専用
	比較文化Ⅱ	2後		2		○								兼1	留学生専用
	小計 (16科目)		—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	兼4
合計 (302科目)		—	22	459	58	—			10	10	10	0	0	兼68	—
学位又は称号	学士(文学)		学位又は学科の分野				文学関係、教育学・保育学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目22単位を含み、教養教育科目の第1群8単位、第2群5単位、第3群8単位、第4群6単位以上、計30単位以上、専門教育科目より共通科目8単位、所属コース基礎科目16単位、基幹科目20単位、計94単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限：48単位(年間))							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間科学部 人間発達学科 人間発達学専攻)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
第1群：人文・社会・芸術科目	日本の文学	1・2前		2		○									兼1
	世界の文学	1・2後		2		○									兼1
	日本語表現法Ⅰ(文章)	1前	2			○			1						兼4
	日本語表現法Ⅱ(論文・レポート)	2後		2		○									兼4
	芸術を楽しむ	1・2前		2		○									兼1
	社会生活と倫理	1・2後		2		○									兼1
	文化人類学入門	1・2前		2		○									兼1
	近現代の歴史	1・2前		2		○									兼1
	生活と文化	1・2後		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2前・後		2		○									兼1
	法と生活	1・2前		2		○									兼1
	国際問題と政治	1・2後		2		○									兼1
	暮らしと経済	1・2前		2		○									兼1
	社会学入門	1・2後		2		○									兼1
	ジェンダーと社会(人権を含む。)	1・2前		2		○									兼1
	日本人論	1・2前		2		○									兼1
	情報文化論	1・2後		2		○									兼1
	異文化交流	1・2・3・4前・後		2				○		1					兼1
	文学表現と書道	1後		2		○									兼2
	英語による日本文化	2後		2		○									兼1
	書写書道Ⅰ	2前		1				○							兼1
書写書道Ⅱ	2後		1				○							兼1	
同和教育	1前・後		2		○									兼1	
第2群：健康・自然科目	生涯スポーツ	1前・後		1				○							兼4
	健康の科学	1前・後		2		○				1					兼1
	心の科学	1・2前		2		○									兼1
	健康と栄養	1・2後		2		○									兼2
	環境と人間	1・2後		2		○									兼1
	生命科学	1・2前		2		○									兼1
	宇宙の科学	1・2後		2		○									兼1
第3群：外国語・情報科目	総合英語Ⅰ-A	1前	1				○								兼2
	総合英語Ⅰ-B	1後	1				○								兼2
	総合英語Ⅱ-A	2前		1			○								兼2
	総合英語Ⅱ-B	2後		1			○								兼2
	英語コミュニケーションⅠ-A	2前	1				○								兼2
	英語コミュニケーションⅠ-B	2後	1				○								兼2
	英語コミュニケーションⅡ-A	3前		1			○								兼2
	英語コミュニケーションⅡ-B	3後		1			○								兼2
	TOEICⅠ	1前		1			○								兼1
	TOEICⅡ	2前		1			○								兼1
	英語ゼミナル	4前		1			○								兼1
	フランス語Ⅰ	1・2前		1			○								兼1
	フランス語Ⅱ	1・2後		1			○								兼1
	中国語Ⅰ	1・2前		1			○								兼2
	中国語Ⅱ	1・2後		1			○								兼2
	韓国語Ⅰ	1・2前		1			○								兼1
	韓国語Ⅱ	1・2後		1			○								兼1
情報処理演習Ⅰ-A	1前	1				○								兼2	
情報処理演習Ⅰ-B	1後	1				○								兼2	
情報処理演習Ⅱ-A	2前		1			○								兼1	
情報処理演習Ⅱ-B	2後		1			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	第4群：キャリア支援科目 キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ キャリアデザインⅤ キャリアデザインⅥ キャリアデザインⅦ キャリアデザインⅧ	1前	1				○		1		1				兼5		
		1後	1				○		1		1				兼5		
		2前	1				○		2						兼5		
		2後	1				○		2						兼5		
		3前	1				○								兼5		
		3後	1				○								兼5		
		3・4前		1			○								兼3		
		3・4後			1		○								兼2		
	小計(59科目)	—	14	72	0		—		2	1	2	0	0	兼38	—		
共通科目	人間学概論	1前		2		○								兼1			
	文学概論	1後		2		○								兼3	オムニバス		
	日本文化論	1前		2		○								兼1			
	言語学概論	1後		2		○								兼1			
	多文化理解	1前		2		○				2				兼1	オムニバス		
	心理学概論	1前		2		○								兼1			
	発達心理学	1前		2		○			1					兼1			
	文化心理学	1後		2		○								兼1			
	社会心理学	1後		2		○								兼1			
	健康心理学	1後		2		○			1					兼1			
小計(10科目)	—	0	20	0		—		0	2	2	0	0	兼9	—			
専門教育科目	児童発達	国語科教育概論(書写を含む。)	1前		2		○										
		算数科教育概論	1後		2		○		1								
		生活科教育概論	1後		2		○				1						
		社会科教育概論	1後		2		○								兼1		
		図画工作	1後		2			○			1						
		理科教育概論	2前		2		○				1						
		家庭科教育概論	2前		2		○				1						
		体育	2後		2			○			1						
		器楽基礎	2前		2			○		1	1				兼8		
		声楽基礎	2後		2			○							兼1		
	基礎科目	乳幼児発達	保育原理Ⅰ	1前		2		○		1							
			保育原理Ⅱ	1後		2		○		1							
			児童福祉Ⅰ	1前		2		○				1					
			児童福祉Ⅱ	2後		2		○			1						
			小児保健Ⅰ	1後		2		○				1					
			小児保健Ⅱ	2前		2		○				1					
			保育内容(言葉)	1後		2			○							兼1	
			保育内容(人間関係)	2前		2			○		1						
			養護原理	2前		2		○			1						
			社会福祉原論	2前		2		○								兼1	
特別支援教育	障害児心理学	障害者教育総論Ⅰ	1前		2		○			1							
		障害者教育総論Ⅱ	1後		2		○			1							
		病弱教育	2前		2		○								兼1		
		知的障害者の心理・生理・病理	2後		2		○				1						
		小計(28科目)	—	0	56	0		—		3	5	8	0	0	兼13	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	児童発達	国語科指導法		2			○			1					兼1			
		社会科指導法		2			○											
		算数科指導法	2後		2			○		1								
		理科指導法	2後		2			○			1							
		図画工作指導法	2後		2			○			1							
		生活科指導法	3前		2			○			1							
		家庭科指導法	3前		2			○			1							
		体育科指導法	3前		2			○			1							
		音楽科指導法	3後		2			○				1				兼1		
		器楽応用	3前		2			○			1	1				兼5		
		児童英語概論	3後		2			○								兼1		
	児童英語指導法	4前		2				○							兼1			
	造形演習	4前		2				○				1			兼1			
	基幹科目	乳幼児発達	教育課程・保育計画総論		2			○								兼1		
			乳児保育	2後		2			○				1					
			小児栄養	2前		2			○				1					
			小児保健実習	2後		1					○		1					
			保育内容(音楽表現)	2前		2				○		1						
			保育内容(造形表現)	2後		2				○			1					
			保育内容(健康)	3前		2				○			1					
			保育内容(環境)	3前		2				○			1					
			精神保健	3後		2			○				1					
			家族援助論	3後		2			○				1					
			障害児保育	3後		2				○		1						
			リズム	3前		2				○							兼1	
			養護内容	3後		2				○		1						
			保育実習・事前事後指導	3・4通		1				○		1	2					
	保育所実習Ⅰ	3前・後		2					○		2				集中			
	保育所実習Ⅱ	4前・後		2					○		2				集中			
	施設実習Ⅰ	4前・後		2					○		1				集中			
	施設実習Ⅱ	4前・後		2					○		1				集中			
	保育相談論(カウンセリングを含む。)	4前		2				○		1								
	子育て支援演習	4前		2					○						兼1			
	特別支援教育	知的障害者教育	2前		2			○			1		1					
		発達援助の技法	2前		2			○			1							
		肢体不自由者の心理・生理・病理	2後		2			○			1							
		肢体不自由者教育	2後		2			○			1							
		肢体不自由者支援学	3前		2			○			1							
		軽度発達障害教育総論	3前		2			○			1							
		病弱者の心理・生理・病理	3前		2			○			1							
		障害者の病理・保健	3前		2			○			1							
		知的障害者支援学	3後		2			○			1							
		視覚障害教育総論	3後		2			○				1				兼1		
		聴覚障害教育総論	3後		2			○										
	重複障害教育総論	3後		2			○											
小計(45科目)	—	0	88	0			—		2	5	8	0	0	兼12	—			
卒業研究	卒業研究演習Ⅰ	3前	1					○		5	5	8						
	卒業研究演習Ⅱ	3後	1					○		5	5	8						
	卒業研究演習Ⅲ	4前	1					○		5	5	8						
	卒業研究演習Ⅳ	4後	1					○		5	5	8						
	卒業研究論文	4通	4					○		5	5	8						
小計(5科目)	—	8	0	0			—		5	5	8	0	0	0	—			
臨地科目	フィールドワーク基礎	2前		2			○								兼1			
	国内臨地研究	3・4前・後		2											兼1			
	海外語学研修Ⅰ	3・4前・後		2											兼1			
	海外語学研修Ⅱ	3・4前・後		2											兼1			
	海外臨地研究	3・4前・後		2											兼1			
小計(5科目)	—	0	10	0			—		0	0	0	0	0	兼3	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	教職関連科目	教職概論	1前		2		○									兼1		
		教育原論	1後		2		○			1								
		教育史	4前		2		○			1								
		教育心理学	1前		2		○										兼1	
		教育制度論	3前		2		○										兼1	
		教育法規	3後		2		○										兼1	
		教育課程論(初等)	2前		2		○										兼1	
		道徳教育指導法(初等)	3前		2		○			1								
		特別活動指導法(初等)	2後		2		○			1								
		教育方法・技術論	3後		2		○										兼1	
		児童・進路指導	4前		2		○			1								
		児童・教育相談論	3後		2		○										兼1	
		初等教育実習事前事後指導	4通		1		○			1							兼2	
		初等教育実習Ⅰ	4前・後		2				○	1							兼2	
		初等教育実習Ⅱ	4前・後		2				○	1							兼2	
		特別支援学校教育実習事前事後指導	4通		1		○			1	1	1						
		特別支援学校教育実習	4前・後		2				○	1	1	1					集中	
		教職実践演習(初等)	4後		2				○	3	1						兼2	
		総合演習	2前		2				○	1	2	2					兼1	
		小計(19科目)		—	0	36	0		—	4	3	3	0	0			兼7	—
自由科目	図書館司書課程 学校図書館司書教諭課程	図書館資料論	1後			2	○									兼1		
		図書館経営論	2後			1	○									兼1		
		図書館サービス論	4前			2	○									兼1		
		資料特論	4後			1	○									兼1		
		コミュニケーション論	4後			1	○									兼1		
		学校経営と学校図書館	3前			2	○										兼1	
		学校図書館メディアの構成	3後			2	○										兼1	
学習指導と学校図書館	4前			2	○										兼1			
読書と豊かな人間性	4前			2	○										兼1			
情報メディアの活用	4後			2	○										兼1			
小計(10科目)		—	0	0	17		—	0	0	0	0	0			兼5	—		
留学生特別科目	日本語講座Ⅰ	1前		2		○									兼1	留学生専用		
	日本語講座Ⅱ	1後		2		○									兼1	留学生専用		
	日本語講座Ⅲ	1前		2		○									兼1	留学生専用		
	日本語講座Ⅳ	1後		2		○									兼1	留学生専用		
	日本語講座Ⅴ	2前		2		○									兼1	留学生専用		
	日本語講座Ⅵ	2後		2		○									兼1	留学生専用		
	日本語講座Ⅶ	2前		2		○									兼1	留学生専用		
	日本語講座Ⅷ	2後		2		○									兼1	留学生専用		
	日本事情Ⅰ	1前		2		○									兼1	留学生専用		
	日本事情Ⅱ	1後		2		○									兼1	留学生専用		
	日本事情Ⅲ	2前		2		○									兼1	留学生専用		
	日本事情Ⅳ	2後		2		○									兼1	留学生専用		
	日本の社会と文化Ⅰ	1前		2		○									兼1	留学生専用		
	日本の社会と文化Ⅱ	1後		2		○									兼1	留学生専用		
	比較文化Ⅰ	2前		2		○									兼1	留学生専用		
	比較文化Ⅱ	2後		2		○									兼1	留学生専用		
小計(16科目)		—	0	32	0		—	0	0	0	0	0			兼4	—		
合計(197科目)			—	22	314	17		—	5	5	8	0	0		兼68	—		
学位又は称号	学士(文学)		学位又は学科の分野				文学関係、教育学・保育学関係											
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
必修科目22単位を含み、教養教育科目の第1群8単位、第2群5単位、第3群8単位、第4群6単位以上、計30単位以上、専門教育科目より共通科目8単位、所属コース基礎科目16単位、基幹科目20単位、計94単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限：48単位(年間))							1学年の学期区分			2学期								
							1学期の授業期間			15週								
							1時限の授業時間			90分								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	第4群：キャリア支援科目 キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ キャリアデザインⅣ キャリアデザインⅤ キャリアデザインⅥ キャリアデザインⅦ キャリアデザインⅧ	1前	1				○		1	2					兼5	
		1後	1				○		1	2					兼5	
		2前	1				○		2	1					兼5	
		2後	1				○		2	1					兼5	
		3前	1				○								兼5	
		3後	1				○								兼5	
		3・4前		1			○								兼3	
		3・4後			1		○								兼2	
	小計 (59科目)	—	14	72	0	—	—	—	4	4	0	0	0	兼34	—	
共通科目	人間学概論	1前		2		○								兼1		
	文学概論	1後		2		○								兼3		
	日本文化論	1前		2		○			1					オムニバス		
	言語学概論	1後		2		○								兼1		
	多文化理解	1前		2		○								兼3		
	心理学概論	1前		2		○				1				オムニバス		
	発達心理学	1前		2		○								兼1		
	文化心理学	1後		2		○								兼1		
	社会心理学	1後		2		○								兼1		
	健康心理学	1後		2		○								兼1		
小計 (10科目)	—	0	20	0	—	—	—	0	1	1	0	0	兼11	—		
専門教育科目	心理学	学習心理学	1前		2		○								兼1	
		臨床心理学	1後		2		○								兼1	
		知覚心理学	2前		2		○								兼1	
		学校心理学	2前		2		○			1					兼1	
		心理データ解析法Ⅰ	2前		2			○							兼1	
		心理データ解析法Ⅱ	2後		2			○							兼1	
		心理学実験実習Ⅰ	2前		2				○	1					兼1	
		心理学実験実習Ⅱ	2後		2				○		1				兼1	
		認知心理学	2後		2		○								兼1	
	コミュニケーション概論	3前		2		○			1					兼1		
	カウンセリング概論	3前		2		○								兼1		
	基礎科目	国語・書道	楷書法Ⅰ	1前		1					1					
			楷書法Ⅱ	2前		1					1					
行草書法Ⅰ			1後		1										兼1	
行草書法Ⅱ			2後		1						1					
日本古典文学史Ⅰ			1前		2		○				1					
日本古典文学史Ⅱ	1後		2		○				1							
日本語学概論(音声言語を含む。)	1前		2		○									兼1		
書道表現研究	2前		1			○			1					兼1		
日本近現代文学史Ⅰ	2前		2		○			1								
日本近現代文学史Ⅱ	2後		2		○			1								
中国文学史	2後		2		○									兼1		
図書館・情報	情報科学概論	1前		2		○			1							
	図書館概論	1前		2		○			1							
	情報社会と倫理	1後		2		○			1							
	情報社会論	2前		2		○			1							
	情報経営学概論	2前		2		○								兼1		
	生涯学習概論	2後		1		○								兼1		
	アルゴリズムとプログラム	3前		2		○			1							
	情報と職業	3前		2		○			1							
	レファレンスサービス演習	3前		1			○			1						
	メディア表現研究	3前		1			○			1						
小計 (32科目)	—	0	56	0	—	—	—	5	4	1	0	0	兼12	—		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	心理学	社会調査法		2		○									兼1	集中	
		社会調査法演習	2後	1			○								兼1		
		心理検査法	2後	2				○				1					
		教育工学	3前	2			○								兼1		
		家族心理学	3前	2			○								兼1		
		心理測定法Ⅰ	3前	2				○		1							
		心理測定法Ⅱ	3後	2				○		1							
		行動科学研究法	3後	2			○										兼1
		感性科学	3後	2			○										兼1
		カウンセリング技法Ⅰ	3後	2				○				1					兼1
		カウンセリング技法Ⅱ	4前	2				○									兼1
	生理心理学	3後	2			○									兼1		
	精神医学	4前	2			○									兼1		
	国語・書道	日本語古典文法	2前		2		○										兼1
		日本語口語文法	2後		2		○										兼1
		日本近現代文学Ⅰ	3前		2		○			1							
		日本近現代文学Ⅱ	3後		2		○			1							
		漢文学Ⅰ	3前		2		○										兼1
		漢文学Ⅱ	3後		2		○										兼1
		日本語史	3後		2		○										兼1
		篆隸書法Ⅰ	3前		1				○								兼1
		篆隸書法Ⅱ	4前		1				○			1					兼1
		仮名書法Ⅰ	3前		1				○								兼1
		仮名書法Ⅱ	4後		1				○		1						
		日本書道史	3後		2		○		○		1						
		中国書道史	3前		2		○		○								兼1
		鑑賞	3後		2		○		○		1						
		書論	3前		2		○		○		1						
		日本古典文学Ⅰ	3前		2		○		○		1						
		日本古典文学Ⅱ	3後		2		○		○		1						
	漢字仮名交じり書法Ⅰ	3前		1				○							兼1		
	漢字仮名交じり書法Ⅱ	4後		1				○							兼1		
	図書館・情報	マルチメディア処理論	2前		2		○					1					
		マルチメディア処理演習(実習を含む。)	2後		1			○				1					※実習
		情報ネットワーク	2前		2		○			1							
		情報ネットワーク演習(実習を含む。)	2後		1			○		1							※実習
		データ処理論	2前		2		○			1							
		データ処理演習(実習を含む。)	2後		1			○		1							※実習
		社会情報学特講	3後		2		○			1							
		情報処理技術	3前		2		○					1					
		情報処理実習	3後		2				○			1					
		資料組織演習Ⅰ	2後		1			○									兼1
		資料組織演習Ⅱ	3後		1			○									兼1
		資料組織概説	2前		2		○										兼1
		情報サービス概説	3前		2		○				1						
		情報検索演習	3後		1			○			1						
	専門資料論	4後		1		○				1							
	児童サービス論	4後		1		○									兼1		
小計(48科目)	—	0	81	0	—	—	—	—	4	4	1	0	0	兼16	—		
卒業研究	卒業研究演習Ⅰ	3前	1				○		5	5	2						
	卒業研究演習Ⅱ	3後	1				○		5	5	2						
	卒業研究演習Ⅲ	4前	1				○		5	5	2						
	卒業研究演習Ⅳ	4後	1				○		5	5	2						
	卒業研究論文	4通	4				○		5	5	2						
小計(5科目)	—	8	0	0	—	—	—	5	5	2	0	0	0	—			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
臨地科目	フィールドワーク基礎	2前		2		○									兼1	集中 集中 集中 集中
	国内臨地研究	3・4前・後		2				○							兼1	
	海外語学研修Ⅰ	3・4前・後		2				○							兼1	
	海外語学研修Ⅱ	3・4前・後		2				○							兼1	
	海外臨地研究	3・4前・後		2				○							兼1	
	小計(5科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—	
教職関連科目	教職概論	1前		2		○					1					
	教育原論	1後		2		○				1						
	教育心理学	1前		2		○			1							
	生徒・教育相談論	3後		2		○					1					
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			1	1	2	0	0	0	—	
専門教育科目	教職に関する専門教育科目	教育史	4前		2	○									兼1	集中 集中
		教育行政学	3前		2	○					1					
		教育法規	3後		2	○									兼1	
		教育課程論(中等)	2前		2	○					1					
		国語科教育法Ⅰ	2前		2	○									兼1	
		国語科教育法Ⅱ	2後		2	○									兼1	
		国語科教育法Ⅲ	3前		2	○									兼1	
		国語科教育法Ⅳ	3後		2	○									兼1	
		書道科教育法Ⅰ	3前		2	○									兼1	
		書道科教育法Ⅱ	3後		2	○									兼1	
	自由科目	情報科教育法Ⅰ	3前		2	○									兼1	
		情報科教育法Ⅱ	3後		2	○									兼1	
		道徳教育指導法(中等)	3前		2	○									兼1	
		特別活動指導法(中等)	2後		2	○									兼1	
		教育方法学	3後		2	○									兼1	
		生徒・進路指導	4前		2	○									兼1	
		中等教育実習事前事後指導	4通		1	○					1	1				
		中等教育実習Ⅰ	4前・後		2					○	1	1			集中	
		中等教育実習Ⅱ	4前・後		2					○	1	1			集中	
		教職実践演習(中等)	4後		2			○			1	1			兼1	
総合演習	2前		2			○			1				兼2			
図書館司書課程	図書館資料論	1後		2	○				1							
	図書館経営論	2後		1	○				1							
	図書館サービス論	4前		2	○				1							
	資料特論	4後		1	○									兼1		
	コミュニケーション論	4後		1	○				1							
学校図書館司書教諭課程	学校経営と学校図書館	3前		2	○									兼1		
	学校図書館メディアの構成	3後		2	○									兼1		
	学習指導と学校図書館	4前		2	○									兼1		
	読書と豊かな人間性	4前		2	○									兼1		
	情報メディアの活用	4後		2	○									兼1		
	小計(31科目)	—	0	0	58	—			2	1	1	0	0	兼11	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
留学生特別科目	日本語講座Ⅰ	1前		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅱ	1後		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅲ	1前		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅳ	1後		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅴ	2前		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅵ	2後		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅶ	2前		2		○								兼1	留学生専用
	日本語講座Ⅷ	2後		2		○								兼1	留学生専用
	日本事情Ⅰ	1前		2		○								兼1	留学生専用
	日本事情Ⅱ	1後		2		○								兼1	留学生専用
	日本事情Ⅲ	2前		2		○								兼1	留学生専用
	日本事情Ⅳ	2後		2		○								兼1	留学生専用
	日本の社会と文化Ⅰ	1前		2		○								兼1	留学生専用
	日本の社会と文化Ⅱ	1後		2		○								兼1	留学生専用
	比較文化Ⅰ	2前		2		○								兼1	留学生専用
	比較文化Ⅱ	2後		2		○								兼1	留学生専用
	小計 (16科目)		—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	兼4
合計 (210科目)		—	22	279	58	—			5	5	2	0	0	兼61	—
学位又は称号	学士(文学)		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目22単位を含み、教養教育科目の第1群8単位、第2群5単位、第3群8単位、第4群6単位以上、計30単位以上、専門教育科目より共通科目8単位、所属コース基礎科目16単位、基幹科目20単位、計94単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限：48単位(年間))							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人間科学部 人間発達学科－現行)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	第1群：人文・社会・芸術科目	日本の文学		2		○								兼1		
		世界の文学	1・2前・後	2		○								兼1		
		文章力をつける	1・2前・後	2		○								兼1		
		音楽を楽しむ	1・2前・後	2		○								兼1		
		美術の世界	1・2前・後	2		○								兼1		
		社会生活と倫理	1・2前・後	2		○								兼1		
		文化人類学入門	1・2前・後	2		○								兼1		
		日本の近現代史	1・2前・後	2		○								兼1		
		世界の近現代史	1・2前・後	2		○								兼1		
		生活と文化	1・2前・後	2		○								兼1		
		日本国憲法	1・2前・後	2		○				1						
		法と生活	1・2前・後	2		○								兼1		
		人権と社会	1・2前・後	2		○								兼1		
		政治の焦点	1・2前・後	2		○								兼1		
		国際問題の焦点	1・2前・後	2		○								兼1		
		暮らしと経済	1・2前・後	2		○								兼1		
		経済の焦点	1・2前・後	2		○								兼1		
		社会学入門	1・2前・後	2		○								兼1		
		ジェンダーと社会	1・2前・後	2		○								兼1		
		日本人論	1・2前・後	2		○								兼1		
情報文化論	1・2前・後	2		○								兼1				
異文化交流Ⅰ	1・2・3・4前・後	2					○		1				集中			
異文化交流Ⅱ	1・2・3・4前・後	2					○		1				集中			
ボランティア活動	1・2前・後	2					○					兼1	集中			
インターシップ・プログラム	2・3前・後	2					○					兼1	集中			
専攻教育科目	第2群：健康・自然科目	生涯スポーツⅠ	1前	1				○						兼5		
		生涯スポーツⅡ	1後	1				○						兼5		
		健康の科学	1前・後	2			○							兼2	オムニバス	
		心の科学	1・2前・後	2			○							兼1		
		健康と栄養	1・2前・後	2			○							兼2	オムニバス	
		科学と人間	1・2前・後	2			○							兼1		
		環境と生命	1・2前・後	2			○							兼1		
		生命科学	1・2前・後	2			○							兼1		
		宇宙の科学	1・2前・後	2			○							兼1		
		小計(34科目)	—	0	66	0	—	—	—	—	1	1	0	0	0	兼30
専攻教育科目	専攻情報科目	日本語表現法Ⅰ(文章)	1前	2			○							兼3		
		日本語表現法Ⅱ(論文・レポート)	2後	2			○							兼3		
		小計(2科目)	—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4	—
		情報処理演習Ⅰ-A	1前	1				○							兼2	
		情報処理演習Ⅰ-B	1後	1				○							兼2	
		情報処理演習Ⅱ-A	2前	1				○							兼2	
		情報処理演習Ⅱ-B	2後	1				○							兼2	
小計(4科目)	—	2	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼3	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻英語	総合英語Ⅰ-A(講読)	1前	1				○			1					兼3
	総合英語Ⅰ-B(講読)	1後	1				○			1					兼3
	総合英語Ⅱ-A(リスニング)	1前	1				○			1					兼2
	総合英語Ⅱ-B(リスニング)	1後	1				○			1					兼2
	総合英語Ⅲ-A(文法)	2前		1			○			1					兼1
	総合英語Ⅲ-B(文法)	2後		1			○			1					兼1
	総合英語Ⅳ-A(作文)	2前		1			○			1					兼3
	総合英語Ⅳ-B(作文)	2後		1			○			1					兼3
	英語コミュニケーションⅠ-A	1前	1				○			1					兼3
	英語コミュニケーションⅠ-B	1後	1				○			1					兼3
	英語コミュニケーションⅡ-A	2前		1			○			1					兼3
	英語コミュニケーションⅡ-B	2後		1			○			1					兼3
小計(12科目)	—	6	6	0		—			0	2	0	0	0	兼10	—
専修外国語	中国語Ⅰ-A	1前		1			○								兼1
	中国語Ⅰ-B	1後		1			○								兼1
	中国語Ⅱ-A	2前		1			○								兼1
	中国語Ⅱ-B	2後		1			○								兼1
	フランス語Ⅰ-A	1前		1			○								兼1
	フランス語Ⅰ-B	1後		1			○								兼1
	フランス語Ⅱ-A	2前		1			○								兼1
	フランス語Ⅱ-B	2後		1			○								兼1
	ドイツ語Ⅰ-A	1前		1			○								兼1
	ドイツ語Ⅰ-B	1後		1			○								兼1
	ドイツ語Ⅱ-A	2前		1			○								兼1
	ドイツ語Ⅱ-B	2後		1			○								兼1
	韓国語Ⅰ-A	1前		1			○								兼1
韓国語Ⅰ-B	1後		1			○								兼1	
韓国語Ⅱ-A	2前		1			○								兼1	
韓国語Ⅱ-B	2後		1			○								兼1	
小計(16科目)	—	0	16	0		—			0	0	0	0	0	兼5	—
演習科目	基礎総合演習Ⅰ	1前	1				○			7	3	4	0	0	
	基礎総合演習Ⅱ	1後	1				○			7	3	4	0	0	
	卒業研究演習Ⅰ	3前	1				○			7	2	4	0	0	兼1
	卒業研究演習Ⅱ	3後	1				○			7	2	4	0	0	兼1
	卒業研究演習Ⅲ	4前	1				○			7	2	4	0	0	兼1
	卒業研究演習Ⅳ	4後	1				○			7	2	4	0	0	兼1
小計(6科目)	—	6	0	0		—			7	3	4	0	0	兼1	—
卒業論文	卒業研究論文	4通	4				○			7	2	4	0	0	兼1
	小計(1科目)	—	4	0	0		—			7	2	4	0	0	兼1
基礎科目1	人間学概論	1前		2			○								兼1
	文化・文明論	1後		2			○								兼1
	比較文化概論	1前		2			○								兼1
	日本文化論	1後		2			○								兼1
	中国文化論	1前		2			○								兼1
	イギリス文化論	1後		2			○			1					
	アメリカ文化論	1前		2			○								兼1
	言語学概論	1前		2			○								兼1
	書道史概説	1後		2			○								兼1
	実用書道Ⅰ	1前		1					○						兼1
	実用書道Ⅱ	1後		1					○						兼1
	情報科学概論	1前		2			○								兼1
	現代社会論	1前		2			○								兼1
	心理学概論	1前		2			○								兼1
	コミュニケーション概論	1前		2			○			1					
	教育学概論	1後		2			○								兼1
	図書館概論	1前		2			○								兼1
小計(17科目)	—	0	32	0		—			1	1	0	0	0	兼14	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
基礎科目2	教育心理学	1前	2			○			1									
	発達心理学	2前	2			○				1								
	乳幼児心理学	2前		2		○				1								
	家族援助論	3後		2		○			1							兼1		
	行動科学研究法	3前		2		○												
	臨床心理学	2後		2		○				1						兼1		
	精神保健	2後		2		○												
	障害児心理学	1後		2		○				1								
	カウンセリング論	3前		2		○				1								
	保育原理Ⅰ	1前		2		○			1									
	保育原理Ⅱ	1後		2		○										兼1		
	社会福祉原論	1後		2		○										兼1		
	社会福祉援助技術	2後		2			○									兼1		
	養護原理	1後		2		○				1								
	児童福祉Ⅰ	1前		2		○				1								
	児童福祉Ⅱ	1後		2		○										兼1		
	児童福祉事業論	3前		2		○										兼1		
小計(17科目)		—	4	30	0				2	2	0	0	0		兼6	—		
専門教育科目	共通基幹科目群	国語科概論(書写を含む。)	2前		2		○			1								
		社会科概論	2前		2		○			1								
		算数科概論	2前		2		○			1								
		理科概論	2前		2		○			1								
		生活科概論	2前		2		○					1						
		器楽基礎	2前		2			○				1					兼9	
		声楽基礎	2後		2			○				1					兼1	
		器楽応用	3後		2			○				1					兼6	
		図画工作	2後		2			○				1						
		家庭科概論	2後		2		○					1						
	体育	2後		2			○									兼1		
	基幹科目	乳幼児発達基幹科目群	小児保健Ⅰ	2前		2		○									兼1	
			小児保健Ⅱ	2後		2		○									兼1	
			小児保健実習	3前		1				○							兼1	
			小児栄養	2後		2			○				1					
			保育相談論(カウンセリングを含む。)	4前		2		○				1						
			教育課程・保育計画総論	3前		2		○										兼1
保育内容総論			2前		2			○									兼1	
保育内容(健康)			3前		2			○				1					兼1	
保育内容(人間関係)			2後		2			○										
保育内容(環境)			2後		2			○			1							
保育内容(言葉)			2後		2			○			1							
保育内容(音楽表現)			2後		2			○									兼1	
保育内容(造形表現)			2後		2			○				1						
乳児保育Ⅰ			2後		2			○									兼1	
乳児保育Ⅱ			3前		2			○									兼1	
障害児保育			3後		2			○									兼1	
養護内容			2後		2			○			1							
造形演習	4前		2			○				1								
リズム	3後		2			○									兼1			
保育実習・事前事後指導	2・3通		1		○				1	1								
保育所実習Ⅰ	2・3前・後		2					○	1						集中			
保育所実習Ⅱ	3・4前・後		2					○	1						集中			
施設実習Ⅰ	4前・後		2					○		1					集中			
施設実習Ⅱ	4前・後		2					○		1					集中			
発達支援演習Ⅰ	4前		2				○			1								
発達支援演習Ⅱ	4後		2				○			1								
発達アセスメントⅠ	4前		2				○			1								
発達アセスメントⅡ	4後		2				○		1									

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	児童発達基幹科目群	教育課程論		2		○									兼1		
		国語科指導法	2後	2				○		1							
		社会科指導法	3前	2					○	1							
		算数科指導法	2後	2					○	1							
		理科指導法	2後	2					○	1							
		生活科指導法	3前	2					○							兼1	
		音楽科指導法	3前	2					○							兼1	
		図画工作指導法	3前	2					○			1					
		家庭科指導法	3前	2					○			1					
		体育科指導法	3前	2					○							兼1	
		道德教育の研究	3前	2				○								兼1	
		特別活動の研究	3後	2				○				1					
		生徒・進路指導論	3前	2				○								兼1	
		教育相談論	3後	2				○			1						
	障害児臨床演習	4前	2					○							兼1		
	教育アセスメント演習	4前	2					○			1						
	心理学基幹科目群	心理学実験実習Ⅰ	2前		2				○	1	1					兼2	
		心理学実験実習Ⅱ	2後		2				○	1	1					兼2	
		学習・教授心理学	3前		2		○			1							
		認知心理学	3前		2		○									兼1	
		社会心理学	2前		2		○									兼1	
		認知・感性工学	3前		2			○		1							
		生理心理学	3後		2		○			1							
		心理データ解析法Ⅰ	2前		2			○								兼1	
		心理データ解析法Ⅱ	2後		2			○								兼1	
		環境心理学	3前		2		○									兼1	
	グループ・ダイミックス	3後		2		○									兼1		
	キャリア・マネジメント	3後		2			○			1					兼1		
	小計(67科目)	—	0	132	0	—	—	—	—	6	2	4	0	0	兼29	—	
	臨地科目	フィールドワーク基礎	2前		2		○								兼2	オムニバス	
		国内臨地研究Ⅰ	3・4前・後		2				○	1						集中	
		国内臨地研究Ⅱ	3・4前・後		2				○	1						集中	
		海外語学研修Ⅰ	3・4前・後		2				○		1					集中	
海外語学研修Ⅱ		3・4前・後		2				○		1					集中		
海外語学研修Ⅲ		3・4前・後		2				○		1					集中		
海外臨地研究(社会・文化)Ⅰ		3・4前・後		2				○		1					集中		
海外臨地研究(社会・文化)Ⅱ		3・4前・後		2				○		1					集中		
海外臨地研究(社会・文化)Ⅲ	3・4前・後		2				○		1					集中			
小計(9科目)	—	0	18	0	—	—	—	—	1	1	0	0	0	兼2	—		
教職関連科目	教職概論	1前		2		○					1						
	教育原論	1後		2		○			1								
	教育史	4前		2		○			1								
	教育制度論	2前		2		○			1								
	教育法規	4後		2		○			1								
	教育方法・技術論	3前		2		○									兼1		
	総合演習	2前		2			○		5								
	事前事後指導	3・4通		1		○			1		1						
	教育実習Ⅰ	3・4前・後		2					1		1					集中	
	教育実習Ⅱ	4前・後		2					1		1					集中	
	同和教育	1後		2		○									兼1		
小計(11科目)	—	0	21	0	—	—	—	—	6	0	1	0	0	兼2	—		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	図書館司書課程 自由科目	生涯学習概論	2後			1	○									兼1	
		図書館経営論	2後			1	○									兼1	
		図書館サービス論	4前			2	○									兼1	
		図書館資料論	1後			2	○									兼1	
		資料組織演習Ⅰ	2後			1		○								兼1	
		資料組織演習Ⅱ	3後			1		○								兼1	
		児童サービス論	4後			1	○									兼1	
	コミュニケーション論	4後			1	○			1								
	学校図書館司書教諭課程	学校経営と学校図書館	3前			2	○										兼1
		学校図書館メディアの構成	3後			2	○										兼1
		学習指導と学校図書館	4前			2	○										兼1
		読書と豊かな人間性	4前			2	○										兼1
		情報メディアの活用	4後			2	○										兼1
小計 (13科目)		—	0	0	20	—			1	0	0	0	0		兼5	—	
留学生特別科目	日本語講座Ⅰ	1・2前		2		○			1							留学生専用	
	日本語講座Ⅱ	1・2後		2		○			1							留学生専用	
	日本語講座Ⅲ	1・2前		2		○			1							留学生専用	
	日本語講座Ⅳ	1・2後		2		○			1							留学生専用	
	日本語講座Ⅴ	1・2前		2		○			1							留学生専用	
	日本語講座Ⅵ	1・2後		2		○			1							留学生専用	
	日本語講座Ⅶ	1・2前		2		○									兼1	留学生専用	
	日本語講座Ⅷ	1・2後		2		○									兼1	留学生専用	
	日本語講座Ⅸ	1・2前		2		○									兼1	留学生専用	
	日本語講座Ⅹ	1・2後		2		○									兼1	留学生専用	
	日本事情Ⅰ	1・2前		2		○									兼1	留学生専用	
	日本事情Ⅱ	1・2後		2		○									兼1	留学生専用	
	日本事情Ⅲ	1・2前		2		○				1						留学生専用	
	日本事情Ⅳ	1・2後		2		○				1						留学生専用	
	日本社会Ⅰ	1・2前		2		○				1						留学生専用	
	日本社会Ⅱ	1・2後		2		○				1						留学生専用	
	日本文化Ⅰ	1・2前		2		○				1						留学生専用	
	日本文化Ⅱ	1・2後		2		○				1						留学生専用	
小計 (18科目)		—	0	36	0	—			1	0	0	0	0		兼1	—	
合計 (227科目)		—	26	359	20	—			8	4	4	0	0		兼85	—	
学位又は称号	学士(文学)		学位又は学科の分野			文学関係、教育学・保育学関係											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
必修科目26位を含み、教養教育科目16単位以上、専門教育科目より専攻情報科目3単位、専攻英語8単位、兼修外国語2単位、基礎科目1から10単位、基礎科目2から10単位、基幹科目20単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：60単位(年間))						1学年の学期区分			2学期								
						1学期の授業期間			15週								
						1時限の授業時間			90分								

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間科学部 人間文化学科－現行)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	第1群：人文・社会・芸術科目	日本の文学		2		○			1	1					
		世界の文学	1・2前・後	2		○			1						
		文章力をつける	1・2前・後	2		○			1						
		音楽を楽しむ	1・2前・後	2		○								兼1	
		美術の世界	1・2前・後	2		○								兼1	
		社会生活と倫理	1・2前・後	2		○								兼1	
		文化人類学入門	1・2前・後	2		○			1						
		日本の近現代史	1・2前・後	2		○									兼1
		世界の近現代史	1・2前・後	2		○									兼1
		生活と文化	1・2前・後	2		○			1						
		日本国憲法	1・2前・後	2		○									兼1
		法と生活	1・2前・後	2		○									兼1
		人権と社会	1・2前・後	2		○									兼1
		政治の焦点	1・2前・後	2		○									兼1
		国際問題の焦点	1・2前・後	2		○									兼1
		暮らしと経済	1・2前・後	2		○									兼1
		経済の焦点	1・2前・後	2		○									兼1
		社会学入門	1・2前・後	2		○									兼1
		ジェンダーと社会	1・2前・後	2		○									兼1
		日本人論	1・2前・後	2		○									兼1
		情報文化論	1・2前・後	2		○			1		1				
		異文化交流Ⅰ	1・2・3・4前・後	2							1				集中
		異文化交流Ⅱ	1・2・3・4前・後	2							1				集中
ボランティア活動	1・2前・後	2											兼1		
インターシップ・プログラム	2・3前・後	2											兼1		
教養教育科目	第2群：健康・自然科目	生涯スポーツⅠ	1前	1				○						兼5	
		生涯スポーツⅡ	1後	1				○						兼5	
		健康の科学	1前・後	2			○							兼2	
		心の科学	1・2前・後	2			○							兼1	
		健康と栄養	1・2前・後	2			○							兼2	
		科学と人間	1・2前・後	2			○							兼1	
		環境と生命	1・2前・後	2			○							兼1	
		生命科学	1・2前・後	2			○							兼1	
		宇宙の科学	1・2前・後	2			○							兼1	
小計（34科目）		—	0	66	0	—			4	3	0	0	0	兼25	—
専門教育科目	専攻日本語	日本語表現法Ⅰ（文章）	1前	2			○			1	1	1			
		日本語表現法Ⅱ（論文・レポート）	2後	2			○			1		1			兼1
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			1	1	1	0	0	兼1
	専攻情報科目	情報処理演習Ⅰ－A	1前	1				○							兼1
		情報処理演習Ⅰ－B	1後	1				○							兼1
		情報処理演習Ⅱ－A	2前		1			○		1	1				
情報処理演習Ⅱ－B	2後		1			○		1	1						
小計（4科目）		—	2	2	0	—			1	1	0	0	0	兼1	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻英語	総合英語Ⅰ-A(講読)	1前	1				○		2						兼2
	総合英語Ⅰ-B(講読)	1後	1				○		2						兼2
	総合英語Ⅱ-A(リスニング)	1前	1				○								兼3
	総合英語Ⅱ-B(リスニング)	1後	1				○								兼3
	総合英語Ⅲ-A(文法)	2前		1			○			1					兼1
	総合英語Ⅲ-B(文法)	2後		1			○			1					兼1
	総合英語Ⅳ-A(作文)	2前		1			○								兼4
	総合英語Ⅳ-B(作文)	2後		1			○								兼4
	英語コミュニケーションⅠ-A	1前	1				○			1					兼3
	英語コミュニケーションⅠ-B	1後	1				○			1					兼3
	英語コミュニケーションⅡ-A	2前		1			○			1					兼3
	英語コミュニケーションⅡ-B	2後		1			○			1					兼3
小計(12科目)	—	—	6	6	0		—		2	1	0	0	0	兼9	—
英語特別演習	英語特別演習Ⅰ-A	1前		1			○								兼1
	英語特別演習Ⅰ-B	1後		1			○								兼1
	英語特別演習Ⅱ-A	2前		1			○			1					
	英語特別演習Ⅱ-B	2後		1			○			1					
小計(4科目)	—	—	0	4	0		—		0	1	0	0	0	兼1	—
専門教育科目 専修外国語	中国語Ⅰ-A	1前		1			○		1						
	中国語Ⅰ-B	1後		1			○		1						
	中国語Ⅱ-A	2前		1			○		1						
	中国語Ⅱ-B	2後		1			○		1						
	フランス語Ⅰ-A	1前		1			○			1					
	フランス語Ⅰ-B	1後		1			○			1					
	フランス語Ⅱ-A	2前		1			○			1					
	フランス語Ⅱ-B	2後		1			○			1					
	ドイツ語Ⅰ-A	1前		1			○								兼1
	ドイツ語Ⅰ-B	1後		1			○								兼1
	ドイツ語Ⅱ-A	2前		1			○								兼1
	ドイツ語Ⅱ-B	2後		1			○								兼1
	韓国語Ⅰ-A	1前		1			○								兼1
	韓国語Ⅰ-B	1後		1			○								兼1
	韓国語Ⅱ-A	2前		1			○								兼1
	韓国語Ⅱ-B	2後		1			○								兼1
小計(16科目)	—	—	0	16	0		—		1	1	0	0	0	兼2	—
演習科目	基礎総合演習Ⅰ	1前	1				○		2	4					
	基礎総合演習Ⅱ	1後	1				○		2	4					
	文化基礎演習Ⅰ	2前	1				○		3	5					
	文化基礎演習Ⅱ	2後	1				○		3	5					
	卒業研究演習Ⅰ	3前	1				○		8	10					
	卒業研究演習Ⅱ	3後	1				○		8	10					
	卒業研究演習Ⅲ	4前	1				○		9	10					
	卒業研究演習Ⅳ	4後	1				○		9	10					
小計(8科目)	—	—	8	0	0		—		9	10	0	0	0	0	—
卒業論文	卒業研究論文	2後	4				○		9	10					
	小計(1科目)	—	—	4	0	0		—		9	10	0	0	0	0
講読	文献講読A	3前		1			○			1					
	文献講読B	3後		1			○			1					
	小計(2科目)	—	—	0	2	0		—		0	2	0	0	0	0

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目1	人間学概論	1前		2		○									兼1	
	文化・文明論	1後		2		○									兼1	
	比較文化概論	1前		2		○									兼1	
	日本文化論	1後		2		○				1						
	中国文化論	1前		2		○				1						
	イギリス文化論	1後		2		○									兼1	
	アメリカ文化論	1前		2		○									兼1	
	言語学概論	1前		2		○									兼1	
	書道史概説	1後		2		○				1						
	実用書道Ⅰ	1前		1				○		1						
	実用書道Ⅱ	1後		1				○							兼1	
	情報科学概論	1前		2		○				1						
	現代社会論	1前		2		○									兼1	
	心理学概論	1前		2		○									兼1	
	コミュニケーション概論	1前		2		○									兼1	
	教育学概論	1後		2		○									兼1	
	図書館概論	1前		2		○				1					兼1	
小計 (17科目)		—	0	32	0		—		2	4	0	0	0	兼10	—	
基礎科目2	文化人類学	2後		2		○			1							
	日本古典文学史	2後		2		○				1						
	日本近現代文学史	2後		2		○			1							
	中国文学史	2前		2		○				1						
	イギリス文学史	2前		2		○									兼1	
	アメリカ文学史	2後		2		○			1							
	英語学概論	2後		2		○									兼1	
	日本語学概論(音声言語を含む。)	2前		2		○			1						兼1	
	社会言語学	2後		2		○									兼1	
	書道美学論	2後		2		○				1						
	書写書道Ⅰ	2前		1				○							兼1	
	書写書道Ⅱ	2後		1				○		1						
	社会調査法	2前		2		○									兼1	
	資料組織概説	2前		2		○									兼1	
小計 (14科目)		—	0	26	0		—		4	4	0	0	0	兼6	—	
国際理解群	異文化間交渉史	3・4前		2		○				1						
	異文化間コミュニケーション	3・4前		2		○			1							
	異文化理解	3・4後		2		○			1							
	国際理解教育	3・4後		2		○				1						
	平和研究	3・4後		2		○									兼1	
	国際関係論	3・4前		2		○									兼1	
	国際経済論	3・4後		2		○									兼1	
	比較社会文化研究	3・4前		2		○			1							
	比較文学研究	3・4前		2		○				1						
	言語表現研究	3・4前		1				○		1						
メディア表現研究	3・4前		1				○			1						
文化群(外国)	中国社会文化研究	3・4後		2		○				1						
	アジア社会文化研究	3・4後		2		○				1						
	英米社会文化研究	3・4前		2		○									兼1	
	ヨーロッパ社会文化研究	3・4前		2		○				1						
	環太平洋社会文化研究	3・4後		2		○									兼1	
	イギリス文学	3・4後		2		○									兼1	
	アメリカ文学	3・4前		2		○			1							
	漢文学	3・4後		2		○				1						
文化群(日本)	日本社会文化研究	3・4前		2		○			1							
	日本社会文化特殊研究	3・4後		2		○									兼1	
	日本歴史文化研究	3・4後		2		○				1						
	日本古典文学	3・4前		2		○				1						
	日本近現代文学	3・4前		2		○			1							
	日本文学特殊研究	3・4後		2		○			1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門教育科目	文化群（書道）	楷書法Ⅰ		1				○	1						兼1
		楷書法Ⅱ		1				○		1					
		行草書法Ⅰ		1					○		1				
		行草書法Ⅱ		1					○	1					
		篆隸書法Ⅰ		1					○		1				
		篆隸書法Ⅱ		1					○		1				
		仮名書法Ⅰ		1					○		1				
		仮名書法Ⅱ		1					○		1				
		漢字仮名交じり書法Ⅰ		1					○	1					
		漢字仮名交じり書法Ⅱ		1					○						
		篆刻法		2				○			1				
		日本書道史		2			○				1				
		中国書道史		2			○				1				
		鑑賞		2			○			1					
		書論		2			○			1					
		文字学		2			○			1					
		作品制作研究A(漢字)		2			○			1					
		作品制作研究B(仮名)		2			○				1				
	作品制作研究C(漢字仮名交じり文)		2			○							兼1		
	書道資料研究		2			○				1					
	文房四宝概説		2			○			1						
	基幹科目 言語群（英語）	英語学	3・4前		2		○								兼1
		英語史	3・4後		2		○								兼1
		英語教育学	3・4後		2		○								兼1
		英語構成法Ⅰ	3・4前		1			○							兼1
		英語構成法Ⅱ	3・4後		1			○							兼1
		英語プレゼンテーションⅠ	3・4前		1			○			1				
		英語プレゼンテーションⅡ	3・4後		1			○			1				
		英語ディベートⅠ	3・4前		1			○			1				
		英語ディベートⅡ	3・4後		1			○		1					
		英語音声学Ⅰ	3・4前		2		○			1					
		英語音声学Ⅱ	3・4後		2		○			1					
		英文法	3・4前		2		○							兼1	
		時事英語Ⅰ	3・4前		2		○			1					
		時事英語Ⅱ	3・4後		2		○			1					
		実務英語Ⅰ	3・4前		2		○							兼1	
実務英語Ⅱ		3・4後		2		○							兼1		
言語群（日本語）		日本語学	3・4後		2		○			1					兼1
		日本語史	3・4前		1		○								兼1
	日本語古典文法Ⅰ	3・4前		1		○								兼1	
	日本語古典文法Ⅱ	3・4後		1		○								兼1	
	日本語口語文法Ⅰ	3・4前		1		○								兼1	
	日本語口語文法Ⅱ	3・4後		2		○								兼1	
	日本語教育法	3・4前		2		○								兼1	
	日本語教育実習	3・4後		2				○						兼1	
	日本語教授法Ⅰ	3・4前		2		○								兼1	
日本語教授法Ⅱ	3・4後		2		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基幹科目	情報経営学概論	3・4前		2		○									兼1		
	情報社会論	3・4前		2		○											
	アルコールリズムとプログラム	3・4前		2		○				1	1						
	マルチメディア処理論	3・4前		2		○					1						
	マルチメディア処理演習(実習を含む。)	3・4後		1			○				1					※実習	
	情報社会と倫理	3・4前		2		○				1							
	情報ネットワーク	3・4前		2		○					1						
	情報ネットワーク演習(実習を含む。)	3・4後		1			○				1					※実習	
	データ処理論	3・4前		2		○				1							
	データ処理演習(実習を含む。)	3・4後		1			○			1						※実習	
	社会情報学特講	3・4後		2		○				1							
	情報と職業	3・4前		2		○				1							
	情報処理技術	3・4前		2		○					1						
	情報処理実習	3・4後		2					○		1						
	情報サービス概説	3前		2		○				1							
	レファレンスサービス演習	3前		1			○			1							
	情報検索演習	3後		1			○			1							
専門資料論	4後		1		○				1								
資料特論	4後		1		○										兼1		
小計(91科目)		—	0	153	0				8	9	0	0	0	0	兼14	—	
専門教育科目	フィールドワーク基礎	2前		2		○				2						オムニバス	
	国内臨地研究Ⅰ	3・4前・後		2				○		1						集中	
	国内臨地研究Ⅱ	3・4前・後		2				○		1						集中	
	海外語学研修Ⅰ	3・4前・後		2				○		1						集中	
	海外語学研修Ⅱ	3・4前・後		2				○		1						集中	
	海外語学研修Ⅲ	3・4前・後		2				○		1						集中	
	海外臨地研究(社会・文化)Ⅰ	3・4前・後		2				○		1						集中	
	海外臨地研究(社会・文化)Ⅱ	3・4前・後		2				○		1						集中	
海外臨地研究(社会・文化)Ⅲ	3・4前・後		2				○		1						集中		
小計(9科目)		—	0	18	0				2	0	0	0	0	0	0	—	
教職関連科目	教職概論	1前		2		○										兼1	
	教育原論	1後		2		○				1							
	教育心理学	1後		2		○										兼1	
	教育相談論	3前		2		○										兼1	
	総合演習	2後		2			○			1						兼4	
	同和教育	1前		2		○				1							
小計(6科目)		—	0	12	0				2	1	0	0	0	0	兼7	—	
自由科目	教育史	4前			2	○										兼1	
	教育行政学	3前			2	○					1						
	教育法規	3後			2	○										兼1	
	教育課程論	2前			2	○										兼1	
	国語科教育法Ⅰ	2前			2	○				1							
	国語科教育法Ⅱ	2後			2	○				1							
	国語科教育法Ⅲ	3前			2	○										兼1	
	国語科教育法Ⅳ	3後			2	○										兼1	
	書道科教育法Ⅰ	3前			2	○					1						
	書道科教育法Ⅱ	3後			2	○					1						
	英語科教育法Ⅰ	2前			2	○										兼1	
	英語科教育法Ⅱ	2後			2	○										兼1	
	英語科教育法Ⅲ	3前			2	○				1							
	英語科教育法Ⅳ	3後			2	○				1							
	情報科教育法Ⅰ	3前			2	○										兼1	
	情報科教育法Ⅱ	3後			2	○										兼1	
	道徳教育の研究	3前			2	○										兼1	
特別活動の研究	3後			2	○										兼1		
教育方法学	2前			2	○										兼1		
生徒・進路指導論	2後			2	○										兼1		
事前事後指導	4通			1	○										兼1		
教育実習Ⅰ	4前・後			2				○		1						集中	
教育実習Ⅱ	4前・後			2				○		1						集中	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	図書館司書課程	生涯学習概論	2後			1	○									兼1	
		図書館経営論	2後			1	○			1							
		図書館サービス論	4前			2	○			1							
		図書館資料論	1後			2	○			1							
		資料組織演習Ⅰ	2後			1		○		1							
		資料組織演習Ⅱ	3後			1		○									兼1
		児童サービス論	4後			1	○										兼1
	自由科目	コミュニケーション論	4後			1	○										兼1
		学校図書館司書教諭課程	学校経営と学校図書館	3前			2	○									兼1
			学校図書館メディアの構成	3後			2	○									兼1
			学習指導と学校図書館	4前			2	○									兼1
	読書と豊かな人間性		4前			2	○									兼1	
		情報メディアの活用	4後			2	○									兼1	
		小計 (36科目)	—	0	0	65	—	—	—	3	2	0	0	0		兼14	—
留学生特別科目	日本語講座Ⅰ	1・2前		2		○									兼1	留学生専用	
	日本語講座Ⅱ	1・2後		2		○									兼1	留学生専用	
	日本語講座Ⅲ	1・2前		2		○									兼1	留学生専用	
	日本語講座Ⅳ	1・2後		2		○									兼1	留学生専用	
	日本語講座Ⅴ	1・2前		2		○									兼1	留学生専用	
	日本語講座Ⅵ	1・2後		2		○									兼1	留学生専用	
	日本語講座Ⅶ	1・2前		2		○									兼1	留学生専用	
	日本語講座Ⅷ	1・2後		2		○									兼1	留学生専用	
	日本語講座Ⅸ	1・2前		2		○									兼1	留学生専用	
	日本語講座Ⅹ	1・2後		2		○									兼1	留学生専用	
	日本事情Ⅰ	1・2前		2		○									兼1	留学生専用	
	日本事情Ⅱ	1・2後		2		○									兼1	留学生専用	
	日本事情Ⅲ	1・2前		2		○									兼1	留学生専用	
	日本事情Ⅳ	1・2後		2		○									兼1	留学生専用	
	日本社会Ⅰ	1・2前		2		○									兼1	留学生専用	
	日本社会Ⅱ	1・2後		2		○									兼1	留学生専用	
	日本文化Ⅰ	1・2前		2		○									兼1	留学生専用	
	日本文化Ⅱ	1・2後		2		○									兼1	留学生専用	
	小計 (18科目)	—	0	36	0	—	—	—	0	0	0	0	0		兼2	—	
合計 (274科目)		—	24	373	65	—	—	—	9	10	0	0	0		兼73	—	
学位又は称号	学士(文学)		学位又は学科の分野				文学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
必修科目24単位を含み、教養教育科目16単位以上、専門教育科目より専攻情報科目3単位、専攻英語10単位、兼修外国語4単位、基礎科目1から10単位、基礎科目2から10単位、基幹科目20単位、臨地科目2単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。(履修科目の登録の上限：60単位(年間))							1学年の学期区分			2学期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	第1群・人文・社会・芸術科目	日本の文学	本学の教養教育科目においては、21世紀の知識基盤社会を生きていくための基礎的能力を培うことを目的としているが、本科目は、そのうち「第1群：人文・社会・芸術科目」に位置付けられている。古典の時代から現代に繋がるまでの、我が国における文学史、および文学の種々の問題を取り上げながら、新人間科学部が研究対象とする中心的な学問分野である文学における、基礎的能力を修得させる。	
		世界の文学	短時間で読み終えることのできる超短編小説を素材にして、作品のメッセージを掴む訓練をし、現代人にとってのさまざまな問題への意識を高める。アメリカの作品を手始めに、世界のさまざまな国の作品を扱い、ことばへの感受性を高めて、人間の内面の活動がリアリティをもって表現されているのをキャッチすることができるようにする。さらに、感受した印象から作品の世界を再構築することによって、人間の内面への緻密な感性と表現能力を養うようにする。	
		日本語表現法Ⅰ(文章)	新人間科学部の人材育成方針、知識基盤社会において必要な「問題発見能力」、「問題解決能力」、「的確な判断力」、「コミュニケーション能力」、「自己表現力」を有する人材を育成する。そのうち、特に日本語における「コミュニケーション能力」、「自己表現力」を育成することを目的とする。話しことばにおいても書きことばにおいても、情報を収集し消化し、自己のものとして、他者との共生を図りながら発信していくことを学ぶ。	
		日本語表現法Ⅱ(論文・レポート)	新人間科学部の人材育成方針、知識基盤社会において必要な「問題発見能力」、「問題解決能力」、「的確な判断力」、「コミュニケーション能力」、「自己表現力」を有する人材を育成する。そのうち、特に「問題発見能力」、「問題解決能力」、「的確な判断力」を育成することを目的とする。1年次の「日本語表現法Ⅰ(文章)」を受けて2年次の本科目では、書きことばによる表現として、レポートや論文を書く場合の問題について学ぶ。	
		芸術を楽しむ	現代人の心は病んでいると言われるようになって久しい。仕事や勉強、子育て、人間関係などのストレスが、日々の生活の場で重くのしかかってくる不安な社会状況もある。そんな私たちの心を癒し、慰めてくれるのがさまざまな音楽である。中でも古今東西のいわゆるクラシック音楽には、精神医学・生理学などの分野からも、特に高いリラクゼーション効果があると指摘されている。この講義では①人間が生きていく上で、有効かつ実生活に活用できる有意義なクラシック音楽に触れる。②音楽および芸術作品を鑑賞するために必要な知識をわかりやすく学ぶ。	
		社会生活と倫理	現代の日本社会では個人主義的行動や功利主義的な思考が主な社会的風潮となっており、端的に言うと他人に迷惑をかけなければ何をしてよい。という思考が浸透してきており、このような考え、思想がもたらす社会現象が、従来の社会規範と対立しつつ、あらゆる場面で今までにないような、トラブル、事件性帯び社会問題になってきていると考えられる。そこで本講座では果たしてこの考えが正しいのかどうかを、社会的・倫理的側面から検討し、また社会と法との関係をも講義してゆく。	
		文化人類学入門	文化を「理解」しようとすることは、他者だけでなく自己の文化も改めて理解し直すことである。文化人類学は、おもに体験やインタビューをとおして相手の社会や文化を理解し記述する学問である。この理解は、他者や異文化の理解によって自分や自分の文化を見直し、理解し直すためのものである。高齢化の進展と介護・社会福祉の課題を多く抱える現代の日本社会では、このような発想から他者を理解し、弱者や例外少数の人々の不利益や差別を予防し解消する制度や考え方が求められている。現代社会のニーズに応え得る入門授業を展開する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目 第1群・人文・社会・芸術科目	近現代の歴史	本講座で取り上げるのは、主に日本を中心とした、東アジアの近現代の歴史である。特に明治維新以後の日本が近代化に成功した原因を考察し、東アジアに与えた政治的影響と、何故日本以外のアジア諸国の近代化が遅れたかを、清朝の近代化政策である、洋務運動、百日維新、辛亥革命の流れと、日本の近代化と比較し講義する。また西洋列強の東アジアに於ける植民地政策等に言及しつつ、その政策が現代に至るまでの東アジアの近代化にどのような形で展開していったのかを概観してゆく。	
	生活と文化	日本人の伝統的な生活文化の在り方や物質文化について具体的に説明し、自分自身の暮らしや文化を考え直す態度と方法について考えさせる。そのことをとおして、受動的な消費者ではなく、様々な意味での共生社会を実践的に創り貢献する市民・生活者の考え方を身につけさせたい。次に、伝統的な生活文化の根底にある価値観・宗教観について説明し、現代日本の生活文化が形成された歴史や諸事情を理解させる。具体的には、民俗学による民間信仰史の幾つかのトピックについての概説。上記の生活文化の具体層の根底に流れる宗教的価値観などを説明する。	
	日本国憲法	現憲法が公布・施行されて、60年が経過する中で、当時の理念やめざす国家像が国際社会の複雑さと相俟って現実との乖離をきたしてきている。そこで、今私たちが直面している課題を適宜取り上げながら、今一度我が国がめざす方向を考えてみる必要があると考える。その事は、とりもなおさず自らの生き方と繋がっているからである。また、国と地方の課題、地方分権が叫ばれる今日の状況や司法テラスとしての裁判員制度の実施等現実社会との接点を考えていくことは、国民としての責務を果たしていくことになるかと考える。	
	法と生活	私たちの日常生活は法律によって成立している法治国家である。普通意識するとならないに関わらず、様々な場面において法律を意識せざるを得ないのである。つまり、出生に始まり結婚・就職・アルバイト・カード契約・保証人・賃貸契約・ローン設定等様々な場面に遭遇しつつ実は日常生活が営まれているのである。このように考えてくると、日常生活を送る上で最低限の法律知識を身に付けておくことは、自分の生命・財産を守り快適に過ごすために必要な事であると考える。	
	国際問題と政治	この講義は、政治学ならびに国際問題の基本的概念や知識を習得させることを目的とする。まず前半においては、政治学の基本的な考え方や制度、ならびに現代政治の焦点となっている問題について解説をおこなう。後半では、地球規模の国際問題ならびに世界各地で生じている国際問題を概観するとともに、アメリカとイラクの問題、パレスチナ問題などいくつかの事例を取りあげて、それらの要因や構造について理解させることをめざす。	
	暮らしと経済	経済の国際化や構造改革により、私達の暮らしを取り巻く環境は劇的な変化を遂げている。また、少子高齢化や女性の社会進出、ライフスタイルや価値観の多様化といったことも、社会を変化させる大きな要因となっている。この講義では、私達の日々の暮らしに関わる問題や話題をとりあげながら、それらの要因や構造、背景などを経済学的視点から分析し、これにより社会変化の潮流を学生に直観的に理解させることを目的とする。	
	社会学入門	社会学とは何か？。たとえば私たちが、家庭や子ども会や学級といった「社会」のなかで役目を割り当てられ、失敗を繰り返しながらその役目を果たす能力を修得し、その「社会」の「一人前」に育ってゆく過程。あるいは子どもたちが就職・結婚して家から出て行く・地域が高齢化する・都市化する等々で「社会」が変化し、人々の意識や価値観や生活様式が変化してゆくこと等も社会学の調査・考察のテーマとなる。私たちはこのような方法や発想によって社会のあり方について疑問を抱き、問題点を発見する態度を養いたい。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第1群・人文・社会・芸術科目 教養教育科目	ジェンダーと社会(人権を含む。)	ヒトは女性として(男性として)育てられ、それぞれ期待された性質や役割について学び、実行することをおして「一人前」の女性(男性)になってゆく。そのような性質や役割を期待する社会と個人の意思が一致しない場合、社会はその個人の意思や行為を逸脱・病い・犯罪とみなし、人権を侵害することもあるだろう。本講義は、このような個人と社会との関係について学ぶが、「社会学入門」と併せて履修することが望ましい。	
	日本人論	「日本人」というカテゴリーが自覚・形成されていった歴史と、その概念的な説明を行う。さらに「日本人」について適正に理解する方法について、文学・歴史研究・社会科学等々、幾つかの専門分野の研究業績を紹介する。そして学生に発表を行わせ、互いに議論を重ねてこのカテゴリーについての理解を高める。民族や国民・国家を相対的・客観的に捉えなおし、国際感覚を養成することにも留意したい。	
	情報文化論	情報通信技術というキーワードが、さまざまな場面で用いられる現代であるが、情報は情報通信技術が出現する以前から存在している。情報は知識を表現するのに使われ、コミュニケーション手段としての情報が存在していた。また、情報の特徴としては情報を加工し、再利用することが出来る。情報について総合的に着目することで、情報とは何か、また、情報技術が進むことで情報に対する対応の仕方の変化について考え、情報の役割について考察する。	
	異文化交流	本学では、多くの海外姉妹大学と提携し、長期休暇を利用した多彩な短期海外研修プログラムを計画・運用している。参加学生は、言語習得のみならず、現地での実体験を通して異文化理解を深めることができる。本科目の目的は、研修の成果が十分に上がるよう指導することであり、次の3つの活動により構成される。1. 参加する学生に綿密な事前指導を行う。2. 研修中も逐次コンタクトを取り続ける。3. 帰国後は詳細な報告を義務づけ、評価する。	
	文学表現と書道	「日本古典文学」は名家による筆写という歴史的経緯の中で書道上の鑑賞、調度手本としても現代に相続される一方、文学と書道表現は別の分野として教育・研究されてきた。活字化された古典に視覚的な美観を有する筆写本を重ねることにより、当時の鑑賞・理解に近づき、日本古典文学をより身近なものとして捉える。具体的には、古典を「なぞり書き」しながら読み味わい、当時の文字についても鑑賞・考察するなど体験型講義を多く取り入れる。	
	英語による日本文化	日本文化の底に横たわる精神を説いた英文を読み、日本文化を異文化圏で発信することができるようにする。新渡戸稲造著『武士道』、鈴木大拙著『禅と日本文化』、岡倉覚三著『茶の本』からの抜粋を読むことによって、日本人の倫理意識や禅の日本文化への影響や日本人の美意識を理解し、併せて戦後精神の一つの代表として大江健三郎の「ノーベル文学賞受賞記念講演」を英文で読むことによって、現代人としての日本文化のトータルな理解をめざす。	
	書写書道 I	小・中学校における国語科書写教育の学習内容について論理的に究明する。また現行の義務教育現場における書写指導事例を参考として、現代に即した書写教育内容や教授法を探索し、国語科における他領域・事項との関わりについても研究する。本科目は、書写書道Ⅱ(実技研究)の基盤と位置付ける。内容においては、小・中学校書写教育の研究ではあるが、特に義務教育前期である小学校低学年における書写指導も視野に入れ、硬筆並びに毛筆指導を計画し、その実践練習を行い、児童・生徒の国語科への興味を定着させることも目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第1群・ 人文・ 社会・ 芸術科目 教養教育科目 第2群・ 健康・ 自然科学科目	書写書道Ⅱ	「書写書道Ⅰ」で習得した理論や教授法を、実技を通して実践する。本講義では、小・中学校書写における、児童・生徒へ教授する技法の習得を中心に行う。小学校ではひらがな・カタカナ・漢字（楷書体）・漢字かな交じり文（楷書との調和）の学習を、中学校では小学校で習得した技術に行書体を取入れた学習を行うため、これらの技術を十分に教授できる教員の育成を行う。具体的目標として「文字を正しく整えて、早く、そして調和よく書く」を掲げ、文字の構成や筆順等を反復練習し習得することで、最終的に硬筆書写への応用を行うことを命題とする。	
	同和教育	同和差別に限らず、ひろく社会的弱者の問題について考え解決する「力」を獲得するための講義。このような問題を解消するためには、「理由のない差別・不利益」を創り出す私たちの側の当事者意識を喚起する必要がある。そのことは、学級経営の資質を獲得することにも有益だと考える。教免において重要な教科であるとともに、人権論関係の主用教科である本教科の重要性に留意したい。具体的な内容や構想としては、同和差別の実態説明。弱者問題が問題化されていった経緯の説明。両者のなかに我々が取り組むべき、あるいは取り組むことができる課題に関する説明である。	
	生涯スポーツ	健康とは、『栄養・運動・休養』のバランスで保たれる。したがって、健康の3本柱の1つでもある運動を生涯にわたって、実行できる運動の習慣性を体得させることを目的とする。また、心身ともに健康であることは体力の維持・増進はもとより、創造的な活動を行うことによって、他者とのコミュニケーション能力の向上も重要である。ゆえに自ら選択した各種スポーツ種目における技術やルールの習得を楽しみながら行うことにより、自主性と社会性のある健康生活を営む基礎を実技学習する。	
	健康の科学	より良き人生を生きるためには、心身ともに健康であることが重要な要件の一つである。人の日常行動やライフスタイルが健康レベルを規定することが明らかとなってきた現在、科学的知見に支えられた健康観と実践的な健康管理スキルを身に付けていくことが強く求められるようになってきている。本授業は講義形式で行い、兼題の健康問題に関する考察を深め、健康に関する基礎的素養を培う。	
	心の科学	心理学の理論について講義・演習を交え、体験から考えることを目的としている。演習での体験について理論を踏まえて考察する過程を通し、より立体的な自己理解、対人理解の考察が受講生に定着することをめざす。講義においては、ディスカッション、グループ討論等の形態も取り入れ、コミュニケーションについての考察が深まることも目的とする。教養教育科目の一つとして、メールやインターネットといった「記号」でのやり取りに慣れた世代である受講生に対し、言葉の背後にある表情、語調、雰囲気等のコミュニケーションの重層性について考察が深まることが期待される。	
	健康と栄養	(概要) 健康を維持・増進するために、食べ物と食べ方が身体に与える影響の大きさをよく理解し、学んだ知識を自分自身の食事に反映させて自律的食生活を営むことができるようになることを目標にしている。 (オムニバス方式/全15回) (米田寿子/8回) 食品選択やサプリメントなどに関する理解を深め、自分自身の食生活を評価・判定して改善の方法を考えることができるようになるための方法を講義する。 (屋代彰子/7回) 消化吸収の仕組み、ダイエットの功罪、栄養と運動の関係など、科学的理解に基づいてからだづくりを行なう重要性を講義する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養教育科目	第2群・健康・自然科目	環境と人間	我々人間は、環境との絶え間ない関わりを繰り返し存在している。この講義は教養教育科目として、自然環境と人間、環境としての対人関係、環境とストレスを主なテーマとし、様々な視点からよりよい人間と環境のあり方について考えていくことを目的とする。授業内容としては、環境と人間の関わり方の歴史、諸外国と日本の環境への取り組み、環境モデル都市に向けた取り組みを行っている地元北九州市の環境の施策の紹介等も取り入れる。	
		生命科学	生命科学研究の歴史、それによって明らかにされてきた生命現象の重要な発見を紹介する。生物の共通条件である「自己複製」と「代謝」の機能を理解し、さらに生物の適応と多様性について動物生理学の分野で明らかにされていることを紹介する。一方、ヒトの生命に関する新しい課題である生命倫理、体外受精、尊厳死、遺伝子治療等について解説する。自らの生命について、科学的理解を深めることができるようになることが目標である。	
		宇宙の科学	現代の宇宙物理学の観点から、我々の宇宙が誕生してからどのようにして現在の姿にまで至っているのかを、歴史的に重要な発見や最新の観測結果を交え、星の一生やビッグバン理論、相対性理論等を通じてなるべく平易に解説する。宇宙の成り立ちには、物質を構成している素粒子の性質が密接に関係しているが、そのことについても触れる。 また、ダークマターやダークエネルギーなど、現在でも解明されていない宇宙の謎についても解説する。	
	第3群・外国語・情報科目	総合英語 I-A	英語の4技能の練成を行う。難易度が比較的低い題材を数多く読み、且つ簡単な日本語の文章を英語で表現することを数多く行うことによって、頻出する文法事項（特に5文型、準動詞（不定詞、動名詞、分詞）、関係詞、接続詞）をさほど意識せずして操れるようになるまで練成することをめざす。特にリーディングとライティングを関連づけた練成を行い、さらにリスニングを繰り返すことによってスピーディな英語能力をめざす。題材の選定に関して、学生の興味と意欲を高めるように工夫する。	
		総合英語 I-B	総合英語I-Aの内容を踏まえて、引き続き英語の、特にリーディングとライティングの力を練成する。後半は特に、題材に学生たちに比較的なじみのある時事問題等をインターネットから選ぶことによって、時事問題に使われる英語の語彙や表現を習得し、それらを使って時事問題への意見を各自が表現できるようになることをめざす。総合英語 I-Aのアドヴァンスコースとして、英語の運用能力と今日の世界の状況と自分の立ち位置への意識の高まりを連動させることを目標とした英語教育を行う。	
		総合英語 II-A	本講義では英語でコミュニケーションを図る際に必要とされる本格的なリスニング力や読解力を養う授業を行う。英語による写真説明、応答や会話を聞き、内容を正しく判断する力を身に付けさせる。また、英語の文法理解を深めると共に、語彙を拡大させ、英文の速読直解力を向上させる。異文化理解を含むグローバルなトピックを学ぶことによって、英語のリスニング力を向上させるとともに、広い知識と視野を持った国際人の育成を図る。	
		総合英語 II-B	本講義では社会や企業が求める英語力を養うためにさらに英語の4技能の研鑽を深め、英語を媒体としてグローバルな知識を深めていく。そのためにCALL教材やPodcastを利用して時事英語や観光英語など実践的な題材の英語を学ぶことによって語彙力を高め、リスニング力や読解力のさらなる向上を図る。また、著名なスピーチやプレゼンテーションを聞くことから自分の意見や考えを英語で述べる発信力の養成へと発展させ、広い知識と視野を持った国際人の育成を図る。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第3群・ 外国語・ 情報科目 教養教育科目	英語コミュニケーションⅠ-A	このコースの目的は、(1) 学生が自分自身の考えを英語でまとめ、表現することができるようになること、(2) このコースで取り上げる様々なトピックや問題を議論できるようになることである。国際的なコミュニケーションの手段として、英語が最重要であることに重点が置かれる。学生は積極的にクラスのディスカッションに参加することを求められる。授業は英語で行われ、内容はテキストや追加の教材で取り上げるものである。	
	英語コミュニケーションⅠ-B	このコースは、これまでの学習から習得した英語のスキルを鍛え上げ、上達させることを目指している。このコースの目的は、(1) 学生のコミュニケーション能力をさらに発達させること、(2) 自分自身の考えを英語でまとめ、表現できるようになること、(3) このコースで取り上げる様々な話題を理解し、ディスカッションできるようになることである。学生は積極的にクラスにディスカッションで参加することが求められる。	
	英語コミュニケーションⅡ-A	このコースは、これまでの英語の学習から得たスキルをさらに広げ、発達させることを目的としている。このコースでは、一般的なスピーキングとリスニングのスキルを向上させる練習の機会を与えている。また、学ぶ人が社会的でアカデミックな状況で、英語を話す時により自信を持つことが出来るような、リスニングとスピーキングの戦略を紹介している。学生は積極的にクラスにディスカッションで参加することが求められる。	
	英語コミュニケーションⅡ-B	このクラスは、ある程度のレベルの英語を習得した学生に向けた、上級者向けのクラスである。このクラスでは、学生がこれまでの英語コミュニケーション・クラスで身につけた、英語コミュニケーション・スキルを高めるようにすることを目的としている。また、学生により高いレベルの内容を紹介し、それによって、国内や国際的な重要な問題を討議したり、議論したりできるような能力を持つようになることを目的としている。	
	TOEIC I	本講義では、TOEICテストを用いて実践的な英語でのコミュニケーション能力を自己確認することを目的とする。そのために、TOEICテストの全貌について学び、その受験技術とテストで用いられるコミュニケーションのための実用文(話し言葉、書き言葉)に慣れる。基本となる英文法力の再構築と向上を図り、さらにCALL教材やpodcastなどを使ってリスニング力と文法を含んだ読解力の向上を図り、目標の得点獲得を目指す。	
	TOEIC II	本講義では、社会や企業が求める英語コミュニケーション能力を養成するためにTOEICのさらに高いスコアの獲得を目指す。そのために、基礎的な文法力や読解力をさらに鍛えるとともに、ビジネス英語や観光英語の基礎から実践までの知識や語彙を増やし、CALL教材やpodcastなどを駆使してリスニング力と文法を含めた読解力の向上を図ることによって目標の得点獲得を目指す。さらに実践的英語力を育成するためにビジネスレターやプレゼンテーションを含む英語による発信力も養う。	
	英語ゼミナール	本ゼミナールでは英語の音声学的特質や第2言語としての英語習得に関する知識を深め、各自の興味あるテーマによるリサーチへと発展させる。そのためにまず、英語音声分析や英語語彙分析などのワークショップを受けることによって、英語の特徴を実感し、リサーチでの分析法や研究方法を学ぶ。さらに、日本と世界の英語教育の現状や科学的実験によってわかってきた英語学習関連の知見についても学習する。最終的には各自のテーマを決定し、情報収集、情報分析、それに基づく考察と論理的思考法を学び、研究を行い、発表力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第 3 群 ・ 外 国 語 ・ 情 報 科 目 教 養 教 育 科 目	フランス語 I	第2外国語の選択科目としてフランス語初級を教授する。英語全盛の現代にあっても、第2外国語の意義はいささかも減じていない。運用面はともかく、思考の訓練や視野の拡大、知識の重層化等に極めて有用であり、新学部が掲げる「総合的教養教育」の重要な一環を形成する。学習内容は文法・読解中心ではなく、新学部の求める「コミュニケーション能力」「自己表現力」を重視しつつ、四技能を総合的に習得できるよう配慮する。	
	フランス語 II	「フランス語 I」の継続科目となる。授業方針や目標は「フランス語 I」と同様である。フランス語での「自己表現力」を鍛えながら、文法・読解・作文等をも含めた総合的な語学力を習得させる。また語学は「楽しく学ぶ」ことが重要なので、視聴覚教材や学習ゲーム等を積極的に取り入れる。さらに、フランス文化を紹介することによって、多角的な視野を身につけさせることも授業目標の一つである。	
	中国語 I	中国語 I は、初心者向きの入門コースである。「中国語は楽しい、易しい」という講義を心掛け、日本人学習者にとっての「難問」である発音を要領よく取り上げ、文法と表現においても、難解なものを除き、日常生活によく使われる事項に絞る。教科書は、短い会話を使用し、また「麻婆豆腐」のような、身近な中華料理用語や旅行、買い物など実用的な会話能力を身に付けることを目標とする。	
	中国語 II	中国語 II は中国語 I を習得したものを対象に行うものである。中国語 II は、「より実用的な、より分かりやすく、より覚えやすく」をモットーに、中国語の基礎を身につけて、楽しい中国語の会話を覚えてもらう。中国語 II は「自己紹介ができる、時間、日時、曜日など簡単な質疑応答ができる、中国語の料理メニューの意味が理解できる」ことを、学習成果の目標としている。	
	韓国語 I	韓国語に初めて接する受講生のための韓国語入門である。日本人が韓国語を学ぶときも苦手とする発音の練習から取り組み、日常生活に必要な基礎的表現を覚えていく。韓国語学習の楽しさを体験しながら、「書く」「読む」「話す」「聞く」能力の習得をめざす。講義は韓国語の基礎を会話練習等をもって学習していく形式である。また、言葉の学習を通して、意外と知られていない隣国の素顔に数多く触れることも重要な目標である。	
	韓国語 II	「韓国語 I」で入門に必要な知識を習得した受講生のための初中級講座である。「韓国語 I」と同様に、韓国語学習の楽しさを体験しながら、4技能の習得をめざす。会話練習等をもって学習していく形式も同じである。これは、新学部の求める「コミュニケーション能力」「自己表現力」養成という目標にも合致する。さらに、韓国人の民族性や思考法等にも触れることによって、異文化への理解力が一層深くなることも期待される。	
	情報処理演習 I-A	コンピュータを操作しながら、そのための基本知識と基本技術を学習する。第1段階として、マウスやキーボードの基本操作、さらに周辺機器としてのプリンタや外部記憶装置（フロッピーディスク、フラッシュメモリ、DVDなど）の役割や使用方法を理解する。第2段階として、電子メールの仕組みについて学習し、演習を行う。第3段階では、日本語ワープロソフトの操作方法を学習し、文書作成の技術を習得する。	
	情報処理演習 I-B	コンピュータを操作するために必要な基本知識と技術を学習する。本演習では表計算ソフトとプレゼンテーションソフトを使用し、コンピュータの基本的活用法を学ぶ。表計算では、データ入力および数式入力の基本を習得した後、関数の利用方法や効果的グラフの作成方法について学習する。プレゼンテーションでは、そのソフトの役割や基本知識を学習し、幾つかの事例を基にした演習を行う。また、総合的演習を通して、高度な応用力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
第3群・ 外国語・ 情報科目	情報処理演習Ⅱ-A	コンピュータのハードウェアとソフトウェアを利用する知識と技術を、演習を通じて習得する。具体的には、計算の効率的な自動化、数値誤差、データの高度な処理、異なるソフト間のデータ引き渡しのためのファイル形式、マクロを用いた処理の自動化等の、高度な活用、応用技術や知識を学ぶ。特に、コンピュータを適性かつ高度に利用・応用し、将来にわたる情報技術の活用能力を習得することを主眼とし、新しい課題等に直面したときに自ら解決できるよう演習を行う。	
	情報処理演習Ⅱ-B	コンピュータでは、問題をどのように処理しているかを理解するために、コンピュータを利用するための基本知識と基本技術を、プログラミング演習を通じて学習する。簡単なプログラミング言語を用いて、プログラミングとはどのようなものであるかを学習し、実際のプログラム作成の演習を通じて、プログラミングの基礎やアルゴリズムに対する基礎的な理解を深め、問題を解決するための考え方を学び、演習を行う。	
教養 教育科目 第4群・ キャリア 支援科目	キャリアデザインⅠ	導入教育、大学生活の設計、学習内容および方法の理解、適正な職業観の育成を目的として、共通教育機構所属の教員と学部所属の教員とが共同で、「キャリアデザイン講座」(5週)と「基礎演習」(10週)を組み合わせて実施する。主な内容としては、キャリア教育の意義と目的、職業世界の動向および企業等の人材育成、企業等における人間関係、大学における学習および生活の設計、自己のキャリア設計などである。内容に応じて、企業関係者や卒業生等を外部講師として招聘する。これらを通して、自己の将来の目標や職業を視野に入れ、そのためにいまだのような基本的知識・技能を身につけるべきかを考える契機とする。	
	キャリアデザインⅡ	「キャリアデザインⅠ」の授業方法を継続実施し、またその内容を基盤として進める。とりわけ「キャリアデザインⅡ」では、第一に本学で用意された学問領域とその領域の学修により拓かれる職業との関連を理解すること、第二に2年次以降の具体的なコース所属を視野に入れ、大学における学習および生活の設計、並びに自己のキャリア設計を行うこと、を主たる目的とする。	
	キャリアデザインⅢ	本学が開設する乳幼児発達、児童発達、心理、国語・書道、図書館・情報の各専門領域(資格、免許、あるいは就職先)に対応する具体的なキャリアデザインを明示して、各自のキャリア設計を具体化させるとともに、それぞれのキャリアに必要なとされる専門的知識や技能について理解させることを目的とする。授業方法は、「キャリアデザインⅠ、Ⅱ」と同様「キャリアデザイン講座」と「基礎演習」を組み合わせて行う。	
	キャリアデザインⅣ	「キャリアデザインⅢ」に引き続き、乳幼児発達、児童発達、心理、国語・書道、図書館・情報の5コースに対応する各自のキャリア設計を具体化させるとともに、必要とされる専門的知識や技能について理解させることを目的として行う。さらに、「キャリアデザインⅣ」では実践的要素を重視し、各領域に応じたボランティア活動やインターンシップ・プログラム等を含める。	
	キャリアデザインⅤ	共通教育機構、学部および学生支援課(就職係)の連携により、本学の就職実績および求人情報に基づき、各職種に対応したキャリアデザイン講座を開設する。九州地区を中心とした本学の就職実績および求人情報について具体的データを示しながら、本学の就職対策について理解させる。また、各職種に対応した模擬面接や模擬試験等を実施することを通して、これまで学んだ専門的知識を自己のキャリア設計との関連で改めて確認し、その定着を図る。	
	キャリアデザインⅥ	基本的には「キャリアデザインⅤ」の内容および方法を継続するが、「キャリアデザインⅥ」では、模擬面接や模擬試験等を多く実施するとともに、具体的就職活動場面を想定して、マナー講座、書類作成講座等、より実践的な内容を実施して就職活動から採用にいたるまでの流れや手続き等を把握させる。これらを通して、職業人の資質として求められる基本的姿勢、態度の表現方法を修得させる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 教育科目	第4群・ キャリア 支援科目	キャリアデザインⅦ	教養教育において培った英語力をさらに強化して自己のキャリアに活かそうとする者を対象として、国際化社会に対応する英語コミュニケーション等の英語力を強化することを目的とする。聞き取る力、話す力を強化するとともに、ことばの背景にある文化や社会についても合わせて理解させる。	
	キャリアデザインⅧ	キャリアデザインⅦと同様、教養教育において培った英語力をさらに強化して自己のキャリアに活かそうとする者を対象として、国際化社会に対応する英語コミュニケーション等の英語力を強化することを目的とする。特に「キャリアデザインⅦ」では、各職種に対応した英語力育成のために、ビジネス英語、英語プレゼンテーション等の講座を継続的に開設する。		
専門 教育科目	共通 科目	人間学概論	人間を学問的に研究する場合様々な方法があるが、主流を占めるのはやはり医学的研究である。しかし人間というものはコミュニケーションと言う手段で自己の思考を表現する事ができる。そこで他者との関わり、集団生活の中での自己表現、例えば学生ならば、学校生活、社会人であれば、社会組織と自己などの人間関係が発生する。このように人間というものは、完全に孤立した状態で生活することはできない。そこで本講座では人間を身体論だけではなく、精神と身体の関係、また社会と人間との関わりから論じてゆく。	
		文学概論	(概要) 1980年代以降、文学の定義をことばの問題に限定することはできないと見なすようになり、文学作品を社会権力というイデオロギー的観点から読む傾向が出てきた。この講義では、このような観点から文学を講じる。 (オムニバス方式/全15回) (馬場雅典/5回) ポール・オースター、ドン・デリーロ、ステイーヴ・エリクソンといった現代アメリカ作家の作品を通して、現代社会と文学、特に現代人の生活実感の稀薄さをマス・メディアや政治との関連で描き出す文学について講じる。 (山下高之/5回) 18世紀～20世紀におけるフランスを中心としたヨーロッパ文学を、現代批評の流れに沿って捉え直す。 第1回：テーマ批評、第2回：精神分析批評、第3回文学概論：構造主義、第4回：ナラトロジー、第5回：ポスト構造主義。 (若松信爾/5回) 古来から中国文学は、政治権力と不可分な関係にあった。特に漢詩文は官僚になるための必須科目であった。そこで本講義では、従来の文学そのものの鑑賞とは異なった、政治的イデオロギーの中での漢詩文の役割に重点を置いて、政治と文学の関係を考察する。	オムニバス方式
		日本文化論	日本固有の思想・伝統・習慣・価値観などといった日本文化について理解を深める。日本人と旅・笑い・妖怪・風土・異文化との交流・出版文化・昔話・仏教などの項目を通して日本文化について考える。日本文化の持つ独自性・普遍性・可能性をとらえることで、日本人らしさや日本の過去・現在・未来について考察することで、日本文化がどのように変貌してきたかということについても考える。	
		言語学概論	言語学はここ20～30年の間に大きく変貌を遂げている。言語に関する基礎的知識を得ることを目的に、ことばの起源・言語習得・日本語の特徴などの項目を通して、社会や文化におけることばについて考察する。赤ちゃんはどうやってことばを使えるようになるのか、世界にはいくつの言語があるのか、日本語はどこから来たのか、漢字は必要かなどといった問題について説明し、ことばについて意識的に考えるようになるきっかけを提供する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 教 育 科 目	共 通 科 目	多文化理解	<p>(概要) 異文化やいわゆる弱者と共に生き、共に学ぶことをとおして「弱者」や例外少数者の差別と不利益を創り出さない安全で快適な日本社会が創造され、私たちの人生もより有意義になる。本講義では、このような基本理念のもとに教員三名によるオムニバス形式で15コマの授業を5コマずつ分担する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (牛島史彦/5回) (文化人類学・同和教育)</p> <p>本講義での「多文化」とは、外国人だけでなくいわゆる障害を持つ市民や社会的弱者あるいは多数派からの逸脱者等との共生が可能な社会、という意味であり、担当5コマではこのような基本的理念について社会科学の立場から概説する。</p> <p>(石黒栄亀/5回) (特別支援や発達障害)</p> <p>発達障害を抱える弱者への特別支援という観点から、多様性を認める多文化・共生社会の具体的な課題と展望について概説する。</p> <p>(中山智哉/5回) (児童福祉・保育論)</p> <p>前二者が理念や教育支援の観点であるのに対して、福祉・保育の制度論(行政論)の見地から概説する。より具体的・実証的な内容であり、多文化・共生の実現に際しての課題が明確となる。</p>	オムニバス方式
		心理学概論	<p>心理学の基礎をできるだけ広範囲に学ぶことが目的である。はじめに、心理学の諸領域の紹介と歴史的背景、研究方法について概略を説明する。その後、行動の生物学的側面、行動の変容や知識獲得に関する学習の側面、やる気や無気力に関する動機づけの側面、ストレスと情動、知覚と認知、記憶と忘却、思考と言語、パーソナリティの形成と知能、臨床心理学の基礎など、歴史的背景に触れながら理論の変遷も含めて解説する。</p>	
		発達心理学	<p>発達心理学は、生涯発達という視点から、時間の経過が人の心理の様々な機能にもたらす変化を取りあげ、そのメカニズムに関する基礎的な知識・理論を学習するものである。特に小学校教員や保育士・幼稚園教諭をめざす学生が、人の生涯における早期(乳幼児期～児童期)経験の重要性を理解することによって、教育や保育の果たす役割を自覚し、子どもの健全な発達のために適切な発達課題を設定できるようになることを学習の到達目標とする。</p>	
		文化心理学	<p>文化は、特定の地域や時代の人々の心理的特性がひとつの形を持って顕著化したものと考えられる。このような視点を文化心理学として捉え、さらにある文化を他の領域や他の文化と比較することにより、その文化の固有性や特徴をはっきりととらえることができる。本講義では、社会的・文化的影響によって人間の行動が形づくられていることについて、文化の理解と定義、文化と自己・文化と発達・文化と感情・文化と言語・異文化コミュニケーションなどの側面から概説する。</p>	
		社会心理学	<p>人間は、他者との相互作用の中で生活をしている。家庭、学校、職場といった様々な場面で、人は周囲の人々から影響を受け、また逆に周囲の人々に影響を及ぼしている。社会心理学は、人間の社会的行動に関する心理学的な法則を解明しようとする学問である。本講義では、社会的認知、対人認知、認知的不協和、社会的影響、競争と協力、親密な対人関係、援助行動、攻撃行動、社会心理学における重要な概念および理論を紹介し、日常の身近な問題と結びつけながら、人間の社会的行動に関する理解を深める。</p>	
		健康心理学	<p>現代社会においては、「健康」への関心が高まっており、健康の維持・増進や疾病の予防・治療、健康教育などへの対応が重要な課題となってきたが、健康心理学では、このような視点から、人間の心身に関する問題を総合的に扱う。本講義では、健康心理学の歴史と定義、心理学的ストレス理論、パーソナリティと疾患、ライフスタイル、健康教育、健康心理アセスメント・カウンセリングなどの課題について概説していく。それらを通じて、健康心理学の概念と実践方法について理解を深め、対人援助に関わる者に必要とされる知識を身につけていきたいと考えている。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎科目 （人間発達学専攻）	児童発達	国語科教育概論(書写を含む。)	国語科教育固有の目標である「生きてはたらくことばの力の育成」達成のための授業づくりの基礎理論としての ①国語科教育の意義・目的、②国語科教育の内容・構造、③国語科教育の今日的課題、そして、授業づくりの基本的要素としての教材研究の内容と方法について講義する。講義の方法は、受講者が主体的に受講できるよう、「書く」「読む」「話し合う」「発表する」「比べる」「評価する」などの多様な言語活動を取り入れる。	
		算数科教育概論	この講義では算数科の授業を算数科学習指導要領の主旨に沿って行うために必要な算数教育の基礎的事項について解説する。具体的には、算数教育の歴史、算数教育の目標、算数指導の基礎的事項、算数科学習指導要領の構成、算数科の指導内容について学習する。特に、最近の算数教育では、基礎基本の重視、算数的活動、コミュニケーション能力の育成等が強調されている。これからの算数教師にとって、これらの意味理解とともにそれらが重視、強調される理由を理解することが一層重要である。この講義では、このような意図のもとに講義を進める。	
		生活科教育概論	小学校低学年で教授される生活科は、生活の基礎を学んだ幼児期の教育に引き続き、児童が自立していくための基礎・基本を養う科目である。また、就学前教育と学校教育とをつなぐ大切な科目といえる。本講義では、生活科の目標や内容をはじめ生活科で教えられている具体的な事例を挙げながら、生活科についての知識習得をめざす。そのために教材ビデオの分析や、地域マップづくりの実践、生活科カルタづくりなどの作業も取り入れ、生活科への理解を深める。	
		社会科教育概論	社会科は第二次世界大戦後の我が国の教育を担う中核的教科として登場し、我が国の民主化の歴史と共に歩み実践され今日に至っている。こうした社会科の歴史を概略理解する中で今日の義務教育の中で果たす役割と意味を考えていきたいと思う。児童は自らの生活盤と身の周りの社会からより確かグローバルな社会認識を培っていく力の基礎や視点を養成していきたいと考える。	
		図画工作	本授業は、表現活動、制作活動を実際に行ない経験することを通して図画工作科の教科内容を学び、児童の視点と教師の視点をクロスさせながら図画工作の学習活動の成立について学ぶことを目的とする。授業は演習形式で行い、図画工作における材料・道具を体験し、共同作業による「造形遊び」などを体験する。そして、授業内において、随時、図画工作科の授業実践例、美術の広がりや映像資料等で紹介し、ディスカッションを行うことをとおして今日の図画工作科の授業の在り方を学習するものである。	
		理科教育概論	子どもの発達成長を促すべく、目的、組織的な働きかけを行う学校において、教科「理科」が設けられている理由を、ヒトの本性の一つである「科学する行動」（問題解決行動）の発達の視点から講義し、そのためにねらう目標を学習指導要領を解説しながら説明する。また、その目標達成の為に、子どもの発達段階を基に、小学校理科においてはどのような内容を指導するかを解説し、その後の「理科指導法」（後期）や教育実習に資する。	
		家庭科教育概論	小学校家庭科は、生活を営むために必要である基礎的な知識や技術を培い、児童の日常生活において実践できる態度を育てる科目であり、中学校の技術・家庭科や、高校の家庭科の基礎となる大切な科目でもある。本講義では、衣・食・住生活および家族や、消費、環境のような新しい生活課題を踏まえ、小学校家庭科の目標や内容を解説する。また、被服製作と調理実習を交えながらについて講義を進め、授業設計のための基礎的な知識・技術を習得し、家庭科についての理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	基礎科目 児童発達	体育	体育の授業では、単に体を動かし汗をかくといった発達刺激としての運動量確保が求められているわけではない。運動技能や認識に質的な差のある仲間（異質集団）とともに、運動技術の分析・総合能力を高めたり、練習メニューのプログラムを立てたり、ゲームを行うために必要な知識を学びルールを考案したり、戦術や戦略を工夫したりする学習が求められる。本授業では演習形式を採りながら、学習者相互のかかわり合いを深めるのに適した教材を取り上げ、その実技を通してグループ学習の進め方について体験的に学ぶことをめざす。	
		器楽基礎	子どもの感性と表現を豊かにするために、幼児教育・小学校教育の現場で必要とされる、ピアノ演奏技術を修得することを目的とする。ピアノ演奏のための基礎技術を身につけるとともに、ピアノ実技演習を通して音楽的な基礎知識（コードや簡単な楽典等）を学び、表現力を養うことを目標とする。習熟度によって3つの段階（グレード）に分類し、個々の演奏能力に応じた課題曲を個別指導の形態で学習する。	
		声楽基礎	子どもの感性と表現を豊かにするために、幼児教育・小学校教育の現場で必要とされる、声楽の基礎訓練と歌唱技術を修得することを目的とする。コールユーブンゲン教材として使用し、柔軟体操・呼吸法・口の開け方・発声法等、演習を通して身につける。個々の学生の能力に応じて、幼児唱歌・小学校教材から課題を与え、ピアノの弾き歌いにより歌唱技術を学ぶ。独唱や合唱の演習の過程の中で歌う喜びや達成感を学生自身に体験させる。	
	乳幼児発達	保育原理Ⅰ	保育・幼児教育の基礎をその知見に則り、広範囲に学ぶ。保育の意義とその根拠について学んだうえで、保育の場、歴史と現状、保育の目標、内容、方法、保育の計画と評価、健康・安全、多様な保育ニーズへの対応、相談援助活動、保育における自己評価、家庭・地域との連携、近年の保育動向などについて保育実践の根拠となる基本的知識を習得する。特に、現在の保育がどのような歴史的、社会的背景によって成立しているかを考え、保育の社会的役割について検討する。	
		保育原理Ⅱ	保育原理Ⅰで学修した保育に関する基礎的・基本的知識を踏まえて、本授業では、第一に保育の今日的課題のなかから「少子化」や「子育て支援」などをキーワードとして親子関係の現在と保育者の役割について考える。第二に、保育行政の動向を把握しつつ、今日の保育の課題と今後の方向性について考える。そして第三に、保育所・幼稚園実習に向けて、具体的保育実践例を検討しながら、保育者の援助や指導計画作成などについて考える。	
		児童福祉Ⅰ	近年、児童虐待、非行、引きこもりなどの子どもをめぐる問題がクローズアップされているが、それらは児童の福祉の課題に含まれる。本講義では、児童福祉の理念、仕組み、実施サービス等について概説し、児童福祉の体系を理解していく。特に、最近の社会情勢の変化は、児童の福祉に対して大きな影響を及ぼしているため、その点も踏まえつつ、福祉の現場で対人援助に当たろうとする者に必要とされる基礎的な考え方や知識を習得していきたいと考えている。	
		児童福祉Ⅱ	近年、児童虐待、非行、引きこもりなどの子どもをめぐる問題がクローズアップされているが、それらは児童の福祉の課題に含まれる。本講義では、児童福祉Ⅰで学んだ児童福祉の理念、仕組み、実施サービス等の総論を踏まえて、児童福祉における最新の話題や課題、あるいは、現場における取り組みや事例をできるだけ多く提示することとする。それによって、知識を一層深めるとともに、実践的な感覚も養っていくこととし、福祉の現場で実際に役立つような知識や態度を身につけていきたいと考えている。	

授 業 科 目 の 概 要					
(人間科学部人間発達学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
基礎科目 （人間発達学専攻）	乳幼児発達	専門教育科目	小児保健Ⅰ	子どもの発育・発達には養育するものとの相互関係のあり方が重要となる。そのため、小児の心身の健全な成長をはかるための育児や保育の考え方、また方法を習得する。さらに保育の基本は、子どもの生命を守る事であり、小児期の健康生活を保障する事は最も重要である。そのために必要な知識として、小児の発育・発達、小児の栄養、よくみられる病気と事故、病気の予防と保健指導、小児の生活、環境と育児について基礎知識を習得する。	
			小児保健Ⅱ	「小児保健Ⅰ」で学んだ子どもの身体と心、そして子どもの生活を理解した上で、健康の保持増進をはかれるよう、子どもの健康の意味を認識し、保育実践における健康活動の重要性を理解する。なかでも子どもに多く見られる健康問題について理解し、集団生活を行う上での対応や、健康観察、健康管理、健康教育の重要性を学ぶ。また、保育園（所）や幼稚園など、施設や周辺環境衛生も、保育の上で重要であるため正しい知識を身に付ける。	
			保育内容（言葉）	乳幼児の言葉が、母親や家族、仲間とのかかわりのなかで育っていく過程について学び、それらをもとに言葉の豊かな育ちにかかわる保育者の役割と援助について考える。特に子どもの言葉を育てるために保育者が果たす役割について理解を深め、実践の根拠となる基礎力を身につける。また、演習を通して子どもの言葉を豊かにする教材に触れ、互いに演じるなどして実践力を高め、言葉の育ちに保育者がいかにかわることができるかを考えながら学ぶ。	
			保育内容（人間関係）	子どもにとって保育所や幼稚園という初めての集団生活は、家庭で形成した愛着関係を基礎として、社会性を育む起点となる。そこで保育士や幼稚園教諭は、子どもの社会性の発達を的確に評価し、発達段階に応じた適切な関わりをしなくてはならない。本講義は、実際の保育場面での子ども達の人間関係のあり方を発達段階ごとに学び、人間関係の問題やつまずきの具体的事例を通して、発達の評価および関わり方についての理解を深め、対応のプランを立てることを学習の到達目標とするものである。	
			養護原理	近年、児童虐待、非行など児童の福祉をめぐるさまざまな問題が取り上げられるようになり、子どもたちを守る児童福祉施設の役割が重要になっている。本講義は、家庭の事情により児童福祉施設に入所してきた子どもたちに対して行われる社会的な養護サービス、すなわち施設養護について、その歴史や制度、実際等に関して概説する。それによって、施設養護における保育士の役割や援助技術についての基礎的な理解を深めておこうとするものである。	
			社会福祉原論	社会福祉の基礎をその知見に則り、広範囲に学ぶ。社会福祉の意義とその根拠について歴史的な変遷をふまえながら学んだうえで、現代における社会福祉の理念および法体系、制度、行財政等について理解し、社会福祉の実施体系と福祉専門職の役割について学ぶ。さらに現代の社会福祉をめぐる動向や課題、利用者制度のあり方等について理解を深め、社会福祉の実践の根拠として必要とされる社会福祉援助技術の概要を理解させる。	
			乳幼児心理学	乳幼児心理学では、乳幼児期における心の発達について、発達段階ごとに、認知・言語・情緒・社会性といった諸領域の発達過程についての概説を行う。また、「子育て支援」のニーズを踏まえ、周産期から始まる母子関係が子どもの発達に及ぼす影響も取り扱う。本講義では、保育士や幼稚園教諭をめざす学生が、乳幼児期がその後の一生に大きな影響を及ぼす重要な時期であることについて理解を深め、それぞれの責任を自覚し、指導者としての基本的姿勢を身につけることを学習の到達目標とする。	
			社会福祉援助技術	保育実践に必要な社会福祉援助技術の概要と歴史について学んだうえで、社会福祉援助技術の内容と方法について演習を通して習得する。その際、人権の尊重、自立支援、秘密保持等の基本姿勢を理解し、保育士の職務として活用する機会が多い個別および集団援助技術、地域援助技術について事例を用いた演習形態で学ぶ。特に、多様化する支援ニーズを意識して、現代的な問題を中心に演習を通して実践的な力量形成を図る。	

授 業 科 目 の 概 要					
(人間科学部人間発達学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	基礎科目 (人間発達学専攻)	乳幼児発達	保育の基本と保育内容・方法について理解することを目的とする。領域毎に示される保育内容を総合的に捉える視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学び、発達過程に即して子ども理解を深める。また、総合的に指導・援助を行う実践的な力を習得するために、具体的な保育活動事例について演習形式で学ぶ。さらに、各領域に視点を生かしながら保育を実践する際の留意点について学び、具体的方法について理解を深める。		
		障害児心理学	最近、発達障害を抱えた子どもたちが、学校・保育の現場に、少なからず存在する事が明らかになってきており、そのような障害への理解や対応の問題が、非常に大きな課題となってきている。本講義では、児童に見られる主な障害について、概念や種類、その特徴、さらには援助法等について概説していく。それによって、障害児に対する理解を深め、対人援助の専門職としての基本的な姿勢や態度を習得していきたいと考えている。		
		障害者教育総論Ⅰ	特別支援教育とは、障害のある児童・生徒が必要とする教育ニーズに応え、一人一人の能力や可能性を伸ばすために、さまざまな方法を用いて適切な教育を行うことである。そのときに重要なのは、対象となる児童・生徒がもつ生活上・学習上の『困難』を理解し、寄り添うことである。この授業では、障害児の生活上・学習上の『困難』の見立て、教育的支援のあり方に重きを置いて、特別支援教育の概要を学んでいく。		
		障害者教育総論Ⅱ	「障害者教育総論Ⅰ」での学習を土台として、特別支援教育の意義、対象となるそれぞれの障害の教育内容・方法などについて学習する。「障害者教育総論Ⅰ」同様、障害別に児童・生徒の教育ニーズと支援を迫っていくが、各教育現場が行っているより具体的な取り組みについて紹介することになる。特に、個別支援の問題や地域における障害児・者支援、家族理解の問題など、直近のトピックを織り交ぜながら進める予定である。		
		病弱教育	病弱・虚弱児における教育目標や指導法、教育課程、教育課題等について概説し、病弱児への教育的支援について今日的課題について積極的な考察を行う。また病弱児教育担当の専門性向上を図るため、様々な疾患を有する子ども達の精神的、肉体的背景を理解することを目的とする。さらにこれからの特別支援教育における病弱教育部門について、教育的支援を必要とする児童生徒への理解を根底に基礎的な指導方法の概論および教育・医療連携体制の必要性について解説を行う。		
		知的障害者の心理・生理・病理	知的障害の定義や原因についての理解および、児童・青年期にはじめて診断される障害への理解も併せて深めていくことを目的とする。また知的障害の知覚、認知、運動、言語、社会性などの発達と障害についてのみならず、広汎性発達障害、ADHDなど、現在、学校現場で問題になっている発達障害児への臨床症状について学習し、心理学、医学関連の知識を深めることから、子どもの問題を解決する上で、支援者としての柔軟で力動的な対応を可能にするための基礎的な考え方を学ぶことを目的とする。		
	基礎科目 (人間基礎学専攻)	心理学	学習心理学	学習心理学は、学習のメカニズムの理解、つまり学習に関係する様々な出来事や事象を支えている行動の仕組みを理解し、改善し、あるいは促進に寄与する科学である。本講義では、動物の学習、ならびにヒトの学習の理論としての、連合理論・認知理論・社会的学習理論等から学習の基礎メカニズムを解説する。これらの知識を基に、動機づけと学習、記憶過程、問題解決と推理、教概念の理解、読み書き学習など日常生活場面での学習過程について理解を深める。	
			臨床心理学	心の問題がクローズアップされるようになった現代においては、臨床心理学やカウンセラー(臨床心理士)についての社会的関心が高まっている。本講義では、臨床心理学の歴史と定義、重要な理論や概念、心理査定、心理療法、ライフサイクルに応じた課題等について、臨床心理士の実際の活動を紹介しながら概説していく。それらを通じて、対人援助の専門職としての基本的な姿勢や態度を習得していきたいと考えている。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎科目 （人間基礎学専攻）	心理学	知覚心理学	通常、私たちは視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚などの感覚器を通して外界情報を摂取する。みずからの行動を遂行するのに必要な外界の情報を抽出し、外界の表象を作り上げるのである。これが知覚である。この情報をもとにして個別の知識にもとづいた対照の同定がなされ、対象や事象に関する情報が記憶され認知される。知覚は認知からの影響を受ける。本講義では、知覚成立の基礎としての人間の生理構造・機能、感覚の種類、知覚の体制化、知覚の諸相、知覚に影響する諸要因、知覚の応用などについて概説する。	
		学校心理学	学校心理学は、欧米諸国では、スクールサイコジストという専門家の活動の理論と実践を支える体系として確立してきた。しかし、日本では「学校心理学とはなにか」については必ずしも明らかではない。本講義では、学校心理学とは、子どもへの援助をめざす活動とは、教師や保護者の役割、スクールカウンセラーの役割、教師・スクールカウンセラー・保護者の連携、子どものニーズに応じる学校教育サービスシステムのあり方等、について検討する。	
		心理データ解析法Ⅰ	心理データ解析法Ⅰでは、行動科学・社会科学で用いられる数的データの解析法の基礎を学ぶ。数の特性、量的変数と質的変数の違いについて理解した後、度数分布、データの数値要約について具体的事例を通して学習する。平均値等の中心傾向の測度・散布度・正規分布と相対的位置、直線相関と直線回帰などの記述統計を学ぶ。さらに、統計的検定の基礎（母集団と標本、適切な検定の選択、t検定・F検定等のパラメトリック検定）について演習する。	
		心理データ解析法Ⅱ	心理データ解析法Ⅱでは、心理データ解析法Ⅰの基礎知識を基に、実施のデータに基づいた統計処理の基本を演習する。ノンパラメトリック検定のカイ二乗検定、順位による検定、多変量解析の代表である重回帰分析、主成分分析、判別分析、因子分析、数量化Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ類などの考え方や原理を平易に解説し、分析の実際について演習する。その際、統計パッケージ（SPSS、SAS）を用いて、個々の統計手法の基本的な考え方を理解し、これらを実際の研究や調査で使えるようにしていく。	
		心理学実験実習Ⅰ	心理学実験実習Ⅰでは、知覚、運動、学習、記憶、行動に関する基本的な実験を行い、統制された条件下で行う様々な心理学の測定法について学習する。各テーマの担当者の指導の下、小グループで実験実習を行い、心理学の実験的研究手法に関する知識や手続きを身につける。また、実験者や被験者の立場を体験して、心理学実験に影響を与える要因等に関する理解を深めるとともに、心理学実験の進め方(教示の実際)、データ整理や資料収集・整理・結果の解析、報告書の作成、研究上のモラル・倫理の問題等の実践を学習する。	
		心理学実験実習Ⅱ	心理学実験実習Ⅱでは、心理学実験実習Ⅰに引き続き、認知、思考、対人、集団に関する基本的な実験を行う。各テーマの担当者の指導の下、小グループで実験実習を行い、心理学の実験的研究手法に関する知識や手続きを身につける。また、実験者や被験者の立場を体験して、心理学実験に影響を与える要因等に関する理解を深めるとともに、心理学実験の進め方(教示の実際)、データ整理や資料収集・整理・結果の解析、報告書の作成、研究上のモラル・倫理の問題等の実践を学習する。	
		認知心理学	認知心理学では、人の認識のメカニズムについて学ぶ。はじめに、情報処理という観点を歴史的背景に触れながら解説する。その後、知覚の成立過程に関する理論として、ゲシュタルト心理学、ニューロルック心理学、ナイサーの知覚循環論、奥行き知覚について学ぶ。さらに視覚的認知を概観した後、イメージの機能的性質、感情、記憶、情動、言語、文章理解、メタ認知、推論過程、音楽の認知、意義についても様々な実験研究を概説しながら、理解を深めていく。	
		コミュニケーション概論	人間の意味的相互行為としてコミュニケーションをとらえ、人間と人間との社会的コミュニケーションについて日常生活場面での具体例を挙げながら概説する。具体的な内容としては、コミュニケーションの定義と研究視座、研究方法とデータ収集、コミュニケーション研究の領域、記号の役割と意味作用、人間のコミュニケーションの構造と過程、言語コミュニケーションの特徴と多様性、非言語コミュニケーションの特徴・機能・諸相、インターネット・コミュニケーション等について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目 (人間基礎学専攻) 専門教育科目	心理学	カウンセリング概論	「カウンセリング」には、しばしば過剰な期待や誤解が生じがちである。そこで本講義では、そもそも「カウンセリング」とは何かという問題を心理学の発展の中に位置づけながら考えることから始める。本講義における学習の到達目標は、表面的な知識を身につけることではなく、カウンセリングにおいて求められるカウンセラーのあり方について理解することにある。すなわち、個々の学生が自分の「こころ」に関心を持って、自分自身に対する理解を深めるとともに、他者の「こころ」に関心を持ち、尊重する姿勢を獲得することを目標とする。
		楷書法Ⅰ	書道史における古典資料を基に、楷書作品に特化し、楷書法の基本的技術の習得を目標とする。具体的には、中国南北朝時代における基本的楷書体以前のものから、楷書法の基礎である「三過折」を有する楷書体、そして芸術表現を兼備えた清時代の楷書体までを通観し、その技術を習得しながら楷書体における変遷をも理解することを、最終段階とする。また、本科目は高等学校教諭書道の免許取得に必修である科目と位置付けているため、取り上げる古典は、高等学校芸術科書道にて主に学習するものを中心に練習を行う。
		楷書法Ⅱ	「楷書法Ⅰ」で習得した基礎をさらに応用し、作品制作を行う。制作に関しては、様々な紙面サイズ・紙面構成における幅広い制作を行う。技術面に関しては、歴史における文字変遷に即した表現方法を模索し作品制作を行い、様々な場面に対応できる制作技術を養成する。教育現場において、また書分野の中でも特に楷書体を中心に学習するため、そのことを考慮し演習を行う。書道史や鑑賞・書論などの知識も、創作活動には欠かせない分野である。これらの分野も含めた総合的科目であることを受講者に周知させ研究を行う。
		行草書法Ⅰ	行草書は一点一画を分離させて書く楷・隸書体と異なり、点画あるいは文字の流動性を重視する書体であり、行草書発生以来、実用書としてまた作品制作の素材として最もよく使われてきた。行草書法Ⅰでは、古典臨書により基礎的な技法の修得を重点に行う。二十世紀初頭、中国西域において大規模な発掘が行われて以降、行草書の書体変遷史は大きな改革の途上にある。そのような行草書の歴史的展開や行草書の能書家について併せて講述する。
		行草書法Ⅱ	「行草書法Ⅰ」で修得した基礎的技術を、さらに練磨し作品制作へと発展させることが、本講義の目的である。加えて、中国書道史における古典作品(行草作品)の技術について、現代におけるその展開の模索・究明を行う。作品制作に関しては、様々な紙面サイズ・紙面構成における幅広い制作を行う。行草書体における日常的な様式から芸術表現に至るまでの技術の習得を行うが、楷書体と比べ、技術の獲得には多くの反復練習を要するため、個々に応じた段階的な指導を要する。
		日本古典文学史Ⅰ	本科目は、人間基礎学専攻の専門教育科目における「国語・書道」領域の基礎科目に位置付けられる。1年次後期配当の「日本古典文学史Ⅱ」が近世を範囲とするのに対し、1年次前期配当の本科目は古代から中世までをその範囲とし、「日本古典文学史Ⅱ」および2年次配当の「日本近現代文学史Ⅰ・Ⅱ」へ繋ぐ。中世までの文学史における諸問題を検討しながら、応用・発展的内容である基幹科目の「日本古典文学Ⅰ・Ⅱ」への導入とする。
		日本古典文学史Ⅱ	本科目は、人間基礎学専攻の専門教育科目における「国語・書道」領域の基礎科目に位置付けられる。1年次前期配当の「日本古典文学史Ⅰ」が古代から中世までを範囲とするのに対し、1年次後期配当の本科目は近世をその範囲とし、2年次配当の「日本近現代文学史Ⅰ・Ⅱ」へと繋ぐ。江戸時代の文学史における諸問題を「文運東漸」を軸に検討していきながら、応用・発展的内容である基幹科目の「日本古典文学Ⅰ・Ⅱ」への導入とする。

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目 専門教育科目 (人間基礎学専攻)	国語・書道	日本語学概論 (音声言語を含む。) 本講義は、日本語学における音韻、語彙、文法、表記、言語生活、方言といった主領域について概説を行い、日本語学の全体像、および日本語学の基礎を理解させることを目的としている。音韻、語彙、文法、表記については、現代語を中心に講義を行うが、それだけでなく、史的展開についても説明を行うことにより、受講者の日本語に対する関心を深めるようにする。また、言語生活、方言については、受講者の使用意識と関係させた講義を行う。	
		書道表現研究 書道における作品制作の伝統的な技法を、マルチメディアを通して繊細な技術を分析し、またその成果を作品制作の最終表現としてマルチメディアを利用する。また文字をデザインする分野はタイポグラフィなど現在行われているが、粗雑なものが横行している現状を併せ考えると、アナログな書道表現技術とデジタルデータ処理の特性を融合し、新たな技法構築の可能性を追求する。また、異分野領域の専門性を体験してみることにより、各々の特性を理解し、専門分野での新たな発想と技術の発展へと導く。	
		日本近現代文学史Ⅰ 日本近現代文学の流れを4期に区分して、講義のなかで作品の一部を示すことにより、その具体相に触れ、日本近現代文学の多様性を探る。日本近現代文学史Ⅰでは、明治の文学・大正の文学について概説する。明治の文学としては、啓蒙時代・近代文学の成立・浪漫主義の文学・自然主義の文学・反自然主義の文学といった観点から、大正の文学としては、耽美派の文学・理想派の文学・新現実主義の文学といった観点から考察する。	
		日本近現代文学史Ⅱ 日本近現代文学の流れを4期に区分して、講義のなかで作品の一部を示すことにより、その具体相に触れ、日本近現代文学の多様性を探る。日本近現代文学史Ⅱでは、昭和戦前の文学・戦後の文学について概説する。昭和戦前の文学としては、モダニズムの文学・プロレタリア文学・新感覚派の文学・戦時下の文学といった観点から、戦後の文学としては、民主主義文学・戦後派文学・第三の新人といった観点から考察する。	
		中国文学史 中国は長い歴史があり、その文化は東アジアの国々に多大なる影響を与えている。そのような中国の文化の中で、文学の主流に位置する漢詩文を中心に中国文学の歴史をたどることで、古代から中世までの詩形の変遷、また各時代における文章論等の流れを解説してゆく。また中国文学というものは、文学のみを学んでも理解できない。なぜそのようなことになったかという、古来より中国は文学・哲学・歴史をもって学問としている。従ってそれとともに歴史・哲学もあわせて論じ理解を深めてゆく。	
	図書館・情報	情報科学概論 情報の基礎概念、コンピュータの基本的仕組み、デジタルとアナログの違いやハードウェアとソフトウェアとオペレーティングシステムの概念や活用法について学習する。コンピュータグラフィックス、データベースシステム、情報通信技術などの基礎知識を学習し、様々な分野への応用を通してコンピュータの利用技術の現状を把握する。プログラムとアルゴリズムについて動作原理を理解し、情報科学の基礎的理解を深める。さらに、情報化社会の問題点についても触れ、情報セキュリティ技術について学習する。	
		図書館概論 公立図書館の成立と展開の歴史、生涯学習および社会教育の本質と意義を解説する。教育に関する法律・自治体行財政・施策の理解を基本として、図書館の現状と動向を理解する。学校教育・家庭教育等との関連、ならびに社会教育施設としての図書館の構成要素と機能を果たしてゆく上で求められる専門的職員の役割も学ぶ。学習活動への支援と同時に文書館を含む図書館の類縁機関・関係団体等の基本と知的自由などの図書館における課題や今後の展開についても解説する。	
		情報社会と倫理 情報技術の急速な発達により、インターネットや携帯電話などの情報メディアが普及してきた。現代社会において電子機器の活用による利便性が高まる一方、コンピュータウイルスや不正アクセス、無断使用などが社会問題化している。知的財産権、個人情報保護、セキュリティやコンピュータ犯罪、さらには医療情報についても対象として、情報の発信や加工する側と、情報を受容する側の双方が持つべき規範や情報倫理について考察する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目 図書館・情報 専門教育科目	情報社会論	情報社会では情報技術を通して多くの事柄を取り扱う機会が増大し、気づく、気づかないにかかわらず、さまざまな情報技術に接している。IT (情報技術) 革命により社会を支える情報技術には大きな変化が起き、我々の情報との接し方にも大きな変化がみられる。さまざまな事柄に情報技術を通してどのように接しているのかに目を向け、また、社会の情報化に焦点をあてることで、情報技術が進んだ現代社会である情報社会について考察する。	
	情報経営学概論	現代の「高度情報化社会」に生きる個人あるいは組織にとって、必要な情報を獲得し、それを効率よく処理し、そこからできる限り多くの価値を引き出す、または社会に向けて価値ある情報を発信するといった「情報関連スキル」の形成ないし向上は、すでに最重要課題となりつつある。本講義では、こうした情報化社会における「職業人」としての個人のあり方を中心に現代経営組織の特質と直面する経営課題について考える。	
	生涯学習概論	生涯学習がわれわれの生きる現代社会において果たしている意味を認識することで、生涯学習および社会教育の本質とその意義を理解する。教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説する。生涯学習概念の具体的な理解を深めるためには、企業、ボランティア活動の実践分析も視野に入れながら、多様で幅広い生涯学習機会について解説する。	
	アルゴリズムとプログラム	フローチャートを用いて、効率の良いプログラムと効率の悪いプログラムの違いを示し、プログラムの本質や機能、限界をアルゴリズムの観点から深く学習する。低級から高級プログラム言語についていくつか学習し、オブジェクト指向についてもふれ、良いプログラムとは何かを考える。複雑なプログラムを構築する場合のモジュール化の概念や最適なインターフェースをどうするかについていくつかの例を参考に学習する。	
	情報と職業	情報関連機器やインターネットなどの情報通信技術の普及、インターネットビジネスや各種情報産業の発展に伴う産業構造の転換など、情報化の波は現代社会に大きな影響をもたらしている。本講義では、「情報と職業」に関わる現代社会の諸問題について考えながら、情報に関する職業人としての態度や複雑な社会事象を多面的に捉える姿勢について学習する。また、情報化社会において求められている職業人としての資質・能力および職業倫理などについて理解する。	
	レファレンスサービス演習	情報サービス概説の講義をふまえて、その中心となるレファレンスサービスの実務について演習形式で学ぶ。多様化した図書館の情報検索ニーズに応えられるように、印刷資料である参考図書やその他の情報源の評価を理解した上で、レファレンスサービスの方法を理解し、実践的な技術の体得をする。できるだけ数多くの具体的なレファレンス事例に接することで、レファレンス質問への回答手法、レファレンス記録の効率的な記述の習得をめざす。	
	メディア表現研究	多種多様なメディア (テレビ、新聞、雑誌、インターネットなど) から送り出される多くの情報が存在する。それぞれのメディアの特徴により情報の表現方法 (文字、音声、静止画、動画・アニメーションなど) が異なり、伝えられる情報の量と質も異なる特徴を持っている。メディアの基本となる理論的な枠組みを示し、各種メディアにより、どのような表現がなされているかを意識化し、メディアの特徴を分析することで、各種メディアでの表現方法を学ぶ。	
高専科目 人間発達学専攻	児童発達	前期の「国語科概論」の講義内容を受け、また、3、4年次での教育実習を視野に入れて、「白いぼうし」、「一つの花」、「生き物はつながりの中に」などの文学・説明文教材の学習指導案をグループで作成・検討させ、学習指導案作成法を理解させる。そして、その学習指導案の本時分について模擬授業を実施・検討し合うことを通して、発問、助言、板書の仕方などの基本的指導技術を身につけさせるなど、実践的指導力の育成をめざす。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基幹科目 専門教育科目 人間発達学専攻	児童発達	社会科指導法	社会科学習は実に多種多様である。それは、現に生きている社会、つまり現実の社会を教材として、見ているに他ならない。児童の社会への直接的な参加もさることながら間接的にどのように現実の社会と関わり向き合っていくことができるのかを常に考えざるを得ないからである。「社会がわかる」「社会がみえる」「未来にいきる」人間像を意識しながら、学習指導要領で求められている「公民的資質の基礎」の養成を如何にしていくのかを様々な指導法の習得と教師としての資質向上を目指したいと考える。	
		算数科指導法	この講義では算数科教育概論での内容を基礎として、算数科の教材研究、授業構成法を理解し、それを基に学習指導案の作成法を学び、実際に指導案を作成し、さらに作成した指導案による模擬授業などを行い実践的な算数の指導力を育成する。特に、近年、教師の指導力が問題になっているが、その原因は単に指導技術が不足しているからではないと考える。むしろ、その原因は指導内容の理解不足や教材研究の不足に原因がある。そこで指導内容と教材研究の手法の確実な理解のもとに学習指導案の作成に取り組みせるようにする。	
		理科指導法	小学校における教科「理科」の授業設計に関する基礎基本を講義する。具体的には、既修の「理科教育概論」を受けて、指導する内容の系統性や教材化の方法、授業設計の在り方、授業の形態、評価の種類や方法などを体験的に習得させる。このために講義を中心としながらも、一つの指導単元の学習指導案を実際に作成する演習的な活動も設ける。また、それを基に模擬授業を行い、授業研究の在り方も指導し、その後の教育実習に資する。	
		図画工作指導法	本授業は、図画工作科の意義や内容についての理解を深め、人間形成の上で大切な感性や創造力を引き出す教育のあり方を学ぶことを目的とする。授業は演習形式で行い、図画工作科の学習指導案をグループで作成し、検討した指導案をもとに模擬授業を行う。図画工作科の授業を行う際にどのような「導入」が必要なのか、また授業準備をどのように行い、授業時の指導支援を行うのか。本授業は、指導者としての具体的な知見獲得のための素地を養い、受講者各自の教育実践力の向上をめざすものである。	
		生活科指導法	生活科の課題を検討し、学習指導要領に示された生活科の改善の基本方針、改善の具体的な事項について、生活科の総説のねらい、改訂の経緯を踏まえて考察を深める。さらに、目標の改善、内容および取扱いの改善について、指導事例をもとに、その内容を理解する。これらを踏まえて、「具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う」という生活科の目標を具現化する学習指導案を作成し、模擬授業を通して基礎的な指導力の育成を図る。	
		家庭科指導法	家庭科指導法では、小学校家庭科の学習指導要領にある目標や内容および各内容に適した学習指導法を学び、教師の実践力を身に付ける。具体的には、現行の小学校家庭科の教科書を使用し、年間授業計画の作成を行い、その中の代表的な題材を取り上げ、学習の要点や指導ポイントおよび評価方法を整理する。また、各自が授業構成や効果的な教材、必要な施設・設備などを理解するために、学習指導案の作成や模擬授業を実践する。	
		体育科指導法	「みんながわかり、できる」体育の授業づくりをテーマにして、目標・内容と指導法の関連に目を向けながら、体育科授業構成上の課題や重要ポイントについて概説する。また、演習形式を採り、学習指導要領に挙げられている各運動領域や教材の中から代表的なものを取り上げ、発達段階にあった指導法を具体的な授業モデル（ビデオや学習指導案）を基に検討したり、学習指導案づくりと模擬授業の実施を通して実践的指導力の向上をめざす。	
		音楽科指導法	小学校教育における音楽科の指導目標・内容・方法および評価について学ぶ。学習指導案の作成、模擬授業、表現（歌唱や楽器の実技等）および鑑賞指導の演習を通して、効果的な指導法を修得することを目的とする。保育所保育指針・幼稚園教育要領から幼児教育における「音楽表現」についても学び、幼小連携を踏まえて、音楽表現から繋がる小学校における音楽教育の役割・意義について考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目 基幹科目 (人間発達学専攻)	児童発達	器楽応用	器楽基礎で修得した知識や技能を生かし、幼児教育・小学校教育現場で使用される音楽教材の演奏技術と表現力の向上を図ることを目的とする。「器楽基礎」同様、個々の演奏能力に応じた課題曲を個別指導の形態で学習する。また、ピアノ演奏を中心として、その他オルガンや打楽器等、教育現場で子どもたちが使うさまざまな楽器演奏も体験し、教育現場で求められる実践力や応用力を身につける。	
		児童英語概論	日本においては、長年中学校から英語教育が行われていたが、世論に押される形で小学校において、高学年で必修化された英語教育が始まろうとしている。本講義では、高学年での英語教育にだけ焦点を当てるのではなく、主に総合の時間を利用して行われている小学校全体での英語教育を視野に入れ、導入に際しての「英語活動のねらい」、「どのような英語を扱うのか」、「どのような授業方法があるのか」、「子供が楽しむ活動」、「1時間の授業をどう組み立てるのか」、「年間活動計画をどう作るのか」等実際の課題について講義する。	
		児童英語指導法	「児童英語概論」の講義内容を受け、3・4年次での教育実習を視野に入れて、単語、簡単な文章等を英語で何と言うのか教えたり、発音させたりすることを中心とする学習指導案を作成、発表し、検討させることで学習指導案作成法を理解させる。そして、その学習指導案に基づいて模擬授業を実施、検討し合うことで、発問、板書の仕方、フラッシュカードの使い方などの基本的指導技術を身につけて、実践的指導力の育成をめざす。	
		造形演習	本授業は、技法あそびを軸としたオートマチックな描画法、製作あそびを実際に経験することをおして、幼児における「遊び」を機軸においた造形活動の意義の理解とその実践的な指導法の習得を目的とする。本授業では、保育所保育指針・幼稚園教育要領「表現」造形領域の理解をもとに、実技演習を通して学生自らが多様な表現技法、造形表現の体験し、「表現者」としての保育・教育者の感じる心、表現する力の向上をめざすものである。	
	乳幼児発達	教育課程・保育計画総論	幼稚園教育要領および保育所保育指針の趣旨について理解を深め、保育の基本的な考え方について学ぶとともに乳幼児期の発達の特徴をふまえた指導の基本に則り、教育課程・保育課程の編成、指導計画について理解する。それら保育計画に関する基本を押さえたうえで、長期の計画と短期の計画の関連性をふまえながら、日案などの短期の指導計画を実際に作成し、幼児期にふさわしい指導計画と実践のあり方について学ぶ。	
		乳児保育	保育所における乳児保育の意義と本質を理解し、乳児保育の内容と保育方法について学ぶ。乳児期の心身の育ちの道筋とその特徴を理解し、乳児保育を実践するための基礎知識を習得する。とくに乳児は疾病への抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さに伴う疾病の発生が多いことから、一人一人の発育および発達状態や健康状態についての適切な判断ができるよう知識を深める。また親の育児不安にも目を向け、育児中の親の心理に対する理解を深め、家庭との連携について考える。	
		小児栄養	基本的な生活習慣の一つである「食事」は、小児だけにとどまらず、ひとの心身の健康にかかせないものである。本講義「小児栄養」では、教育者や保育者に必要な栄養の基礎や食事の大切さおよびマナーを学ぶとともに、簡単な調理実習を通して、調理操作の技術も身に付けることを目標としている。調理実習の内容としては、乳幼児期の栄養として調乳や離乳食、幼児期の栄養として間食や簡単な食事などを実習する。	
		小児保健実習	小児保健で習得した知識に基づいて、保育士として現場で保健衛生に関する実践が行えるよう実習をする。とくに、保育される子どもの気持ちを十分理解することは重要となるため、保育者としての技術を習得すると共に、子ども役を経験することで、保育される者の気持ちの理解にもポイントを置く。また、子どもたち自身が自分を守る力を身に付けることは、一生涯の健康獲得につながるため、子どもが自ら進んで、健康的な生活習慣を送れるようになるための指導力を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基幹科目 (人間発達学専攻) 乳幼児発達	保育内容 (音楽表現)	幼児期の表現と感性を豊かにするために必要な、保育者としての知識と技能を、主として音楽表現という観点から修得することを目的とする。その際、乳幼児の表現を音楽に限らず、音楽表現を含む遊び(手遊び・歌遊び等)や劇的活動(ダンスや合奏を取り入れた音楽劇の制作発表)等を含む発達の観点から広くとらえ、その後の音楽的な表現の発達にいかにかかわるかという観点から演習を通して学ぶ。	
	保育内容 (造形表現)	本授業は、幼児期における造形表現について、遊びの視点からその表現活動を理解し、造形表現による保育の内容とその方法の習得を目的とする。子どもの柔軟な感性に対応していくためには、まず保育者の豊富な表現経験と、子どもが暮らす環境・世界に対する柔軟な感性と理解が必要である。そこで本授業は演習形式で行い、保育実践に必要な様々な材料と用具について理解を深める。また併せて子どもの活動に即した援助の在り方と指導法を学び、保育における適切なアプローチとは何かを意識しつつ「遊び」「想像力」「造形表現」をキーワードにその可能性と意義を学ぶものである。	
	保育内容 (健康)	子どもの発育・発達を促すために、人間の身体や健康、そこで生活する環境についての理解を深めるとともに、子どもの健康の維持や向上に必要な指導・援助のあり方についての基礎的な能力を養うことをねらいとする。演習形式を採りながら、子どもの健康、子どもの運動発達、子どもの運動あそび、子どもの生活習慣や生活リズムなどをテーマとして取り上げ、幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容を踏まえ、現代の子どもたちを取り巻く健康の状況を理解できるようにする。また小グループによるテーマ別発表会も行う。	
	保育内容 (環境)	「環境」のねらい、内容、内容の取扱い、および他領域との関係について、具体的な指導事例を元に考察を行う。さらに、子どもの生活と環境のかかわり、子どもの発達と環境のかかわり、子どもの自然認識などについての考えを深め、具体的な保育内容を検討し、保育計画の作成、教材の作成、模擬保育を行う。これらを通して、保育内容(環境)において必要とされる知識や指導技術、指導上の配慮事項他、基礎的な保育力の育成を図る。	
	精神保健	子どもの精神発達の様相とそれを促す適切な保育のあり方を理解することを目的とする。特に、精神医学的対応だけでなく、発達の各時期の健全育成を基盤とした保育の重要性を理解する。また、虐待やいじめ等の心の健康障害の実態を認識すると共に、保育における適切な対処のあり方について学ぶ。さらに近年の傾向としての心の健康に関する家庭や地域との連携の重要性について理解し、個人と社会におけるメンタルヘルスの課題と問題を理解しながら、精神的トラブルの予防や対処について考える。	
	家族援助論	児童福祉の基礎となる家庭の福祉を図るための主として保育者による援助活動について学ぶ。家族の機能や変遷、現状について触れ、子どもやその親の育ちという観点からその現代的課題について説明する。特に、保育士などの専門職の家族援助の具体的事例を取りあげて理解を深める。また、現状の問題を予防・解決する方策として地域や社会との関係、関係機関との連携などのアプローチを学び、保育者という立場からの具体的な支援について考える。	
	障害児保育	障害児保育を支える理念についての理解を深め、あわせて障害児保育の歴史と現状について学び、今後の課題について考える。障害児保育の具体的状況とそこでの子どもの育ちや保育者のあり方について学ぶ。それらの実態をふまえて、さまざまな障害について理解し、個別的な保育上の配慮および具体的な保育方法について理解し、相談機関などの種類と内容を理解し、保護者を中心とした支援の内容と方法について理解を深める。	
	リズム	子どもの感性と表現を豊かにするために必要とされる乳幼児の指導法を、E・J・ダルクローズによって理論化されたリトミックを通して修得することを目的とする。音楽の諸要素を身体表現などの動きと融和させ、音楽を知的且つ感覚的に捉えることでより豊かな表現力を養うことを目的としている。音楽をそれぞれの身体や感覚を通して体感することを中心に、乳幼児にとっての音楽の意味を考え実践力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基幹科目 専門教育科目 (人間発達学専攻)	乳幼児発達	養護内容	本講義では、養護原理で学んだ基礎的な知見を踏まえて、児童の養護、すなわち施設養護についての理解を深めるとともに、具体的な事例や場面をできるだけ設定し、援助者としてのあり方や援助者が備えておくべき必須の援助技術を、演習形式を通じて学ぶこととする。それによって、施設実習に臨むに際して必要とされる実際的な知識と技術を習得し、施設での援助に活かしていく事ができるようになることを目標とする。	
		保育実習・事前事後指導	児童福祉施設の内容や機能についての理解を深め、既習の学習内容を基礎に、保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にすると共に実習体験を深める。実習の意義・目的・内容、実習方法、心構え、実習課題の明確化、実習記録の意義と方法を理解する。実習中の巡回指導を行い実習担当者と連携して指導を行い、実習終了後に総括・評価を行う。 保育士資格取得のための保育所と施設実習の意義について理解し、現場での実習のために必要な基礎的な知識を確かなものにすることをめざすものである。具体的には、実習先との連絡や実習の進め方、実習時の子どもとのかかわり、子ども理解や記録、計画について学び、保育士として求められる専門性についての理解を深めていきたいと考えている。	
		保育所実習Ⅰ	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学び、保育の実践的理解を深める。観察実習と参加実習を中心として乳幼児の発達および発達過程とそれに応じた保育の実践について学ぶ。また、記録の意義や子どもとの伝え方、保育所の役割など、保育者としての視点や考え方を指導保育者の指導の下で学び、実践的理解を深めるとともに以後の学習に向けた課題を明らかにする。	
		保育所実習Ⅱ	保育所実習Ⅰの経験とその後の学習をふまえ、保育所における保育活動について、指導保育士のもとで計画・実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。参加実習、責任実習を中心として、子どもの成長・発達に及ぼす保育のあり方について学び、クラス経営や家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉ニーズについて理解を深め、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要な能力を養う。	
		施設実習Ⅰ	事前指導を修了した学生に対し、児童福祉施設(乳児院、児童養護施設等)に於いて保育士資格取得に必要な実践指導を行うものである。実習施設において、施設の担当者が実習指導を行うとともに、所属学科の担当教員が実習期間中に巡回し、あわせて指導を行う。それらによって、施設の機能や役割の理解、児童の理解、保育士の職務内容と役割の理解、援助技術の獲得といった部分を中心に学び、専門職である保育士に必要な資質を習得していきたいと考えている。	
		施設実習Ⅱ	施設実習Ⅰにおいて学んだ保育士に必要な援助に関する基礎的な資質を基盤として、その後の学習の成果とあわせて、再び児童福祉施設(乳児院、児童養護施設等)の現場において実践的な指導を受けて、学びを深めるものである。実習施設での施設担当者による指導、担当教員による巡回指導等によって、施設の機能や役割の理解、児童の理解、保育士の職務内容と役割の理解、援助技術の獲得といった部分を中心により深く学び、保育士に求められるより実践的かつ高度な資質を習得していきたいと考えている。	
		保育相談論(カウンセリングを含む。)	少子化や虐待等の現代社会の抱える問題、軽度発達障害児への支援の必要性を背景として、近年子育て現場において保育士の相談活動が重視されてきている。本講義はこのような状況を踏まえ、保育の専門家をめざす学生が乳幼児とその家族の援助を目的として行うカウンセリングについての理論および技法の基礎を学ぶこととする。特に子ども達の健全な発達を支えるために、子育ての主たる役割を担う母親の心に共感できる視点を持ち、関わりの技法を身につけることを学習の到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基幹科目 (人間発達学専攻) 特別支援教育	乳幼児発達	子育て支援演習	児童福祉の基礎となる家庭の福祉を図るための具体的援助活動について演習を通して学ぶ。特に、子育てをめぐる現状の問題を予防・解決する方策として、保育所、幼稚園および地域の子育て支援機関等の支援活動についての理解を深め、学生自身が企画・準備し、具体的な子育て支援活動に参加しながら、保護者や子どもと接し、地域や社会との関係、関係機関との連携などのアプローチについて実践を通して理解し、実践力を高める。
		知的障害者教育	知的障害児者への教育の内容、方法を編成する原理である教育課程への理解を深め、内容と教育方法の概要を解説し、知的障害教育への興味・関心を深めることを目標とする。特別支援学校(知的障害児教育部門)の教育課程に関する基礎的な事項、および知的障害児の指導法に関する基礎的な留意事項の理解、通常教育の指導法との共通点・相違点についての理解を図り、知的障害児・者の教育について、教育を行う上での留意点、教育の方法、教育指導の進め方、教育評価の方法などについて、教育指導の実践例を通して実践的な知識の獲得を行う。
		発達援助の技法	人間を生涯発達(受精の瞬間から死に至るまでの過程)の視点でとらえ、人間発達の共通性と特異性を理解する。また、人間の発達段階各期における危機と、それを乗り越えさせるための援助の視点を明らかにし、母性、小児、成人、老年における援助を理解するための基礎的知識(援助の基本概念や援助現場など)を学ぶ。さらに健常児の発達にそって認知機能が発達することの中で、認知の障害について概説し、望ましい対応法について論じる。
		肢体不自由者の心理・生理・病理	この授業では、脳性マヒを中心に、肢体不自由のある児童・生徒の心理・生理・病理について、その基礎を学ぶ。具体的には、肢体不自由のタイプ、身体のコントロール過程や随伴障害、それに伴う生活上の困難、さらには学習上の課題や発達過程について、生理・病理的視点から概観する。さらに、肢体不自由教育において重要な、主として自立活動の場で実践されている運動動作学習過程の問題や、医療・心理療育との連携の問題などについても、理解を深めていく。
		肢体不自由者教育	肢体不自由者教育は、重度重複障害児を含めた教育体系が必要とされ、教師にはより専門性の高い資質が求められる。この授業では、肢体不自由者教育の歴史的経緯や教育課程、就学指導、家庭との連携などの重要事項を学ぶとともに、現場の教師が高い関心を示している、コミュニケーション指導、自立活動の指導、教材・教具の活用、医療的配慮が必要な子どもの健康教育、摂食指導、運動動作学習、教科への入門期の子どもの実態把握や指導へのつながりなどといったトピックの紹介も織り交ぜていく。
		肢体不自由者支援学	「肢体不自由者の心理・生理・病理」での学習を土台として、肢体不自由児(者)の生活上のさまざまな困難とその支援のあり方を学ぶ。ここでいう『支援』とは、バリアフリー環境の整備や、教育上のサービスという意味にとどまらない。授業を通じて、人と人との豊かな交流とは何かという問題について考えていきたいと考えている。また、臨床的支援の技法として、動作法による心身の発達支援についても、体験的に学習する機会を設ける。
		軽度発達障害教育総論	軽度発達障害教育は実践が始まってまだ日が浅く、課題も多い。この授業では、軽度発達障害児教育の現状と課題について概観する。具体的には、軽度発達障害の特性、通常学級における指導、通級指導、障害があるがゆえの心理的サポートの問題などにふれることになる。単に『障害による困難を支援し、乗り越えさせる』という視点だけでなく、『彼らの特性を活かす』という視点を養うことにより、軽度発達障害児の成長に寄り添える教師像を作っていきたい。

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	基幹科目 (人間発達学専攻) 特別支援教育	病弱者の心理・生理・病理	病弱者とは、心や身体的な疾病により、日常生活に様々なハンディを有する子ども達のことであるが、平成6年に文部科学省から、「病氣療養児の教育について」の通知が出され、その中に病弱者教育担当者の専門性の向上を図る必要があることが述べられた。それを踏まえ、病弱者・虚弱児の実態把握に必要な基礎知識や予防・早期発見および療育について概説する。また教育に際しての配慮事項や実態把握の方法についても学び、病弱者・虚弱児の心理、メンタルヘルスおよびQOL向上に関する理解を深めることを目的とする。	
		障害者の病理・保健	発生から分娩までの生理学を理解した上で、発生期、胎生期、周産期の障害について生理・病理学的アプローチで理解することを目的とする。さらに遺伝因子、胎児、母体、環境因子等に起因する感覚器や運動機能障害、脳・神経系の障害のメカニズムを学び、日常遭遇する疾患を中心に理解する。また、幼年期の情動に関する障害について病理学的知見と出生前診断、遺伝子治療やES細胞等について最近の知見を紹介し、障害児における特別支援教育と医療的ケアの可能性を探ることを目的とする。	
		知的障害者支援学	知的障害におけるインクルーシブ教育観点から基本的な理念と動向について解説し、インクルーシブな学級・学校づくり・地域づくりに向けた先駆的な実践について理解することを目的とする。知的な障害を有することによる子どもの行動理解と、適応援助の方策、コミュニケーションの形成理解について学ぶ。また知的障害のある人に必要な教育的・福祉的支援を概観するとともに、「支援を受けながら自己実現を図る」力をつけていくために行われるべき学校における指導と支援のあり方について理解することを目的とする。	
		視覚障害教育総論	視覚障害教育のあゆみ、盲学校、弱視特別支援学級および通級による指導の特徴、生理・病理的な知見および心理的な知見を理解した上での子どもの状態の把握、視覚障害に対する学習上の配慮や工夫等について理解する。さらに視覚障害教育の中でも弱視児に対する教育について、弱視の状態の理解、教科学習を行う上での配慮事項、視覚補助具の処方とその活用指導のあり方について理解を深め、その指導方法に習熟することを目的とする。	
		聴覚障害教育総論	聴覚障害児に対する教育を行うためには、聴覚の障害がもつ特徴をふまえた対応が必要となる。聴覚障害の場合には音の情報入力に制約があり、言語習得にも制約が生じるため教科学習などの多くの面において課題を生じる。ここでは聴覚障害の基礎、難聴児、聾児発声・発語(構音)の生理、それぞれの障害をきたす疾患の病理および治療法の概要を把握し、聴覚障害児教育における聞こえの補償とそのための指導の方法、聴覚障害児教育の教育課程と教科指導を中心とした「準ずる教育」の内容について理解を深めることを目的とする。	
		重複障害教育総論	重度・重複障害は、発達の遅れ、コミュニケーションの不成立、環境への適応の困難、問題行動などが著しいため、常時介護を必要とするケースが多い。この授業では、重度・障害児への教育の在り方について概観する。具体的には、重度・重複障害児とその家庭に対する行政的・教育的配慮、訪問教育、常時医療的ケアを必要とする児童・生徒へのベッドサイド教育などを紹介し、重度・重複障害児に生き生きと生きていく力を養成するためのさまざまな取り組みや課題について学んでいく。	
基幹科目 (人間基礎学専攻)	心理学	社会調査法	私たちは日常生活の中で、様々な社会調査の結果に接している。テレビのニュース番組、新聞記事、週刊誌など、多くの媒体に調査結果として色々な数字が提示されている。本講義では、社会調査の基礎的な理論と方法に関する知識を習得し、信頼できる調査を見抜く力の養成をめざす。また、社会調査を自らが実施するために必要な能力を養うことも目的とする。そこで、社会調査の意義、社会調査史、社会調査の基礎、社会調査の種類、調査票の作成、量的調査と質的調査、調査データの分析、リサーチ・リテラシー、社会調査の倫理などについて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基幹科目 (人間基礎学専攻) 心理学	社会調査法演習	現在、世間では多くの社会調査が行われている。そして、調査の結果に基づいてさまざまな「事実」が見出されている。しかし、それらの事実全てが必ずしも事実であるかどうかは疑わしい。本演習では、社会調査を行う上で必要な手続き、および調査で得られた結果を解釈する上で有効な統計処理とについて講義と実習を行い、信頼できる社会調査を見抜き、また自身が遂行するための能力を培う。そこで、調査の計画、尺度の構成、調査の実施と集計、結果の解釈、結果の分析、統計解釈の正しさについて具体例を通して理解を深める。	
	心理検査法	心理士の重要な業務の一つに心理検査がある。この講義では、主に発達検査と、投射法を含む様々な心理検査について知識を深め、演習により実施と解釈について学ぶ。心理検査は被験者をより深く理解し、より有効な治療や援助を得るための道具であるが、単なるレッテル貼りのような被験者の人権や利益を考慮しない利用はあってはならない。このため、実施に際しての検査の効用と限界を理解し、被験者への利益となる心理検査の使用について学ぶことも目的とする。	
	教育学	教育学の基本は、教育目標を効果的、効率的に達成するために、教授・学習過程にシステム・アプローチを適用し、授業はもとより教育全般をシステム化することである。そして、授業を一つのシステムとしてとらえ、授業の設計・実施・評価を中心として、これらに関する人的・物的資源など相互の関係を明らかにし、教育の諸事象を科学化しようとするものである。そこで、学習方法の基盤となる理論背景、授業設計と学習指導、授業を支える技術、教育測定と評価を主な領域として概説し、理論と実践に基づいた授業を進めていく。	
	家族心理学	家族の概念やその発達過程における課題や危機、さらに家族療法の基本的な考え方についての知識を学ぶ。そこで、まず家族の概念やその機能、親子関係や夫婦関係の視点から、家族の発達過程とその課題、家族療法について概説する。次に、夫婦間暴力や児童虐待、非行、引きこもり等の家族における危機や問題とその対応について解説し、健康な家族のとらえ方や児童福祉的な視点も含めた家族への心理的援助のあり方について理解を深める。	
	心理測定法Ⅰ	心理学や隣接科学の分野の研究では、心理測定尺度と呼ばれる個人の心理的傾向(意識、感情、状態、欲求、行動など)の程度を測定しようとして工夫された道具が非常に多く採用される。このように心理学研究における心理測定尺度の比重は大きく、また、研究の進展によって新しい概念が提案されると新しい尺度が日々開発されている。心理測定法Ⅰでは、自己・性格(人間の内面を探る)、対人関係・価値観(人間と社会のつながりをとらえる)に関する代表的な心理測定尺度を演習する。	
	心理測定法Ⅱ	心理学や隣接科学の分野の研究では、心理測定尺度と呼ばれる個人の心理的傾向(意識、感情、状態、欲求、行動など)の程度を測定しようとして工夫された道具が非常に多く採用される。このように心理学研究における心理測定尺度の比重は大きく、また、研究の進展によって新しい概念が提案されると新しい尺度が日々開発されている。心理測定法Ⅱでは、対人関係・適応(子どもの発達を支える)、適応・臨床(心の健康をはかる)に関する代表的な心理測定尺度を演習する。	
	行動科学研究法	心理学における研究法全般を概観し、仮説をデータによって評価する種々の手続きを学ぶ。はじめに、科学としての心理学研究の諸問題、とくに、帰納と演繹、実証と反証の役割について解説する。次に、研究倫理、および、質的データと量的データの相違をみた後、実験法、観察法、調査法のそれぞれの考え方と手続きを学ぶ。そのほか、測定の信頼性と妥当性、コンピュータの利用実態、統計的検定、レポートのまとめ方についても解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基幹科目 (人間基礎学専攻)	感性科学	快適性に焦点を当てる。快適性には、大きく、環境要因と人間側の要因が関わっている。はじめに、快適性の定義、研究対象、諸概念を解説する。その後、環境要因として温熱、音、振動、空気・におい、気圧、視覚、触・圧、空間、味のそれぞれについて具体的事例によりながら解説する。次に、人間側の要因については、加齢、障害、性差、個人差、認知、経験、情緒に焦点を当てて学習する。快適性の測定と評価の方法についても学習する。	
	カウンセリング技法Ⅰ	心理カウンセリングとは、自己成長をめざす人や、問題・悩みを訴える人に対し、担当者が主に言語的コミュニケーションと人間関係を通して心理的に援助していく営みである。その実施では、善意・誠意をこえた専門的知識と技術が必要とされる。この授業では「傾聴技法」の演習を中心とし、専門家として「聴く」技術の基本的習得をめざす。また技法のみではなく、心理療法・カウンセリングを専門家として実施する際の倫理、責任の問題について受講生に教授することも重要な目的である。	
	カウンセリング技法Ⅱ	カウンセリング技法Ⅱは、カウンセリング技法Ⅰでの学びを踏まえ、カウンセラーに求められる姿勢やかかわりの技法について、カウンセリングロールプレイやグループワーク等の体験を通して学ぶものである。学習の到達目標は、①来談者を尊重し、良好な関係を構築するための態度と倫理を身につけること、②他者理解のために必要な感受性やイメージの力の重要性に気づくこと、③それぞれの学生が自己理解を深め、対人援助のための課題を見出すことである。	
	生理心理学	ヒトや動物の行動を支える生理的基礎を学ぶ。はじめに、生理心理学の方法について概略を解説し、脳の働き方に関する全体論と局在論について学ぶ。次に、脳の構造をみた後、シナプスにおける神経伝達物質の種類や伝達の仕組み、神経細胞が活動電位を生じる仕組みを学ぶ。その後、知覚、認知、記憶、学習、情動、動機づけを支える脳の働きを学習する。ホルモンによる情報伝達やストレスによる生理的変化、睡眠の仕組みについても理解を深める。	
	精神医学	精神医学、精神病理学などの医学分野の学問は、臨床心理学や異常心理学に多くの影響を与えており、相互に重なっている。近年、精神的な病の増加とともに人々の関心も高まっており、ますます重要性が増しているといえる。本講義では、精神医学の基礎的な知識と理解を深めることを目的とし、うつ病、総合失調症、不安障害、強迫性障害、解離性障害、拒食障害、境界性人格障害など治療の対象となる精神障害の種類や病態、精神医学における診断体系や治療方法、薬物療法、家族へのケア等について学習する。	
国語・書道	日本語古典文法	本講義は、日本語古典文法の基礎を理解することを目的としている。学校文法を基本とするため、平安時代の文法が中心となるが、その他の時代における文法についても言及する。また、学校文法を基本としながらも、文法事象に関連する主要な学説についても解説を行う。主要な学説の解説を通じて、学校文法が有する問題点と限界を把握させることにより、学校文法の特徴を理解させる。	
	日本語口語文法	ことばのきまりには様々なレベルのものがあるが、文法というのは、文をつくっていくときのきまりである。ことばの中にある法則を見つけだし、文法の考え方を理解して日本語の文法について考察する。品詞・格助詞・活用・人称・テンス・ボイス・人称などの項目を通して、日本語の文法の理解を深める。従来の学校文法ではとらえられなかったさまざまな文法現象を捉え、日本語がどのような文法体系を有しているのかを考える。現代の日本語について考えるきっかけを提供する。	
	日本近現代文学Ⅰ	活字離れ、本離れが嘆かれて久しいが、大学教育においても、この本離れは深刻な問題を引き起こしている。わたしたちは、個別を生きつつ、普遍を志向せざるを得ない存在である。文学とは、まさに個別から普遍を志向したものであり、文学を読むとは、人間的な行為そのものである。日本近現代文学Ⅰでは、樋口一葉『たけくらべ』・泉鏡花『高野聖』・島崎藤村『破戒』・夏目漱石『こころ』・森鷗外『高瀬舟』・芥川龍之介『奉教人の死』を取りあげ、作家研究と作品研究を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基幹科目 専門教育科目 (人間基礎学専攻)	国語・書道	日本近現代文学Ⅱ	大学の教育現場で最近気になるのは、読書経験が未熟な学生が多いということである。わたしたちは、個別を生きつつ、普遍を志向せざるを得ない存在である。文学とは、まさに個別から普遍を志向したものであり、文学を読むとは、人間的な行為そのものである。日本近現代文学Ⅱでは、宮澤賢治『よだかの星』・谷崎潤一郎『春琴抄』・川端康成『雪国』・太宰治『人間失格』・三島由紀夫『仮面の告白』・遠藤周作『海と毒薬』を取りあげ、作家研究と作品研究を行う。	
		漢文学Ⅰ	中国思想と文学の歴史を古代から唐代までの主要作品の原文を通読することにより、漢文の基礎的な文法・返り点のつけ方等を学習させ、各時代の漢詩文の特徴・歴史的背景など講じ、漢文の構造というものが日本語とは異なり、一種の外国語であることを理解させてゆき、なぜ我が国がこのような訓読法を発明したかを考察する。また漢文が日本文化・日本古典の与えた影響を比較を通じて時代背景を説明することにより、漢文の理解を深めてゆく。	
		漢文学Ⅱ	高校ではあまり取り扱うことのない、宋・元・明・清代の主要な漢文作品を主に講義してゆく。一般的宋・元・明・清という時代は日本と関わりがないように考えられがちであるが、実はそうではない。特に日本に深い影響を与えた思想で挙げられるのは、宋代の思想家朱子の思想である朱子学は、近世日本において庶民レベルにまで影響を与えている。また幕末の志士達に影響を与えたといわれる、明代の王陽明の陽明学などを主に解説してゆく。	
		日本語史	本講義は、日本語史を総合的に理解することを目的とする。日本語の史的展開が、音韻、語彙、文法、表記のそれぞれが独立して展開するのではなく、相互に関係しながら総合的に展開していく様相について解説を行う。また、史的展開だけでなく、現代語の音韻、語彙、文法、表記との関係についても解説を加える。日本語史は、現代日本語といかに関わるかという視点が重要であることを把握させ、日本語史に対する関心を深めるようにする。	
		篆隸書法Ⅰ	篆書と隸書の古典の臨書を授業の中心とする。篆書は甲骨文、金文、小篆などの秦代以前の古代文字や清朝の篆書作品の臨書を中心とする。隸書は秦隸、漢隸を石刻、木・竹簡などから選択し、特徴と基本的な表現技法を学ぶ。また中国における篆書・隸書の古典が書かれた時代背景や環境を学んだ上で、篆書・隸書にしかできない表現・効果を学び、制作の領域を広げる。また古い時代の書体史と、取り上げる古典のいろいろな時代の歴史的評価なども学び、表現技法の理解を深め、制作表現に生かしていく。	
		篆隸書法Ⅱ	「篆隸書法Ⅰ」で習得した基礎的技術を、さらに練磨し作品制作へと発展させることが、本講義の目的である。普段使っていない隸書体・篆書体をどのように現代に展開するか模索・研究しながら制作を行う。作品制作に関しては、様々な紙面サイズ・紙面構成における、幅広い制作を行う。書分野の中でも、特殊技能を必要とする分野である。西周時代の金文形、戦国時代の文字表現、さらに漢時代の篆書体から隸書体へと変化する時期の表現技術も取入れ、時代の推移による表現技術を取り入れながらも、現代的表現を模索し、書表現の新分野を探索する。	
		仮名書法Ⅰ	日本の文化を代表する仮名を「書く」「読む」ことは、日本の独自性を学ぶことである。その第一歩として仮名の基礎的な知識と表現技法の習得をめざす。用具用材に慣れるところから始め、仮名文字(変体仮名を含む)の単体の練習、連綿の練習などの表現技法を学んで日本独自の美意識に触れる。平安時代の仮名を上代様と呼ぶが、上代様の中心として、歴史的に著名な古典である高野切古今和歌集を中心に、その歴史上の価値を確認する。臨書の反復練習により、仮名独特のリズムと表現技法を学習し、達成度により倣書も視野に入れる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹科目 専門教育科目 (人間基礎学専攻)	国語・書道 仮名書法Ⅱ	「仮名書法Ⅰ」で習得した基礎的技術を、さらに練磨し作品制作へと発展させることが、本講義の目的である。制作においては、第一段階として、技法的基础の定着という観点から倣書・復元臨書・拡大臨書等を行うが、最終目標として創作を行う。作品制作に関しては、様々な紙面サイズ・紙面構成における幅広い制作を行う。創作の基盤としては、平安時代の仮名表現を主とするが、単なる古筆の模倣ではなく、現代に即した表現の模索・研究を行う。特に、大字の仮名表現について研究を進め、仮名表現の壁面における可能性も合わせて究明する。	
	日本書道史	中国書道史を基礎とし、既成の書道史ではなく新資料等も研究テーマとして取り上げながら日本書道史について講義をすすめる。本講義の性格上から、日本史に即した展開になることは必須である。日本史の新たな展開や新出土資料等も加味し、研究を行う。近年は、アジアにおける歴史研究が盛んであるため、アジアにおける日本史についても言及し、特に朝鮮書道史・台湾書道史も並行して講義を行う。また、日本書道における書論・古筆学の現状についても基礎的研究内容を踏まえた上で教示し、日本文化への意識の定着化を行う。	
	中国書道史	漢字の発生から3500年以上の歴史を持つ。中国史、文化史、書体史、文字学、人物、これらを重ね、総合的に学ぶ。書道をより深く理解し、表現や鑑賞を一層深め、書体・字形に人の知恵が集積されていることを知ることが中国書道史を学ぶ目的である。中国の歴史(政治や人物)を改めて確認し、その上で文字の発生から楷書の完成までの書体史と、時代別の書道の展開を概観、検討する。能書家の人物論や技法についての講述も行い、表現活動と書学の関連性について理解を深める。研究文献史料も紹介し、最終的には自ら書道史を調査する能力を養う。	
	鑑賞	中国・日本の書道史または書論等に関連する全ての事項について、鑑賞研究の対象とする。現物を鑑賞し研究することで、書芸術に関するより深い知識の定着化を行うことが目的である。研究内容としては、文房四寶(紙・墨・筆・硯)の研究を中心とし、それぞれの特性を把握することで、実際の書表現に生かすことは勿論であるが、作品鑑賞において多角的視野からの精察に役立てる。また、文房四寶やその製造技術・時代性から派生し、表装や中国・日本における美術品についての鑑賞や調査研究も行う。	
	書論	中国・日本の代表的な書論を取り上げ、書道史研究・作品制作研究等との相互関係を考慮しながら講義を行う。中国においては、唐時代以降の主要な書論を取り上げ、技術論や書法論を研究する。特に、伝統的書論と革新的書論との比較研究を行い、併せて歴代書家に対する評価についても論究し、中国書論の態について把握させるとともに、書芸術の現在への発展・経緯について探求する。日本書論については、書道史上の初歩的論を取り上げ、近代における書表現の変革との比較を行い、日本における書論の現状把握を主とする。	
	日本古典文学Ⅰ	本科目は、人間基礎学専攻の専門教育科目における「国語・書道」領域の基幹科目に位置付けられる。基礎的内容である基礎科目の「日本古典文学Ⅰ・Ⅱ」を受け、3年次後期配当の「日本古典文学Ⅱ」が近世を範囲とするのに対し、3年次前期配当の本科目は古代から中世までをその範囲とする。中世までの文学のうち、特に中世の散文作品に焦点を当て、各ジャンルにおける作品を鑑賞しながら、その文学史的意義について検討する。	
	日本古典文学Ⅱ	本科目は、人間基礎学専攻の専門教育科目における「国語・書道」領域の基幹科目に位置付けられる。基礎的内容である基礎科目の「日本古典文学Ⅰ・Ⅱ」を受け、3年次前期配当の「日本古典文学Ⅰ」が古代から中世までを範囲とするのに対し、1年次後期配当の本科目は近世をその範囲とする。江戸時代における文学のうち特に散文作品に焦点を当て、各ジャンルにおける作品を鑑賞しながら、その文学史的意義について検討する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 基幹科目 (人間基礎学専攻)	国語・書道	漢字仮名交じり書法Ⅰ	漢字表現(楷書・行草書・隷書・篆書)で習得した技術と、仮名表現で習得した技術を融合させ、書表現の可能性の幅について研究を進めることが、本講義の目的である。書体別の、基礎的技術の融合による表現に加え、初歩的表現法(用具用材や書法の違いによる表現)についても重要課題とし、用具用材の特質における書表現の変化についても究明する。本書法の分野は、現在、高等学校芸術書道の分野でも重要視されている。前述の技術習得と合わせて、高校教育現場での指導または書写書道における指導研究ともリンクさせ、考究する。
	漢字仮名交じり書法Ⅱ	「漢字仮名交じり書法Ⅰ」において習得した初歩的表現法(用具用材や書法の違いによる表現)を、現代における書のあり方を含めた、総合的な書表現の研究へとすすめる。第一段階では、高等学校芸術科書道における表現法(生徒の習熟度と表現法の関連についても考慮しながら)を研究し、次の第二段階においては、社会における「手書き文字」「筆文字」の必要性とその表現法について、多角的視野から模索・研究をすすめる。普段使いの文字の、社会における表現の可能性について研究することは、書表現における新分野開拓の可能性の実践に繋がる。	
	マルチメディア処理論	情報伝達表現としてのメディアと記録伝達する際の手段としてのメディアの役割がある。表現として、文字、音声、画像などがあり、記録として、紙、写真、磁気ディスク、光ディスクなどがある。デジタル技術の進歩により、各種メディアをデジタル化して取り扱うことが出来るようになり、これらメディアを統合して取り扱うことが可能となった。アニメーションなどの原理を学習し、表現方法について理解し、表現および手段としてのマルチメディア処理について考察する。	
	マルチメディア処理演習(実習を含む。)	「マルチメディア処理論」で学習したメディアを統合して取り扱う演習を行う。パソコンを利用して、デジタル化する手法について演習し、デジタル化することで統合してさまざまなメディアを取り扱うことが可能となることを演習を通して習得する。文字、音声、静止画、動画・アニメーション、それぞれに記録方式としてフォーマットがあり、デジタル化された素材を利用したマルチメディア作成を通して、マルチメディアの取り扱いができるよう演習を行う。	
	情報ネットワーク	情報通信技術の進歩により情報ネットワークは、さまざまな分野で利用されている。情報ネットワークの形態は有線ネットワークから無線ネットワークと変化し、利用が進んでいる。サービスの面で多様なサービスが存在している。これらを可能としている情報ネットワークの原理を学び、情報ネットワークによって実現したさまざまなサービスについて学習する。また、ネットワーク上でさまざまなサービスが利用できるようになり、不正行為を防ぐ為のセキュリティについて学習する。	
	情報ネットワーク演習(実習を含む。)	「情報ネットワーク」で学習した情報ネットワークの原理と多様なサービスについての理解を深めるために演習を行う。インターネットで利用されているTCP/IPを中心に演習を行ない、各種サービスについて演習を行う。原理などを学習するのみでなく、関連した演習を行なうことで、コンピュータを単独で利用するのみでなく、ネットワーク化することで可能となる利用法についての理解を深める。また、ネットワークを利用する際に求められるセキュリティに関する理解を深める。	
	データ処理論	文字、数値、画像等、様々なデータの入力から加工処理を経て目的のデータを作成するまでの方法論を学習する。現代の複雑で高度なデータ処理技術を多様な角度から捉え、基本的要素に分解し、理解を深める。アナログからデジタル、連続数学から離散数学へのアナロジーを考え、またその逆を考えながら、誤差を最小にする方法論を理解する。また、データベースや画像データ等の大量データの処理における問題点を考察し、システムを設計する場合の方法論について学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹科目 専門教育科目 図書館・情報 (人間基礎学専攻)	データ処理演習(実習を含む。)	データ処理論で講義した内容を基に、コンピュータを用いた演習を通して、様々なデータ処理の方法を学習する。文字処理としてテキストエディターを利用し、バイナリデータと比較を行なう。数値データの処理として数値計算処理を行ないながら学習する。画像データは2値画像およびRGB画像を取り扱い、変換やフィルタリングについて学習し、データ圧縮の技術について理解する。また、大量データの効果的並べ替えや探索について演習し、応用力を養う。	
	社会情報学特講	社会情報学は、これまでの人文・社会科学の成果の上に成立っている学問であり、それらの諸科学を総合したものである。この科目が研究対象としている社会情報現象、例えば、生命・遺伝情報、メディア史、通信、災害情報、高度情報社会の戦争、国際政治等々について、それぞれ個々に研究するだけでなく、それらを体系的に理解・認識することをめざす。加えて、近年の情報通信技術の発達による社会情報の伝播ならびに双方向コミュニケーションの急速な進展についても事例を参照しながら解説する。	
	情報処理技術	コンピュータ技術の進歩により高度な情報処理が可能となっている。コンピュータの動作原理の理解を通して、コンピュータにより情報処理がどのように行われているかを理解する。コンピュータシステムとしてパーソナルコンピュータを取り上げ、ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティングシステム、アプリケーションなどについて学習し、それらが連携してコンピュータシステムが構築されていることを学び、パーソナルコンピュータによる情報処理技術を学習する。	
	情報処理実習	「情報処理技術」で学習したパーソナルコンピュータにおけるハードウェア、ソフトウェア、オペレーティングシステム、アプリケーションなどについての理解を深めるために、情報処理実習を行なう。コンピュータシステムとしてのパーソナルコンピュータを実際に構築することにより、ハードウェアとソフトウェアの関係を理解し、実際のパーソナルコンピュータの動作を把握することで、コンピュータによる情報処理の仕組みを理解する。	
	資料組織演習Ⅰ	資料組織概説の講義を踏まえ、分類・件名による主題の表現と分析の技法について、日本十進分類法、基本件名標目表をはじめとする主要な分類法、件名標目表を用いた演習を行う。図書館で扱う様々な資料の主題分析や資料の分類作業による資料組織について演習形式で学ぶ。図書館が所蔵する資料に対して、利用者が主題から効率的にアプローチすることができるような資料組織が行えるように、分類やシソーラスの知識を基盤とした実践的な能力を養成する。	
	資料組織演習Ⅱ	情報組織概説の講義を踏まえ、図書館で扱う資料のデータを利用者に対して判りやすく提供する能力を演習形式で学ぶ。多様な情報資源に関する書誌ユーティリティを用いながら、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報組織業務を学ぶ。図書館で扱う様々な資料のデータを独力で作成できるように数多くの演習を繰り返して修得する。主題分析、分類作業などの資料組織演習Ⅰでの演習を踏まえた書誌データを作成できる実践的な能力を養成する。	
	資料組織概説	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源を含む図書館で扱う資料の組織化の意義と理論について解説する。書誌コントロールと標準化、書誌記述法、主題分析の意義と考え方、主要な分類法による主題分析と分類法、主要な統制語彙による主題分析と索引法の理解を深める。地域資料、行政資料等多様な情報資源の組織化を実現するためのMARC、書誌ユーティリティや書誌情報の作成と流通、書誌データの活用法に関する理論と技術を解説する。	
	情報サービス概説	情報社会における図書館の情報サービスの意義を解説する。レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス、読書相談、利用案内等のサービスの種類と実務を理解させると共に、利用者の情報行動、レファレンスプロセス、事例の活用、組織と担当者、サービスの評価等の理論的な把握を促す。情報検索サービスの方法、参考図書・データベース等の情報源についての評価と組織化、図書館利用教育、発信型情報サービスを含む新しいサービスを解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹科目 (人間基礎学専攻)	図書館・情報	情報検索演習	精度と再現率などの情報検索の基礎理論、データベースの構造を理解した上で、情報検索の演習を行う。情報検索の一般的な手順、検索のための索引ファイルの仕組み、データベース検索の仕組みについて理解するとともに効率的なデータベース検索手法についての実践的な知識を学ぶ。電子ジャーナルの全文データベースの検索演習を始めとして、様々な二次データベースの検索演習やデータベース以外の文献探索ツールを利用した演習も行う。
		専門資料論	専門資料の生成、流通、保管、利用の一連のプロセスを構造的に把握し、そのコンテキストを踏まえて各主題分野の一次・二次資料の種類や特性について講義する。図書館で取り扱う専門資料全般について概観した後、社会科学、人文科学、自然科学・科学技術の各分野の資料について学ぶ。情報技術の発達した今日において、専門資料は印刷資料のみならず、電子媒体でも提供されている。両者の有機的な連携をはかりながら利用者に対してサービスできる能力を育成する。
		児童サービス論	発達と学習における読書の役割と図書館との関係や、理念と歴史を含む児童サービスの意義について解説する。ブックスタートから始まる乳幼児からヤングアダルトまでの児童を対象にした資料の選択と提供、ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク等の児童サービスの実際を理解させる。さらには、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、図書館活用指導、レファレンスサービス等の学習支援や、学校・家庭・地域との連携・協力について解説し、必要に応じて演習を行う。
専門教育科目	卒業研究	卒業研究演習Ⅰ	1、2年次の教養教育、キャリア教育、および専門教育の学習を踏まえ、卒業論文の作成に向けて、創造的な成果を上げることができるようになるための学問的能力の進展をめざす。具体的には、1) 先行研究など参考文献や資料の選択および収集、2) 収集した文献や資料の的確な解釈や分析、3) 自己の創造的研究テーマの発見と構想、これら3点を中心に進める。これらの学習のなかで、受講者全員が各自レポートをまとめ、プレゼンテーションをすることを繰り返し行い、かつ全員によるディスカッションを行って、各自の学問的能力を高めよう。
		卒業研究演習Ⅱ	「卒業研究演習Ⅰ」の成果を踏まえ、各自が創造的な卒業論文テーマを構想し確定することをめざす。テーマに沿った具体的構成を組み立てるとともに、それに必要な新たな資料の検索と収集、あるいは調査内容および方法について、その実現の可能性を判断する。その判断に基づいて、テーマの再検討を行うとともに修正すべき内容や方法を明確にして、卒業論文の内容を固める。これらの学習の過程では、「卒業研究演習Ⅰ」と同様、各自によるレポート、プレゼンテーション、およびディスカッションを継続的に実施するいっぽう、テーマに応じた個別指導を段階的に増やしていく。
		卒業研究演習Ⅲ	3年次における「卒業研究演習Ⅰ」および「同Ⅱ」を踏まえ、各自が構想した内容および方法に沿って調査・研究活動を進めるとともに、その活動の成果のレポート、プレゼンテーション、およびディスカッションを定期的に行い、各自の成果を相互に吟味し高め合う。「Ⅲ」では、個別指導の比重をいっそう増やし、各自の具体的なテーマやその内容・方法に応じた専門的知識・技術を適宜指導し、学問的能力のいっそうの向上を図るとともに専門的職業人としての資質を高める。
		卒業研究演習Ⅳ	「卒業研究演習Ⅰ～Ⅲ」で継続的に行ってきた卒業論文の総仕上げである。これまで積み上げてきた各自の成果を、いっそう客観的に確実に他者に伝えることを重視して修正・加筆を行う。また、仕上げた成果を多くの教員や学生の前で公表し、他者の評価を受ける。これらの活動を通して、学士課程において身につけた各自の学問的能力の現在を自己評価するとともに、専門的職業人としての今後の発展のための課題を明確にする。
		卒業研究論文	発達諸科学に関連する各自の研究テーマに沿って卒業研究演習ⅠからⅣで積み重ねてきた文献・資料の理解や、調査、実験等の成果を踏まえ、指導教官の個別的指導を受けながら論文にまとめ公表する。

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部人間発達学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	臨地科目	フィールドワーク基礎	フィールドワーク（観察・体験とインタビュー）に代表される「質的調査」とは具体的にどのようなものかを理解し、遂行するための基礎的な知識と方法、姿勢などを身につける。前半では、具体例をあげながら目的に応じてどのような方法をとらうのかを理解し、適宜留意点も説明する。後半ではフィールドワークの進め方に焦点をあてるが、調査者として求められる倫理的責任についての説明と理解の徹底に留意したい。以上のような説明に際して、民俗学や人類学での調査事例や論文なども紹介する。	
		国内臨地研究	国内臨地研究とは、学外（国内）で2～4週間の調査研究を行ない、提出されたレポートで単位を認定する教科である。「フィールドワーク基礎」の単位を取得していることが条件であり、4年次生も履修可能なのでこの場合は卒論のための調査も兼ねることができる。教科担当者による事前指導、および調査研究後のレポート提出が義務づけられており、前述のように卒論ゼミでの卒業研究でも個人の興味でも可である。学科から研究補助費が出る制度を利用可能な場合もある。	
		海外語学研修Ⅰ	オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、イギリス、アイルランド、中国、韓国の7ヶ国、7施設から行き先を選び、現地大学の語学研修機関で短期集中語学・文化レッスンを受ける。滞在期間が2週間～2ヶ月の場合について海外語学研修Ⅰを認定する。（7施設はいずれも本学の提携校） オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、イギリス、アイルランド、中国、韓国の7ヶ国、7施設から行き先を選び、現地大学の語学研修機関で短期集中語学・文化レッスンを受ける。滞在期間が2週間～2ヶ月の場合について海外語学研修Ⅰを認定する。	
		海外語学研修Ⅱ	オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、イギリス、アイルランド、中国、韓国の7ヶ国、7施設から行き先を選び、現地大学の語学研修機関で語学・文化を学ぶ。滞在期間が2ヶ月～6ヶ月の場合について海外語学研修Ⅰ、海外語学研修Ⅱを認定する。（7施設はいずれも本学の提携校） オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、イギリス、アイルランド、中国、韓国の7ヶ国、7施設から行き先を選び、現地大学の語学研修機関で語学・文化を学ぶ。滞在期間が2ヶ月～6ヶ月の場合について海外語学研修Ⅰ、海外語学研修Ⅱを認定する。	
		海外臨地研究	オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、アイルランド、アメリカ、中国の6ヶ国から行き先を選び、研修先で各地をフィールドトリップし、現地の人たちと交流し、各自が設定したテーマで現地調査・研究を行なう。現地調査・研究の成果は報告書にまとめて提出する。滞在期間が2週間～2ヶ月の場合について、海外臨地研究(社会・文化)Ⅰを認定する。 臨地研究の基礎としてフィールドワークやフィールドリサーチの方法を学んだ後実際に海外の現地で調査研究を行う。事前事後指導を十分に受けることによって安全で効果的な研究を実現させ、臨地研究事後のデータ解析から報告書の作成まで質の高い研究を目指し、研究発表能力の養成を図る。	
	教職関連科目	(人間発達学専攻)	教職概論	本講義は、教師をめざす学生に対して、教職の専門性について学生自ら思索させると同時に、自らの教師という職業への適性と情熱を向上させることを目的としている。そのため、単に教職についての知識を得るためだけでなく、教員や他の学生と意見交換することにより、専門性を生かした教職、人間教育に根ざした教職のあり方について考えることを求めている。授業内容として、教職の意義、教員の仕事と役割、教員の養成、教員の任用と服務、管理職の役割と学校経営、教師の職場環境、教員の資質向上と研修制度などについて講義している。
教育原論			学校教育を中心とした教育の営みの歴史、構造、内容や方法等について、基礎的・基本的な理解をめざす。具体的には、第一に現代の教育を考えるために重要なトピックを切り口として、子どもや教育の現状や課題について関心をもつこと、第二に、今日に至る教育の営みの歴史（特に近代教育以降）について基本的に理解すること、第三に、教育の機会均等や義務教育、あるいは学習指導要領など、教育の理念や制度に関する基礎的・基本的知識を習得すること、そして第四に、学校教育が今日の社会の変化のなかで果たすことのできる機能について考えること、以上を目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 教職関連科目 (人間発達学専攻)	教育史	主として近現代の日本における学校教育の成立、普及および展開について、国家の教育方針と民衆の教育要求との関係、社会の変化と学校教育の変化との関係など、理念や制度の側面だけでなく、家庭や社会における子どもの処遇、つまり親子関係や子ども観の変化等も視点として含んで学ぶ。また、その歴史的過程における欧米の教育理念や制度、あるいは親子関係や子ども観の影響についても言及する。これらを通して、今日の教育課題に対応するための視座を得る。	
	教育心理学	教育実践のための基礎となる教育心理学の習得を目的とする。項目としては、人間の発達と教育の関連、学習の原理、意欲と動機づけ、知能と学力、教授—学習過程、教育評価、教育測定と統計、パーソナリティと適応、学級集団の範囲までの理解を目的とする。上述の範囲の学習を通し、生徒が「わかる」ためには教師はどのような指導をする必要があるのか、「知る」ための生徒の自発的な意欲をどのように育てるか、また教師として生徒を幅広い視点から理解し、正確に教育評価を行っていくための基礎を養うことを目的とする。	
	教育制度論	本講義では、教職をめざす学生が理解しておくべき教育制度に関わる基本的な概念や重要事項について解説する。具体的には、(1)教育基本法、学校教育法、学習指導要領などを含む教育制度に関する法令、(2)教育制度の運用に係る教育行政機関の役割、(3)教育行政システム内の権限関係、(4)義務教育、教育課程、教員、社会教育等に関する教育行政、(5)欧米ならびにアジアなど海外の教育制度の歴史と現状、(6)世界共通の教育制度上の課題等を取り扱う。	
	教育法規	本講義では、とくに小学校の教師をめざす学生に必要な教育法規に関する基礎的・基本的な知識と考え方を授ける。そのために、まずわが国の現行の教育法規体系等について講義したのち、日本国憲法、教育基本法、学校教育法をはじめ、わが国の小学校を中心とする学校教育、社会教育、教育行政・財政、学校経営、学級経営、教員養成および研修などの教員制度等に関連した法規を中心に法解釈学的な検討を加え講義する。	
	教育課程論(初等)	本講義では、学校教育における教育課程の重要性を理論的に理解すると同時に、実際の学校での運用面、そして教育課程への教育行政の法制上、実務上の関与について、講義・ディスカッションすることを目的とする。教育課程の編成に関わる理論が実際にはどのように運用されているかを受講生自身が擬似的に体験できるように参加型の講義を目指しており、教育課程・カリキュラムの定義、カリキュラムの類型、日本の教育課程と教育改革、教育課程の編成上の課題、世界の教育課程などについて講義している。	
	道徳教育指導法(初等)	道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行われるものであり、教師と児童、児童相互の人間関係が深まる道徳教育の指導法について学習を進める。特に道徳の時間の指導は、道徳教育の要であるので、道徳の時間の具体的な指導計画の作成や指導展開の方法および指導過程の工夫等について学習していく。また資料の役割と望ましい資料の選択について考え、教師の姿勢・態度や教師の働きかけ等を中心とした指導法の開発についても言及していきたい。	
	特別活動指導法(初等)	まず教育課程における特別活動の役割を生活体験領域からアプローチしていく。次に自主性を高める活動のために、児童の自主性と教師の指導性との関連について学習を進める。また豊かな人間関係と話し合い活動を推進し、共感性を高める活動の在り方を考える。さらに個性を生かす活動としての学級活動や児童会活動およびクラブ活動等について学習し、なすことによって学べる活動としての多様な体験活動について学習しながら、望ましい集団活動と個性の伸長に関する指導法の工夫と開発について論考していきたい。	
	教育方法・技術論	初等教育段階の子どもを対象とした教育方法と教師の指導技術を中心に教育方法論の基本的事項と授業づくりの基礎的技法を学ぶことを目的とする。具体的には、第一に授業について先人の代表的な思想や優れた教師の実践を学ぶことを通して、授業に対する考えや教育の方法・技術に対する理解を深めること、第二に、「よい授業」に対する考え(授業や教育に対する基本的視座)を深め、それを指導案や教材・教具・発問等の指導技術に具体化すること、をめざす。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 教職関連科目 (人間発達学専攻)	児童・進路指導	児童が「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、社会人や職業人として自立できる指導内容について具体的事例を踏まえた学習を進めていく。小学校段階では、進路の探索や選択にかかる基礎基盤の時期であることを考え、後の中・高等学校との連携や系統性を踏まえながら、自己や他者への積極的な関心の形成、身近な仕事や環境への興味関心の喚起、夢や希望および自尊感情の高揚、勤労を重んじ目標に向かって努力していく忍耐力の形成等が具体的に図られる指導計画と指導内容等について考究していく。	
	児童・教育相談論	教育相談の考え方やカウンセリングを生かした生徒への援助について学ぶことを目的とする。具体的内容としては、教師による子どもの心理的問題への対応や成長を目指した関わり方について、児童期の教育相談においてよく挙がるトピックを中心に考えていくこととする。また児童への援助には保護者との連携や関係作りは不可欠であるため、その重要性を学び、保護者や関係者、関係機関との間によりよい連携を作る方法について具体的事例を通じて習得することも目的とする。	
	初等教育実習事前事後指導	教育実習は、学生のその後の進路選択において極めて大きな示唆を与える経験となる。本講義は、教育実習に赴く学生に教育実習の意義と実習のポイントについて事前指導するとともに、実習後にもその経験を無駄にせぬように事後指導を行い、教員としての資質と能力の向上を目指している。現在の教育動向と求められる資質、教育目標の設定、事前訪問・実習中の心得、生徒指導の心得、日誌・指導案の書き方、模擬授業の心得、模擬授業の実践、教育実習の評価などが講義内容である。	
	初等教育実習Ⅰ	大学で所定の単位を修得し、事前指導を修了した学生が教職に就くために必要な学外実習指導である。小学校教員・幼稚園教員の免許状取得をめざす者は、小学校での2週間の教育実習を行い、幼稚園教員の免許状取得のみをめざす者は、幼稚園において2週間の教育実習を行う。習得した学習内容を生かし、具体的な教師の仕事内容、子どもへの指導、援助を学ぶ実習指導である。実習中には担当教員が実習校(園)と打ち合わせて巡回指導を行う。	
	初等教育実習Ⅱ	大学で所定の単位を修得し、事前指導を修了した学生が教職に就くために必要な学外実習指導である。小学校教員・幼稚園教員の免許状取得をめざす者、幼稚園教員の免許状取得のみをめざす者どちらも幼稚園において2週間の教育実習を行う。習得した学習内容を生かし、具体的な教師の仕事内容、子どもへの指導、援助を学ぶ実習指導である。実習中には担当教員が実習園と打ち合わせて巡回指導を行う。	
	特別支援学校教育実習事前事後指導	特別支援学校における教育実習は、その特殊性により、他の校種以上に『児童・生徒の心と命を守り、育む』という気持ちで臨む必要がある。そのため、事前指導においては、障害児に対する教育上の支援について、より一層丁寧な準備が求められる。また、事後指導においては、一人ひとりの事例を詳細にわたって振り返りつつ、学生同士の情報交換を通じて、特別支援教育の『理論と実践』の統合を図る必要がある。以上の点を踏まえ、障害児の人生の一部を支えることの重みを感じながら、受講してもらいたい。	
	特別支援学校教育実習	特別支援学校教育実習は、これまで学んできた特別支援教育に関する理論や方法を、実際の場で活用し、より理解を深め、教師としての素地を養うものである。特別支援学校は、さまざまな障害児を教育対象としているという特殊性がある。障害の程度は一般に重く、病状はまことに多種多様である。学生は、こうした特殊性を理解の上、実習先の教育対象の実態と、対象児に関する一般的知識を学習し、少しでも役立つことを念頭において臨む必要がある。	
	教職実践演習(初等)	大学4年間で学んだ教職の意義、教育の基礎理論、教育課程および指導法、児童・生徒指導等に関する知識・技能と教育実習等で得られた教科指導力や児童・生徒指導力等実践力との更なる統合を図り、子ども理解や教師の役割機能に対する理解を基盤とした確かな実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその定着を目的とする。主な授業の形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。	

授 業 科 目 の 概 要					
(人間科学部人間発達学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	教職関連科目 (人間発達学専攻)	総合演習	人類に共通する課題あるいは我が国の社会全体に関わる課題として、ここでは「次世代の子どもに伝える豊かな環境や文化」に焦点をあて、自然環境、人的環境(人と人との関係形成)、国際化社会における異文化の環境、あるいはことばや音、および文学等の表現文化などを取り上げる。これらの内容を演習として実施することを通して、環境や文化の現状や課題について理解を深め、次世代にどのような環境や文化をどのように伝えるかを考え、さらにそれを具体的に子どもに対して指導できるようにする。		
		教職概論	本講義は、教師をめざす学生に対して、教職の専門性について学生自ら思索させると同時に、自らの教師という職業への適性と情熱を向上させることを目的としている。そのため、単に教職についての知識を得るためだけでなく、教員や他の学生と意見交換することにより、専門性を生かした教職、人間教育に根ざした教職のあり方について考えることを求めている。授業内容として、教職の意義、教員の仕事と役割、教員の養成、教員の任用と服務、管理職の役割と学校経営、教師の職場環境、教員の資質向上と研修制度などについて講義している。		
		教育原論	本講義では、教職をめざす学生が理解しておくべき教育の基本理念並びに教育に関する歴史および思想について解説する。具体的には、(1) 現代の学校・教育と子どもの状況、(2) 教育の諸概念、(3) 欧米における主要な教育思想、(4) 欧米と日本における公教育制度の成立過程、ならびにそこに見られる教育の諸課題、(5) 現代日本における教育課題、(6) 教育学という学問の成り立ちと現代の教育学研究の状況などを取り扱う。		
		教育心理学	教育心理学は、教育過程で出現する課題を心理学的側面から研究し、教育活動をより効果的にしようとする心理学の一部門である。本講義では、教育心理学の定義、その研究領域と方法について説明した後、次の3領域について解説する。(1) 発達：学校教育における被教育者、特に児童期までの人間の一般的な発達の様相および心身障害児の心理(2) 教授-学習過程：学習の成立、思考のメカニズム、学び方の学習、動機づけ、学習指導法(3) 教育評価：測定と評価、評価法のあり方の3領域について解説する。		
		生徒・教育相談論	教育相談とは、一人一人の生徒の自己実現を目指し、本人又はその保護者などに、その望ましい在り方を助言する活動である。この講義では、中学校教員免許・高等学校教員免許の取得をめざす学生を対象とし、教育相談の考え方やカウンセリングを生かした生徒への援助について学ぶことを目的とする。具体的内容としては、カウンセリング理論の理解、学校教育相談の概要、いじめ・不登校の理解を中心とし、校内連携の在り方や校外関係機関との連携も視野に入れた教育相談援助の習得をめざす。		
	自由科目 (人間基礎学専攻)	教職に関する専門教育科目	教育史	主として近現代の日本の学校教育の展開について、理念や制度の側面だけでなく、家庭や社会における子どもの処遇、つまり親子関係や子ども観の変化等も視点として含んで学ぶ。また、その歴史的過程における欧米の教育理念や制度、あるいは親子関係や子ども観の影響についても言及する。これらを通して、今日の教育課題に対応するための視座を得る。	
		教育行政学	本講義では、教職をめざす学生が理解しておくべき教育行政の基本的な概念や重要事項について解説する。具体的には、(1) 教育行政の基本原則、教育行政に関わる法令、教育行政機関や学校の役割とそれらの間の権限関係、(2) 義務教育、教育課程、教員の資格・身分や権利と服務、社会教育等に関わる行政、(3) 主要な教育行政文書の内容、(4) 欧米ならびにアジアなど海外の教育行政の歴史と現状、世界共通の教育行政上の課題などを取り扱う。		
		教育法規	本講義では、とくに中学校・高等学校の教師をめざす学生に必要な教育法規に関する基礎的・基本的な知識と考え方を教授する。そのために、まずわが国の現行の教育法規体系等について講義したのち、日本国憲法、教育基本法、学校教育法をはじめ、わが国の中学校・高等学校を中心とする学校教育、社会教育、教育行政・財政、学校経営、学級経営、教員養成および研修などの教員制度等に関連した法規を中心に法解釈学的な検討を加え講義する。		

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 自 由 科 目 教 職 に 関 す る 専 門 教 育 科 目 (人 間 基 礎 学 専 攻)	教育課程論 (中等)	本講義では、教職をめざす学生が理解しておくべき教育課程に関する基本的概念や重要事項、ならびに学習指導要領の内容について解説する。具体的には (1) 我が国の教育課程に関わる諸法令、(2) 学習指導要領の変遷、(3) 中央教育審議会答申と指導要領改訂の趣旨ならびに特徴、(4) 中学校並びに高等学校等における学習指導要領(総則を中心に)、(5) 教育課程に関する歴史および主要な思想と理論、(6) 海外の教育課程と日本の教育課程の比較などを取り扱う。	
	国語科教育法Ⅰ	新学習指導要領の内容を踏まえ、三領域一事項についての理解を促すとともに、国語科教育の意義や目標、担うべき課題、授業形態や授業方法、さらに教材分析・教材研究の仕方について概説していく。また、授業実践事例の検証を行いながら、授業づくりの流れ(授業構想・展開・総括)を想定できるようにし、基本的な学習指導案の作成法について修得する。なお、本講座では、主に中学校の国語科教材を対象として取り上げる。	
	国語科教育法Ⅱ	三読法、一読総合法、読み研方式など様々な授業方法・指導形態による実践事例を検証するとともに、中学校・高等学校の現代文(小説・論説・随筆・韻文)と古典(古文・漢文)各分野の新しい教材開発の演習にも取り組んでいく。学習者の《学び》に寄与しうる授業づくりについて考究し、教材さがしや教材の適否の検討、さらに教材観の作成演習および学習指導案の作成演習を通じて、授業者としての問題意識と技量の向上をめざす。	
	国語科教育法Ⅲ	中学校・高等学校の説明文・論説文教材を主な対象として取り上げる。論理的に「読むこと」および論理的に「書くこと」を学習者が習得し、さらには論理的な思考を獲得するための効果的な授業方法・指導形態や教材分析について、様々な実践事例を検証しながら考究していく。学習者にとっての中学校・高等学校の6年間を見通し、系統的なカリキュラムや指導のあり方についても、授業者として意識化できるようにする。	
	国語科教育法Ⅳ	中学校・高等学校の古典教材を主な対象として取り上げる。わが国の古典を学ぶことの意義について授業者自身が理解を深めるとともに、教材分析の方法や、異なる時代の言葉や文化と学習者がスムーズに出会うことのできるような授業づくりについて、様々な実践事例を検証しながら考究していく。中学校・高等学校の6年間を見通した古典学習の系統的なカリキュラムや指導のあり方についても、授業者として意識化できるようにする。	
	書道科教育法Ⅰ	書道教育の意義と目標、また芸術教育の他教科と異なる特質を理解し、書の教育現場における具体的な展開上の問題について検討し、指導計画・指導方法・教材研究・評価について講述する。書道・書写教育史の中で現代の教育上の位置を踏まえ、魅力ある書写・書道の指導とはどうあるべきかを探求・研究する。具体的には教育上の必要な授業内容の点検とその充実に向けての授業構成の検討を行う。また臨書指導法の実例や漢字・仮名・カタカナ作品制作における範書の揮毫について検証し、更にその技量の資質向上を図る。	
	書道科教育法Ⅱ	書道科教育法Ⅰを基盤として授業をすすめる。書道科教育法Ⅱは教育実習を考慮し、演習形式の授業を取り入れ、様々な授業の実践方法を試みる。書道には漢字・仮名・漢字仮名交じり書・篆刻・刻字、更に大字・細字・多字数・少字数による制作と、書道史・書論・書道美学、文字・書体に関する学問領域と中国・日本の文学に関する素養を必要とする広範な分野であり、書写・書道教育はそこに立脚する知識・技法の習得と感性の涵養を目的としている。その目的へ向けオリジナルティーのある授業の構築をめざす。	
情報科教育法Ⅰ	本講義では、これまで習得してきた情報関連科目の知識を基にして、それらをどう実践的指導に必要な知識・技術を習得するために、次の6点を中心に授業を進める。すなわち、1. 学習指導要領の内容の理解、2. 「情報」の実践事例の学習、3. 各内容に関わる知識・技術の深化、4. 「情報」のカリキュラム編成過程の理解、5. 「情報」の学習指導案の作成技法、6. 授業実践の経験と省察である。		

授 業 科 目 の 概 要					
(人間科学部人間発達学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目	自由科目	教職に関する専門教育科目(人間基礎学専攻)	情報科教育法Ⅱ	本講義では、「情報科教育法Ⅰ」で学んだ知識を基にして、指導案の作成を中心におこなう。指導案の作成にあつては、情報科目のねらいと新学力観の考え方にに基づき、1. 問題解決を学ばせるための指導案づくり、2. 図形や動画を使った表現を学ばせるための指導案づくり、3. プレゼンテーションを学ばせるための指導案づくり、を重点的に訓練し、模擬授業をおこなって実践的指導能力の育成を図る。	
			道徳教育指導法(中等)	道徳教育は道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものである。そこで道徳の時間の特質と役割について考え、基本的な学習指導の展開を学習するとともに、指導案の書き方、板書や発問の工夫、新聞やビデオ等の資料や「心のノート」の活用法、体験的な学習を効果的に活かす具体的な指導法等について考究していく。さらに道徳の時間の指導と教科等との関連を図ったり、教師の指導に関する評価をどのように考えればよいかについて学習していく。	
			特別活動指導法(中等)	特別活動は、生徒の個性や能力の伸長、健全な心身や道徳的実践力の育成などを図る自主的実践的な活動である。そこで特別活動と各教科、道徳、総合的な学習の時間、生徒指導等との関連について学習するとともに、学級活動や生徒会活動および学校行事の特質を考え、各活動における実践的な指導内容と指導計画の在り方について学習を深める。指導にあつては、生徒指導の機能を十分に活かすとともに、ガイダンス機能の充実を図れるような具体的な指導事例を提示する。	
			教育方法学	中等教育段階の生徒を対象とした教育方法と教師の指導技術を中心とした教育方法論の基本的事項と授業づくりの基礎的技法を学ぶことを目的とする。主たる内容は、以下の4点である。(1) 教育方法学の歴史を通して基盤となる理論的背景を学ぶ(2) 授業の種類と学習モデルを理解し授業設計を行う(3) 授業を支える技術としての子ども理解の方法、メディアの活用方法等を学ぶ(4) 教育測定と学習評価についての基本的知識・技能を習得する。	
			生徒・進路指導	生徒が「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、たくましく生きていくために、特にキャリア教育を中心とした生徒指導と進路指導を学習していく。生徒自らが望ましい勤労観や職業観および職業に関する知識や技能を身に付けることができるような指導計画の立案と指導内容の工夫等について考える。特に学ぶことや働くこと、生きることを実感させ、自己の将来について考えさせる職場体験学習やマナー検定等を取り入れた体験活動の具体化を考究していく。	
			中等教育実習事前事後指導	本授業では、教育実習に係る事前指導および事後指導をおこなう。事前指導においては教育実習の意義、教職の職務とその特殊性、教師の服務事項、学級経営と生徒指導、道徳教育、特別活動、特別支援教育、同和教育の指導、ならびに学生が実習で指導する主たる教科に関する内容・指導法の確認を行うとともに、教育実習に係るさまざまな留意事項について指導する。事後指導では実習を振り返り、教科指導ならびに実習全体の反省と課題の確認を行う。	
			中等教育実習Ⅰ	教育実習では、学生が専門課程並びに教職課程で学んだことを教育現場において実践し、理論と実践の統合をはかることが目指される。具体的には、学習指導案の作成や実際の授業といった教科に関する指導はもとより、道徳や総合的な学習の時間、ホームルーム、学校行事等の特別活動などの教科以外の教育課程の指導、並びに生徒との望ましい人間関係の形成や学校という組織の中の教師の在り方等について学ぶことが期待される。	
			中等教育実習Ⅱ		
			教職実践演習(中等)	大学4年間で学んだ教職の意義、教育の基礎理論、教育課程および指導法、児童・生徒指導等に関する知識・技能と教育実習等で得られた教科指導力や児童・生徒指導力等実践力との更なる統合を図り、子ども理解や教師の役割機能に対する理解を基盤とした確かな実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその定着を目的とする。主な授業の形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。	

授 業 科 目 の 概 要					
(人間科学部人間発達学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 教 育 科 目	自 由 科 目	取 組 に 関 する 専 門 教 育 科 目 (人 間 基 礎 学 等 迄)	総合演習	人類に共通する課題あるいは我が国の社会全体に関わる課題として、ここでは「多様な場面における子どものこころの理解と対応」に焦点をあて、さまざまな教育事象の背景にある子どものこころ、社会生活場面における子どものこころ、あるいはまた文学に表現された子どものこころなどを取り上げる。これらの内容を演習として実施することを通して、現代社会における子どものこころの様子を読み解き、次世代の子どものどのような関わり方を考えるかを考え、さらにそれを具体的に子どもに対して指導できるようにする。	
			図書館資料論	古くから図書館には、様々な種類の資料が収集され、利用されてきた。印刷資料・非印刷資料をはじめとして、電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館で提供する資料について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を収集および利用業務との関連づける方法で解説する。資料の整理・配架業務、検索・利用上欠かすことの出来ない書誌コントロール、書誌データの活用法、書誌ユーティリティ等について学ぶ。	
			図書館経営論	図書館法についてまず逐条解説を行い、法律の趣旨を理解させる。図書館に関する法律、関連する領域の法律である学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法、子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法や図書館政策について解説する。図書館経営については、経営理論、職員や施設・設備等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態の多様性等について解説する。	
			図書館サービス論	図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、図書館法制定以降の図書館サービスの変遷について解説する。利用案内・貸出・予約サービスの流れと相互の関係から資料提供の基本を学ぶ。レファレンスサービス、情報発信、講座・セミナーなどによる情報提供、図書館のネットワークによる形態、連携・協力によるサービスを理解する。課題解決の支援、障害者や高齢者に対するサービス、多文化サービス等の提供、著作権遵守、接遇・コミュニケーション等の基本について解説する。	
			資料特論	情報とは何かという図書館にとって基本となることをまず考えることから始める。一般資料の他に郷土資料、行政資料、視聴覚資料、逐次刊行物など各種資料の特性と利用者に効果的に提供するための組織化について解説する。地域の情報センターとしての公共図書館にとって特に地域資料や郷土資料はその中核をなすものであり、その意義や重要性の理解を深める。最新の情報を提供する逐次刊行物や電子情報の組織化と利用者の活用を促進する実践的な能力を育成する。	
			コミュニケーション論	図書館における情報サービスにおいては、利用者と司書の間でのインターパーソナルなコミュニケーション(対人コミュニケーション)がスムーズに行われることが不可欠である。時として、不十分な情報提供や思い違いなどにより、有効な情報サービスができなくなり、利用者は不満足な状態に陥ることもある。本講義は、コミュニケーションの基礎理論に加え、現代のコミュニケーションの様相、個人のコミュニケーターとしての資質、コミュニケーション・ストレスについて検討する。	
			学校経営と学校図書館	学校図書館の基本的な事柄や、司書教諭が身に付けるべき内容について幅広く解説する。主な内容としては、学校図書館の理念、学校図書館法の制定と改正の意義、さらに教育行政と学校図書館、管理と運営、図書館活動、学校図書館メディアとその選択・提供、施設・設備と備品などについて理解を深める。また、学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と役割、公共図書館との連携協力やネットワーク、養成と研修などについて解説し、実践的な能力を養う。	
			学校図書館メディアの構成	学校図書館の読書センター機能、学習情報センター機能を十分に発揮するためには、図書を初めとする印刷メディア、CDをはじめとする視聴覚メディア、電子メディアなどが十分に備えられ、検索可能で利用できる状況にあることが欠かせない。このためには世の中に存在するメディアの中から学校図書館活動にとって必要なものを選択、収集し、これらを有効・適切に児童生徒、教職員に利用する為の資料・メディアの組織化について解説する。	
			図書館司書課程		
			学校図書館司書教諭課程		

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	自由 科目	学校 図書 館司 書教 諭課 程	学習指導と学校図書館 教育課程の展開に寄与し、児童生徒が学ぶ力を育むことが学校図書館の重要な目的であり、そのために学校図書館が実施しなければならないことを具体的に解説する。教育課程と学校図書館の関係で図書館活用教育を考え、次に図書館と図書館メディア活用能力育成の意義を知り、指導内容、指導方法の理解を深める。総合的な学習、特別支援教育における学校図書館メディアの活用や、教授法や学習活動を支援する情報サービスについて解説する。
			読書と豊かな人間性 読書活動が豊かな人間性を形成する上で重要な意義を持つということを前提に、読書指導の本質を解説する。教科教育と読書指導との違いを意識しながら、適書に出会う機会を作ること、良好な読書環境を作ることなど、具体的な読書指導を行うために必要な学校図書館のあり方を理解する。教師主導型の学校教育を、学習者の学習意欲を最優先する教育に変える為の読書指導や読書相談に取り組む司書教諭が果たすべき役割について解説する。
			情報メディアの活用 学校図書館は、伝統的な紙媒体資料からデジタル・コンテンツにいたるまで、多種多様な情報メディアに関して、学習する児童生徒に対して効果的に利用する技法を修得させる。それはメディアの歴史や、メディアの特性を認識し、そのような知識と技術の基礎を与えることによって可能となる。多種多様な情報メディアを効果的に利用する技法を小学校、中学校、高等学校の学習の場でいかにして学ばせるのか、その指導体系を考察し解説する。
留 学 生 特 別 科 目			日本語講座Ⅰ テキストで取り上げられた各文型に沿って、日常的かつ普通で親しみやすく、さまざまな相手や場面に対応する日本語会話を養成する。それと同時に、自分の意見を客観的かつ明確に書くことができるように、トレーニングする。短文づくりや短いスピーチなどの機会を多く設定し、またディスカッションの時間を設け、日本の社会・文化についての学習を進め、学生が総合的な日本語を身につけていくことを本講義の目標とする。
			日本語講座Ⅱ 前期の復習をしながら、新たなトピックや、生活している中で自らが考えたこと、疑問に思うことなどを各テーマに沿った資料を使い簡単に分析を行いながらディスカッションの資料とし、それをもとに日本語能力を向上させるとともに、異文化について考えていく。会話によるコミュニケーションに重点を置くと同時に、「読む」「書く」能力の養成にも取り組みながら、それぞれのテキスト文型について学習、理解を深めていく。
			日本語講座Ⅲ 日本語講座Ⅰ、Ⅱの表現、文法、語彙の意味、用法を理解したうえで、日本の日常生活で直面するさまざまな場面に対応する総合能力を養うことを目的とする。さらに、大学の講義や学生間での場面に応じたコミュニケーションを円滑に図るなど、大学生活に欠かせない日本語力を養成する。また、来年度新しく改定される日本語能力試験の内容も視野に入れながら、2級および1級のトレーニングにより日本語力の再確認および向上をめざす。
			日本語講座Ⅳ 話し言葉と書き言葉の使い分け、主題に沿った文章が書け、日常についての意見が文章で作成でき、日常での情報が聞き取れること、そして、場面に応じた敬語も使え、論説文を読み取り、小論文作成が出来るように訓練する。読解、文字、語彙、文型を中心に、『日本語能力試験対策』および日本語表現文型を教材とし、引き続き、日本語能力試験1級合格を目指して、日本語能力全般を一層高めることに努める。
			日本語講座Ⅴ 日本語講座Ⅴは、日本国内外のニュース、新聞報道をメインとする「時事日本語」の講義である。身近なローカルニュースから特報の海外スペシャル番組まで、日本と世界の今を解説しながら、文化や社会の動きとの関連のなかで日本語を理解させる。日本語講座Ⅴは「時事日本語前期」と位置付け、日本新聞の講義をメインとする。教材は「日本経済新聞」、「朝日新聞」等代表的な全国紙のほか、「西日本新聞」等のローカル紙も含まれる。また、必要に応じて一部の週刊誌も取り上げる。

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留学生 特別 科目	日本語講座Ⅵ	日本語講座Ⅵは、日本国内外のニュース、新聞報道をメインとする「時事日本語」の講義である。身近なローカルニュースから特報の海外スペシャル番組まで、日本と世界の今を解説する。日本語講座Ⅵは、「時事日本語後期」と位置付け、音声と映像によるニュース講読の講義である。教材はNHKのニュース番組をはじめ、民放の所謂「特報番組」や「ワイドショー」も必要に応じて取り入れる。	
	日本語講座Ⅶ	日本語講座Ⅶは「日本語能力試験1級対策 前期」と位置付け、中級レベル以上の留学生を対象に行う受験講座である。内容は「語彙、助詞、文型」等いくつかの段階に分けて講義を進め、毎回模擬テストもする。読、書、聴の基本トレーニングの繰り返しによって、スキル向上とともに本試験に備える実践的な雰囲気づくりをはかる。	
	日本語講座Ⅷ	日本語講座Ⅷは「日本語能力試験1級対策 後期」と位置付けている。前期の「日本語講座Ⅶ」の内容を引き継ぎ、模擬テストによる実践的な講義が多くなる。前期の「語彙、助詞、文型」に続き、後期は「読解、作文、聴力」に重点をおいて講義を進めていく予定である。また、模擬テストの量を徐々に増やし、実践的な練習の積み重ねをもって年末の本試験に挑戦する。過年度の試験問題と受験結果等に関する分析もある。	
	日本事情Ⅰ	日本事情Ⅰは、来日してまもない留学生のために、まず「身近な生活環境」を題材に、日本の事情を理解させる講座である。また日本の社会に溶け込むためにも「日本人の常識と非常識」や「日本人のエチケット」なども講義の一部として取り上げる。「衣・食・住」、「交流」、「世話」、「迷惑」等、日本で生活していく上で、基本的に理解しておかなければならない情報と知恵を中心に、具体的に遭遇することが予想される場面に即して講義する。身近な生活環境として、商店や市場、公共交通機関や駅周辺、などの視察も実施する。	
	日本事情Ⅱ	日本事情Ⅱは、日本社会の今を教える講義である。教室において講義する内容は、「政治と外交」、「経済と社会」、「環境と交通」、「日本の伝統文化」、「風俗習慣」、「日本人の食生活」等に多岐にわたって、広く、易しく日本社会の今を理解してもらう。教材も、文字（写真）だけのものではなく、テレビ番組とビデオを積極的に活用し、より説得力のある映像を通して日本の今を知ってもらう。さらに、教育機関、図書館、文化センター等の文化的施設の視察を実施する。	
	日本事情Ⅲ	政治・経済・企業文化・国際社会・教育・環境・資源・産業・年金・医療・文化など主にトピック的なトピックをテーマに据え、日本事情に関する知識を得ることを目的とするが、語彙力と読解力のアップを図ることも目指している。単に日本に関する知識を機械的に覚えるのではなく、伝統的な内容から新しい内容まで色々な事例を取り上げ、自分や自国と比較しながら「考え」、みんなで「話す」ことを通じて日本への理解がより深められるように展開する。	
	日本事情Ⅳ	日本事情Ⅳの目的は、日本のさまざまな領域に関する一般的知識を、教授することにより、留学生の日本に関する理解を深めることである。各領域の知識を総合することで、日本社会・日本文化についての包括的な理解ができるようになることを目標とする。日本事情について、もしくは現代文化・社会について書かれた文章を読解し、地理歴史の基礎的な知識も教授する。ディスカッションを通して、学生からの質疑に答えることにより、日本に対する理解をさらに深める。	
	日本の社会と文化Ⅰ	日本語学習を通して日本文化への理解をより高めることを目的とする。日常生活で遭遇するであろう様々なトピックについて、想像力を働かせながら、個人およびグループ単位で検討、討議する。内容は、年中行事、風俗習慣、社会通念、時事、衣食住、祝日・休日、礼儀マナーなど、身近なことをテーマに、自国文化と比較しながら、異文化を考え、本に書かれているステレオタイプのことから脱することを目標とし、相互理解をより深めることに努める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間科学部人間発達学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留学生 特別 科目	日本の社会と文化Ⅱ	日本語学習、とりわけ「読む」、「話す」ことを通して、日本社会と文化に対する理解をさらに深めることを目的とする。さまざまな角度から日本を知ることができるよう、日本の社会、政治、経済、文化、歴史、芸術など幅広い分野から、テーマを選択して、講義内容とする。留学生の視点から見る日本社会の構造や、目に見えるわかりやすい文化から、日本人の考え方など目にみえにくい文化など、さまざまな場面に対応する能力を養うことを心掛ける。	
	比較文化Ⅰ	留学生科目であるが、いわゆる「比較」とは母国と日本との比較だけではない。ひとつの事象や対象について違った観点から判明したことを比較することや、過去と現在との状態を比較すること。そして自分の文化をあらためて考え直すことも「比較」である。大事なことは、「比較」という方法を通して客観的に深く広く理解する態度と発想、方法を身につけることである。日本社会や文化への入門であると同時に、大学生として社会と文化の見方・調査法について解説し、比較文化Ⅱの準備とする。	
	比較文化Ⅱ	比較文化Ⅰで身につけた知見や発想法をもとに、各自の調査や学習を発表し互いに討議することが中心となる。この段階では、「比較」ということが両国文化の並立・対照ではなく、比較を通して自文化をより深く理解し、自己理解に益するものであることを学ぶことになる。同時にこのような実践の繰り返しを通して、日本語によるプレゼンテーション・コミュニケーション能力も養成し、帰国した後に実力ある社会人として母国と日本との架け橋として社会貢献をする人材を育成することをめざす。	